

先日、新聞を読んでいた際に、ある記事が目にとまった。「日本、アフリカ支援へ 3.2 兆円」そこにはそう書かれていた。日本が今後 5 年間で政府開発援助の 1.4 兆円を含めた最大 3.2 兆円をアフリカ向けに拠出するという内容。現在、目覚ましい経済発展を遂げているアフリカ諸国の更なる成長を後押しする目的があるという。調べてみると、日本は以前から発展途上国などの支援に力を入れてきたそうだ。では、3.2 兆円という多額の拠出金はどこからきているのだろう。

素朴な疑問をもった私は詳しく調べてみた。意外にも、その答えは国税庁のホームページにあった。このプロジェクトには「税金」が大きく関わっているという。

日本では国民の納める税金を、社会保障関係費として医療や福祉にあてたり、公共事業関係費として道路補修や水道管理を行うなど、様々な形で歳出している。その 1 つに「経済協力費」がある。これは国際社会の平和を願い、我が国の税收の一部を発展途上国の自立支援にあてているもので、アフリカへの拠出金もそこから歳出されている。納めた税金がこうして利用されていることにはとても驚いた。しかし、自分の納めた税金がほんの一部であれ、平和な国際社会づくりの資金になるのだと思うと嬉しかった。

一方で日本も財政の危機に直面していることに変わりはない。税金に関わる問題の 1 つに「少子・高齢化」が挙げられる。日本の人口は今、減少傾向にあり、労働力人口もそれに比例している。その為、高齢化が進むにつれて福祉や医療などの社会保障費が増えていくにもかかわらず、少子化で費用を負担する人材が減ってしまい、財源の確保が難しくなるのだという。それに伴い今、日本では「消費税増税」という一つのキーワードが挙げられている。高齢者を含めた国民全体で税金を納め、新しい社会に対応していく目的がある。今までなにげなく消費税を払っていた私だが、その五パーセントがどれだけ大切なのか痛感した。今回、私には税について少し知ることができたが、私のように税金についての知識が曖昧であったり、不十分であったりする人は沢山いると思う。国民一人ひとりの担う、納税という義務を学ぶことは大切なことだ。

私には叶えたい夢がある。それは発展途上国の支援に携わることだ。支援団体での取り組みが進められているとはいえ、学校に通えない子供や、安全な飲み水を確保できず感染症を患っている人達が世界にはまだ沢山いる。そんな人達の力に私はなりたい。そのために今からできることは言語を勉強することだ。国民の納めた税金によって、毎日勉強することができていることに感謝しながら。

近い将来、私は納税という義務を果たせる人になりたい。今、しっかり税金を納めてくれている大人達に恩返ししていくためにも。

花は咲く

小樽市立菁園中学校 1 年 山内 茉莉華

市内の合唱団や、学校の合唱同好会に在籍している私は、東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を歌わせていただく機会が、今まで何度かあった。歌う度に、発生当時テレビ画面から流れてきた悲慘な映像と、町がすっぽり抜け落ちてしまった様子、家族や親しい人を失い悲しみに暮れながら、不便な仮設住宅で暮らす人々のことをいつも思う。

一つの市や町、村を、元ある姿に戻すために、どれ程のお金が必要なのだろう。どうしたら、被災した皆さんが、多くの悲しみを乗り越え、ニッコリ笑える日が来るのだろうか。

大きな被害をもたらす天災にみまわれた時、義援金やボランティア支援は、一時的には大きな意味を持つのだろう。しかし、長い目でその地域の沢山の人達を支え、本当の意味で復興を支援するためには、国全体で支え、沢山のお金を必要とするのだと思う。その国の支援の源が、税金なのだと思うと、それはとても大切なことに思えた。

ただ、限られた財源の中で、私達の教科書や、大好きな学校、安心して暮らすための警察や消防、医療や福祉、毎日歩く道路や公園など、私達にとって無くてはならない大切なものを支えるために使うのだから、その使い方や割り振りは、よくよく考えて、本当に必要な場所やもの、人に使われるように、予算や使い道を考える人達にお願いしたいとも思う。必要性の少ないところは節約して、急を要することや、多くの人の幸福につながることに優先して使うようにして欲しい。そうでなければ、本当に困っている人や、整備しなければならない所に使うことができなくなってしまうと思うからだ。

同時に、少子・高齢化の影響により、社会保障費の枯渇が問題となっていることも知り、私達国民も、みんなで力を合わせて、「納めるべきものは、しっかりと納める。」生活保護の不正受給など「税金の無駄使いはしない。」という考えも、大切なのだと思った。

テレビのニュースでは、消費税の増税や社会保障費の問題が、毎日のように流れてくるが、大きく未来を見据えて、社会のために一人一人が、誠意を持って生きていくことが大切なのだと思った。

もうすぐ東日本大震災から三度目のお盆が来る。あの日、波にのまれた人や火災にみまわれた人の魂が帰る故郷が、人々の笑顔あふれる活気ある様子を取り戻すことができるように、美しい花を咲かせる場所になるように、大切な税金が適切に使われることを強く願っている。

マララさんのおかげで気付いたこと

秋田市立山王中学校 3 年 加藤 紗弥

「一人の子ども、一人の先生、一冊の本、一本のペンが世界を変えることができます。」

これは、今年の七月十二日にマララ・ユスフザイさんが、国連でスピーチしたときの言葉です。彼女は、パキスタンで女子が教育を受ける権利を求め、イスラム過激派「タリバン」に頭部を銃撃されました。しかし、奇跡的に回復し、テロや貧困をなくすには、

「教育こそただひとつの解決策です。教育を最優先に。」

と世界に向けて訴えました。十六歳のたった一人の少女が、教育を受けるために命がけで活動をしているというこのニュースを聞いて私はとても驚きました。

私たちにとって学校に通い勉強をするということは、普通のことです。「義務教育」だから、学校は嫌でも行かなくてはならない場所と思っていました。でも、普通だと思っていたことが、実はとても恵まれたことだったのだとこのニュースを見て改めて気付かされました。

私たちが、当たり前のように教育を受けられるのは、税金のおかげです。調べてみると、小学生が学校に通うためには、年間約八十五万円も必要でした。中学生だと年間約百万円。義務教育九年間で一人当たり約八百万円もの税金が使われていたのです。今は、高校の授業料まで無償化になっています。私は、日本に生まれて本当に良かったと思いました。

秋田県では、教育にとっても力を入れてくれています。教科によっては、先生が教室に二人ついてくれるという授業体制がとられていたり、コース別に少人数での授業を受けられたりしたのは、税金の使い道として、教育を重視してくれていたからだと初めて知りました。県の歳出予算の割合でいくと、約二割が教育費だったので、驚きました。ありがたいなという気持ちと同時に、しっかり勉強しなければという使命感のようなものも感じました。

マララさんのスピーチは、私に教育の大切さ、そして税金のありがたさに気づかせてくれました。豊かな日本に生まれた私たちは、恵まれた環境にあることをもっと自覚し、感謝すべきだと思いました。日本の税金の一部は、アフリカなど発展途上国の教育支援にも使われているそうです。日本の税金が海外の子供たちの教育の手助けになっていると知って、うれしいようなちょっと誇らしい気持ちになりました。

私は、もっと一生懸命勉強をして、将来ちゃんと仕事のできる社会人になりたいです。今、税金を納めてくれている大人の人たちのおかげで、私たちが教育を受けることができます。いつか私も納税者となり、私たちが育ててもらったように、次の世代の子供たちも充実した教育を受けられるように支えていきたいです。

困った時はお互い様

秋田大学教育文化学部附属中学校 3 年 長谷部 槇乃

税金は必要です。そして、大切なものです。

社会科の学習を通じて、税金は、福祉の向上や生活環境の整備、産業の発展に使われることで国民の生活を向上させる役割があることを知りました。このように税金は大切な財源です。しかし、今日の日本は世界でも類を見ない勢いで少子高齢化が進んで労働人口が減少し納税者が少なくなっているのが現状です。そのため財源の確保が難しくなっています。また、調べてみると、国債の発行額が先進国の中で最も多く、その利子や元金を支払うための財政負担が大きいことに驚きました。

私たちは、家族や地域社会、学校などいろいろな社会集団の中で暮らしています。誰もが一人では社会を営むことは難しいため、周りの人たちと協力し、よりよい生活を築こうと願うからだと思います。二〇一一年に日本を震撼させた東日本大震災の被害額は、十六兆九千億円にも上ります。復興施策に必要な財源を確保するために課せられることとなった復興特別税は、一人ひとりの復興にかける思いが形になったものであると私は思いました。復興特別税による今年の歳入予算はおよそ一兆二千二百四十億円だそうです。このようにたくさんの税金が復興のために東北に集められている事実を知り、私は、東北人の一人として納税者の方々への感謝と同時に、困っている人のために、将来喜んで税金を納めたいという気持ちが生れました。

「困ったときはお互い様」というのは祖父の口癖です。昭和九年生まれの祖父は、私が教科書でしか知らない日中戦争や太平洋戦争を肌で感じ、第二次世界大戦後に焼け野原になった日本を直に見て、敗戦後の日本の復興のため額に汗して懸命に生きてきた人です。祖父は自分の生きてきた時代を私たちに語ろうとはしないのですが、きっと私には想像もつかないほどの我慢と努力を当たり前のように課せられた時代だったのではないのでしょうか。祖父の口癖は、私が年齢を重ねて学習を深めるにつれて一層私の中で重みのあるものになっていきました。中学生の私たちが最も身近に触れる消費税をはじめ様々な税金は、日本国憲法第三十条により納税の義務が定められています。私たちが不自由なく暮らせるのは、この国を頑張って支えてきた人たちの「困ったときはお互い様」の気持ちから生まれた税金のお陰によるものだとは私は祖父の生き方から学びました。税金は、大切なものだからこそ憲法で定められているのです。

今日の日本はまさに「困ったとき」です。「お互い様」と手を差し延べる納税者の手のぬくもりを感じて、みんなが税金のあり方を考えていかなければならないと思いました。受け継がれた税金のバトンは、私たちが将来しっかりと受け取ります。そして、互いに協力し、支え合う社会を作り上げていくという税金の役割を次の世代へと確実につなげていける責任を持った大人になりたいです。

税金を未来へ

茨城県立並木中等教育学校 2 年 田崎 遥香

太陽が照りつける真夏の公園に大きなショベルカーが何台も入っていく。ここは、普段の日ならサッカーをする小学生の歓声やシートをひいてくつろぐ親子連れでにぎわう市民の憩いの公園だ。ショベルカーは大きな音を立てて芝生をはがし、土を薄く削っている。

私の住む地域は、いわゆるホットスポットである。震災による原発事故の影響で放射線量が高いのだ。大がかりのこの作業は、市内すべての保育園、幼稚園、小学校、中学校、そして家庭にまで及ぶ。すべて税金でまかなわれているのだ。私の家庭では、夕食の時にこのことが話題になった。消費税が上がることをだいぶ気にしていたはずの母が、

「安心したね。税金は本当にありがたいね。個人ではどうにもならないもの。」と、これまでとはまるで違うことを言った。そうなんだ。私たちは目先のことに真っ先にとらわれがちで、恩恵を受けたそのときに初めてその価値の重さに気付くのだと思った。

消費税が四月から上がることについても話した。私は、お小遣いで買える物が減ってしまうことを心配していた。しかし税金は、教育、医療、警察、水道など私達の身近な暮らしを支えるために使われている。日本には多くの借金があることも知った。私もこの国の一員なのだ。目先の個人の利益だけを考えるのではなく、将来の日本のあり方を考えていく事が大切なのだと思った。

私の住む地域の暮らしは除染が進み元に戻りつつある。ふと、震災のことを思い出した。

「津波が来て、娘を必死で守っていようと思っていたのに手が離れてしまったんです。」

私が特に衝撃を受けた母親の叫び。映像で見た被災地の姿。無くなった町並み、無くなった活気、無くなった当たり前の日常。今でもしっかりと頭に焼きついている。ニュースで取り上げられることが少なくなった三年目、被災地の方の支援はどうなっているのだろう。

調べてみると「復興予算」として東日本大震災の復興に使うために、一般予算と別に設けられている予算があることが分かった。政府は、「五年で二十五兆円」と計画しているという。このうち、十・五兆円は「復興増税」としてまかない、今年一月から二十五年間は所得税額の二・一％が上乘せされ、十四年六月から十年間は住民税に年に一千円が加わるそう。つらい思いをした方々の元の生活を取り戻すために大切に使ってほしいと思う。

世の中に楽な労働は無いと思う。必死に働いて納めたお金だ。税金には働いて納めた人々の「この国を安心、安全な国にしたい。もう一度活気のあふれる深い絆でつながる国にしたい」という願いが託されていると思う。決して無駄にしてはいけないと思った。

私が社会人になったときは、これまで税金を納めて支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに納税したい。そして、未来の日本を支える一員として貢献したいと思う。

救命士の父から学んだこと

下野市立石橋中学校 3 年 小川 莉沙

私の父は、今改めて見ると、とても怖い顔をしています。私の父は消防署で、救命士をしていました。私が二歳半の時に、使い終わった酸素ボンベをもう一度使用してしまい、救急車が爆発する事故にまきこまれました。父は患者さんを助けて、早く病院に引き渡そうとし、自分が犠牲になってほぼ全身をやけどしてしまいました。

大変なやけどでした。指がくっついてしまって関節がなくなってしまうたり、血が少なくなってしまうと、たくさん輸血をしたり、いろいろな所の皮膚を腹部などに移植したり、何度も何度も手術を受けました。手術をするたびに父に会うことができなくなっていたので、たくさん悲しい思いをしました。父はこのやけどのため、見た目がすごく恐くなってしまったので、デパートやスーパーなどに行った時に、じろじろ見られてしまったり、

「なんであんな顔なの」

と、小さい子に言われたこともありました。私が父の立場だったら、文句を言ったり、がまんができなくなってしまうと思います。

でも父はこうきっぱり言いました。

「お父さんは、救命士として、公務員として当然のことをした。その結果やけどを負ってしまっただけのことだよ。」

そんな父を見ていると、とても強い人だと思います。私は父を尊敬します。父は今も消防署で働いています。

私はもし税金がなかったら、急病人がいるのに、救急車をよんでも来ないことを聞きました。もし、私や私の大切な人が事故や急病だったら、とても心配になります。不安です。私の住む下野市には大きな大学病院があり、となり町にも大きな大学病院があるため、毎日何度も救急車を見ます。そして救急車の中には、父のような強い使命感を持った人たちが懸命に働いているのだと思います。

私は下校途中にドクターヘリを見たことがあります。事故や急病で一一九番をした場合緊急性の強い時には、消防署から連絡をしてドクターヘリが出動するそうです。栃木県内全域を、約二十分でカバーしていることを知り、とても驚きました。今までだったら救えなかった命が、ドクターヘリによってどれだけ助けられているのでしょうか。

ドクターヘリは、国及び県から拠出された補助金で運営されているそうです。日本の救急医療はそこで働く人たちの熱意と税に支えられていると言ってもよいのかもしれませんが。救急車やドクターヘリを見ることが日常的になっている現在では、私たちは改めてそれらのありがたみを感じるようになっていきます。しかし、それらがなかったら、今の私たちの普通の暮らしを守ることができないのだと思います。そのためには、私たちは税がどのような場で、どう使われているのかをきちんと知る必要があると思います。

尊敬する父は今日も元気に働いています。

税と命

太田市立休泊中学校 2 年 森島 蓮

「私達の命は、税金に守られている」と言っても過言ではありません。私達の健康や生活を守るために、国民一人あたり約十一万円の医療費が使われています。総額では、約十四兆円もの莫大な税金が使われているのです。その税金は、誰が納めてくれているのだろうと考えたら、私が会った事もない人の税金にも助けてもらっている事に気づきました。

私は、今年の夏おたふく風邪にかかりました。高い熱が一週間続いたため、病院に三日通院しました。その時に、母がお金を支払わず薬を受け取った事を不思議に思いました。後で聞いてみると、私が住む群馬県では中学校を卒業するまでは、医療費が無料だと知りました。私達が、いつでも安心して必要な医療を受ける事のできる制度です。けがが多く病気にかかりやすい年齢の私達には、とても助けられています。そして、このように病気から体を守るために、予防接種を受け体に免疫をつけます。万一、感染してしまっても予防接種を受けた事により、軽い症状で済むのです。重い症状の場合、後遺症が残ったり命を失う場合もあります。私達は、税に命を守ってもらっているのです。

また、私達は税金に育ててもらっています。私達が、食べている給食を作るための経費は、年間で約二十億円かかるそうです。税金の補助がなかったら、今の給食費では食べられません。私の母は、学校が長期休暇に入るといつも献立てに悩んでいます。学校では、毎日違う献立てであるのはもちろんの事、育ち盛りの私達の健康を考えてくれている献立てです。給食の時間は、体を育ててくれるだけでなく、心も育ててくれる大切な時間です。家族以外の先生や友達と食事をする事によって、協同作業の大切さや食事のマナーを学ぶ事ができます。私達は、親や先生方だけでなく、たくさんの方々の税に支えられているのです。

私達は、税金制度の整った日本に生まれ、自分の居る環境が、どれほど恵まれているのかを改めて感じました。中学生の私は、まだ税金に支えられてばかりです。今できる事は何かと考えると、大切な税金を無駄にしない事です。たくさんの人達に守られている命を大切に、今を一生懸命に生きる事で恩返しをしたいです。私は、まだ数年は税に助けてもらわなくてははいけません。社会に出て働くようになった時には、私が納めた税で皆さんを支えていきたいです。

「目の前が真っ暗になり、近い未来もくっきりと思い描くことができなかったよ。」

昔を振り返りながら、祖母は、ゆっくりと話してくれました。当時、祖父、祖母、母を含む子ども四人が家族としてごく普通に暮らしていた時のことでした。祖父が脳卒中で倒れ、大手術で一命をとりとめたものの、左半身麻痺で手足が不自由になってしまいました。もちろん、今まで健康な体で勤めてきた仕事も続けられる状態ではなくなりました。小学生から一歳までの四人をこれからどうやって育てていこうか……。祖母は、不安で胸が押し潰されそうになりながらも、祖父の術後の体を気遣い、預けている子どもたちを心配する毎日。そして、祖父の体調が落ち着いてから、市役所へ相談しに行き、今後の生活の方向性を見い出していったそうです。

「もちろん、お母さんが家族を支え、頑張ってくれたのが大きいけれど、国や市にも助けられて、今の私があり、あなたが生まれてきてくれたんだよね。」

母はそう言いました。

私は社会科の授業で税金の使われ方について教わりました。今まで、私は「税」を身近に感じる事がなく、大人が支払っているものというのとらえ方をしていました。しかし、毎日通っている学校、そして警察や消防、病院、ゴミ処理なども税によってまかなわれていたのです。まさに、税という財源をなくして、私たちの当たり前前の生活は維持できないのだということを初めて知りました。

今、働いている世代の大人の方々が支払ってくれている税。働いて得た大切なお給料の中から様々な税を支払ってくれています。その税が、どのように使われているのか、関心をもって知識を得て、理解を深めていく必要性を強く感じました。まだ、私は税を支払う義務を果たせる大人にはなっていません。けれど、その時まで、これからの未来をよりよく輝かせるために無駄なく、大切に使える税の使い道を意識していこうと思いました。

税によって支えられ、生かされて、守られて、受け継がれてきた生命がある。祖母も母も税によって生かされ、守られた一人だったのです。そして、私は受け継がれた生命だったのです。誰かが困った時に、国民全体でその誰かを支える制度。一人一人の負担を少なくして、将来が見えないほど不安なその誰かを協力し支え、助ける素晴らしい制度があったからこそ、その人の未来を救うことができたのだと思います。今の自分があるのは、税のおかげだという感謝を忘れずに、これからも生活していかなければいけないと思いました。様々な形で、その感謝と恩恵は巡り巡って、国と国民を潤し、優しさと愛と希望が満ちあふれる国を築いていくのだと信じたいのです。税を納めることが義務ではなく誇りとして感じられる、支え合うことのできる社会。そんな社会の一員となっていきたいです。

大切な税金とふるさと

長岡市立東中学校 3 年 大保 菜南子

私は新聞を読んでいる時に、「県へのふるさと納税最高に」という記事を見つけました。最近、学校の授業で、税に関して学んだばかりでした。それで、これもたくさん種類のある税金の中の一つなのかなと興味をもち、調べてみました。ふるさと納税は、生まれ育った故郷でなくても自分が貢献したいと思う都道府県、市区町村を自由に選んで納税するという制度です。さらに納税者が税金の納付先や使い道を選択できるという仕組みになっているそうです。自分のふるさとでなくても、自らの意思・選択で納税してくださる人が増えたということは、とても嬉しいことだと思います。

八項目の選択項目の中で、一番多かったのが「災害の復旧・復興」だそうです。今でも鮮明に記憶に残る東日本大震災。それから日本各地で豪雨災害、地すべりなど、自然災害がたくさん発生して不安な気持ちになります。そういう状況から、「災害に強い県になってほしい」という思いがこもっているのだと思います。私たちの住む新潟県のために納税してくれている人たちがいるから、こうして安全に暮らせたりできるのだと、改めて税金の有難さを実感しました。

その他にも、例えば長岡市では、「夢づくり教育」にも税金が使われています。私たち、子供たちが参加できるスポーツ・文化・様々な経験ができる機会を作っています。

「国が興るのも、街が栄えるのも、ことごとく人にある。食えないからこそ、学校を建て、人物を養成するのだ」といった小林虎三郎の言葉があります。この米百俵の精神を基に、税金を使い教育に力を入れています。それが、人材を育成することにつながり、長岡の明るい未来にもつながっていくのだと思います。そして、ふるさとの発展を願う人々の気持ちが、税金を通して私たちを育ててくれているのではないのでしょうか。その気持ちに感謝するとともに、こういう機会にもっと積極的に参加して、自分の成長に役立てていきたいです。

私のふるさとは、三つあります。出生地の鹿児島県。小学時代を過ごした愛媛県。そして中学時代を過ごしている新潟県。どの土地にも、大切な友達や家族がいます。たくさんの思い出があります。私も、将来ふるさとの役にたてるように、きちんと納税できる大人になりたいです。

どこに住んでいても、自分が支援したいと思う場所を自由に選択できる。税金という形で、自分の気持ちを届けることができる。納税から生まれる絆や思いやり。明るい日本を作るための種まきとして「ふるさと納税」という素敵な方法を、たくさんの人に知ってもらえるようにこれからも周りの人に話していきたいです。

税の役目を最大限生かすには

長野市立東北中学校 3 年 間島 晴輝

近頃の日本では消費増税について大きく取り上げられているが、何故だろうか。税金は最終的に自分達のために使われるのだから良いではないかと思う。しかし、日本人はじめ世界中の人々、特に東洋の人々が税にあまり良くない印象を持つのも理解できる。かつて多くの指導者は税を国民に還元しなかったという歴史があるからだ。ただ、今の日本はこのままでいいのだろうか。

先日、ある研修旅行で米国へ行き、三つの都市を訪問した。有名な博物館も無料か無料同然の額で見学でき、海外はいろいろと得だ、と内心ニコニコしつつショッピングでお土産を買ったところ、各都市ごと、レシートに「TAX 6%」「8.875%」「9%」の文字。

「えっ、同じ米国なのに税率違うの？しかも高い。」
と、とても驚いた。しかし、よく考えてみると、だからこそ合衆国であり、博物館も格安で入れるのに違いない。こういうことが世界にあるとは知っていたものの、実体験は新鮮だった。

さらに現地の人に聞いてみたところ、米国には消費税がものすごく高い州や、逆にほとんどかけない州もあるという。人々は安さを求めて他の州へ買い物に行くそうだ。EUでも同じようなことがあると聞いている。しかし、これは良くないと思う。自分の住んでいる所を良くするために払う税金である。高いということは恩恵も大きいと思えばいいだろう。

また、税金の使い道を決めるのは大なり小なり議会である。日本国籍を持ちながら米国で長年企業を経営した方に話を聞いたところ、米国に膨大な税金を払ってきたのに選挙権がないとおっしゃっていた。これでは税金が自分に還元されるかわからないではないかと驚いた。しかし、日本も同じである。在日外国人はどう感じているのだろうか。同じく話を聞いていた、日本で働いているスウェーデンの方は、母国では半永久滞在の外国人に住んでいる町の選挙権は与えられると言っていた。確かに国政参与を外国人に認めるのは、人口爆発が起きている国がある現代、危険かもしれない。しかし、自分や周囲の人が住みよい環境をつくるために払う税金であるのだから、最小単位の選挙権は与えるべきだと思う。

スウェーデンは税率が高いかわりに社会福祉が最も充実しているといわれている。昔は高い税率を課す国は住みにくい国、だったかもしれないが、北欧諸国を見ていれば、今は違うと言えるだろう。高税率が定着し、それに関する政治制度も整っている北欧諸国は、税についていえばまさに先進国だろう。工業分野では先進国の日本や米国も、増税反対や納税逃れの上の社会問題で苦しんでいる。このようなことは、何も税と工業に限ったことではない。そこで、各分野の先進国が互いの得意分野をもって協力していくべきと思う。

身近なところから税を考える

市原市立ちはら台南中学校 3 年 伊藤 克仁

ある日の朝、

「行ってきます。」

と家を出て学校へと向かう。歩道に置かれた黄色いネットの中にはたくさんのゴミ袋。今日は燃えるゴミの収集の日だ。いつもの道をまっすぐ行くと、つきあたりには公園。次に大きな通りに出て、歩行者信号のボタンを押して横断歩道を渡る。そういえばこの信号ができる前は、多少遠回りをして、信号のある交差点で道路を横断していた。

救急車のサイレンの音が聞こえる。僕の通学している中学校へは五分程で到着する。その間に、六年間通った小学校を通り抜ける。さあ、学校に着いた。

授業が始まる。今日はパソコンで修学旅行のしおりを作成した。

道路、公園、信号、横断歩道、小学校・中学校の校舎、椅子、机、パソコン……。目に見え、自分が使用したものにかかる費用が税金によって賄われている。また、ゴミの収集、救急車による病気やけがを負った人々の搬送、学校の先生の授業など、物資ではないサービスもある。

こうして半日の生活を振り返っただけでも、僕たちの生活が税金によっていかに便利、安全になり、また豊かになっているかがわかる。

そこで、税金について少し調べてみることにした。国税庁のホームページの「税の学習コーナー」を開いてみると、税金の種類、税金と生活のかかわりなどの資料が載っているが、税にまつわるエピソードの中に興味深いものがあった。福澤諭吉が、一八七二年に発表した「学問のすすめ」の中で、税金について述べている文がある。要約すると、「政府は法律を作って、悪人を取り締まり、善人の生活や安心を守る。そのためには多くの費用が必要になるが、政府自体にはそのお金がないので、税金としてみんなに負担してもらう。これは政府と国民の双方が合意して結んだ約束である。」という文だ。

明治の初め、今から約一四〇年前に既にこのような考え方を福澤諭吉は国民に示していた。ここで注目すべきことばは、「約束」ということばだ。約束はどちらからか一方的にするものではなく、双方が納得した上でするものだ。そして守られるべきだ。また、信頼関係が必要だ。この約束の内容は、国民は納税の義務をしっかりと果たすこと、政府は法律に基づいて税金を有効に使い、無駄をなくすことだと思う。約束を守るには、双方が努力しなければならない。

今、僕は中学生で、自分の所得から税金を納める立場ではないが、将来、税金を納めるようになる。そうなれば、今よりもずっと税金の使われ方などに関心が出てくるのではないかと思う。そうなった時に、この「約束」ということばを思い起こしてみようと思っている。

高齢化と税

学校法人専修大学松戸中学校 3 年 仲村 美里

私の祖父は高齢で身体障害者二級です。自宅にいる時の部屋の移動は、四つんばいで這い、外出時は車いすを利用しています。週に三回のデイサービスではいつも介護老人保健施設からの車に直接、車いすで乗り込み移動しています。その介護老人保健施設の福祉車両や障害者用改造車は、自動車税、自動車取得税が減免され購入しやすくなっています。

また、車いすの購入に関しても一定の要件が整えば、消費税は課されません。これらの減免措置は国民の税金である国税や地方税等からの補助で成り立っていると思います。介護は祖母はじめ家族だけで解決するのではなく、社会全体で考えなくてはなりません。祖母も高齢のため、祖父の介護は一般的に言われている老老介護となり祖母自身の負担にもなります。その場合、父や母さらに兄や私も含め家族全員で介護をする状況になります。

私自身この夏休みに一日ですが、介護施設で介護の手伝いをしました。実際介護をしてみると、おじいさんやおばあさんと歌ったり話をしたりする事は楽しかったのですが、それ以外の食事や入浴の手伝いでは肉体的、精神的にかなり辛いものがありました。実際祖父の介護といっても、家族は仕事があったり学校に通ったりといつでもできるとは限らないのです。やはり介護老人保健施設を頼ることにもなるのですが、現実的にはその施設の数やそこに働く人材も不足している状況です。したがって、介護施設を増やすことや介護に関わる人材の育成が必要になります。一般企業に頼るだけでなく、国も協力していかななくてはならないのです。それには資金が必要です。資金問題を解決するためには、国の補助が欠かせない存在です。国の補助があって初めて、十分な介護の諸問題解決に前進すると考えます。

今注目されている消費税五%から八%への増税は、単純に国の財政破綻を防ぐためだけでなく社会福祉目的に利用すること、その税収増により多くの国民への社会還元つまり介護のための資金確保が可能になると考えます。私たちは商品などを購入する際に法人や事業者が消費税を支払っているが、その消費税を法人や事業者が国に対して未納になっている割合がかなり高いそうです。高齢化社会に対しての十分なシステムが構築されていませんが、資金がなければ前進しません。消費税の税率を増やしても税金の未納者を減らさなくては、何の意味もありません。私は社会人になったら必ず税金を納めて最低限の国民の義務を果たし、近い将来やってくる高齢化社会の対策や家族、地域社会の幸福のために協力したいと考えます。

私が思う税のあり方

学校法人山脇学園中学校 3 年 古山 史萌

私は小学校 2 年生の 1 年間をドイツで過ごしました。ドイツでは日本とは全く違う税率で消費税を設定しています。今、消費税の増税問題が議論されている日本にとって良い解決策になるのではないかと思います、この方法を提案します。

まず、ドイツの消費税について説明します。日本の消費税率は一律 5 % なのに対し、ドイツは 7 % と 19 % の 2 種類があります。7 % は主に野菜や果物、肉類などの食品に加え、書籍などの生活必需品が含まれます。19 % はアルコール類などの必ずしも生活に必要な、ぜいたく品が含まれます。ただ、基準があいまいなところがあります。そのため、一応レシートには一つ一つ何 % か明記されていますが、もし日本で適用する時には、きちんと細かく決めるべきだと思います。また、もう 1 つ特徴的なところがあります。それは外食についてです。例えば、ファストフード店に行くとしみます。その時に、店内で食事をすると 19 % の消費税が課せられますが、テイクアウトにすると 7 % しか課せられません。なぜ違うのかは、おそらく「外食」はぜいたく「買って帰って食べる」のは、材料を買って家で作って食べるというのと同じだとみなされるからでしょう。

次に「個別消費税」について説明します。この税は「アルコポップ税」「ビール税」「蒸留酒税」「コーヒー税」「エネルギー税」「発泡ワイン税」「電気税」「たばこ税」「中間生産物税」の 9 種類あります。ここでは「エネルギー税」と「電気税」について紹介します。日本では電気税はエネルギー税に含まれますが、ここでは別物として説明します。まず「エネルギー税」。ガソリンを例にあげて話します。日本は 1 l あたり約 56 円なのに対しドイツは 1 l あたり約 105 円で、約 2 倍もの税金が課せられています。そのお金はほとんど環境保護に使われているので、国民から不満は出ません。日本もけっして環境が良いとは言えないので見習っていくべきだと思います。次に「電気税」。日本では 1 kw あたり約 0.4 円なのに対しドイツでは約 2 円で、こちらは約 5 倍です。そのためドイツの人々は、とても節電を心掛けています。日本も東日本大震災以降、電力不足が問題になっています。私たちももっと資源を大切にすべきだと思います。

これらのことから、私は具体的に以下のことを提案します。まず食料品や衣類など、生きていく上で必要不可欠なものは税金をできるだけおさえ、なくても生きていけるものに関しては増税するべきだと考えます。今後も税金の問題は、日本の成長に大きな影響を与えたいと思います。私も国民の 1 人として、真剣に考えていきたいです。

私はチョコレートが大好きです。なぜなら、とても甘く、幸せな気分になれるからです。しかし、その美味しいチョコレートの裏には児童労働という事実が隠れている場合があることを初めて知り、衝撃を受けました。

私はこの夏、海外の児童労働について書かれてある本を読む機会がありました。そこには、まだ四歳の少年がカカオを獲るという過酷な労働の事実が書いてありました。彼が一日にカカオを沢山獲っても、たった一日分のご飯代にしかないそうです。そしてそれには数え切れないほどの子どもが携わっているといいます。この仕事のために、彼らは学校に行くことも許されないどころか、チョコレートの存在すら知らないそうです。この事実を知った瞬間、私は何でまだ幼い子供が働かなければいけないのか、疑問に思いました。

それに比べて日本はどうでしょうか。国民の税金があるおかげで私達小中学生は毎日無料で学校に通うことができ、教科書も税金によって国から支給されています。何でも学ぶことが出来て、毎日豊かで笑顔と笑いの絶えない日々を送ることが出来ています。

「税金なんてなくなればいいのに。何で払わないといけないの？」という人が少なからずいますが、私はそうは思いません。今、税金があるおかげで私達は幸せに暮らすことが出来ています。もし税金がなくなったらどうでしょうか。日本国民は、今の豊かな生活は送れないと思います。だから、私達は今の日常生活を『当たり前』とっていてはいけないと思います。日本に住んでいる私達の日常生活は『平和』そのものなので、この有難い環境の中でしっかり勉強し、今しかないこの時間を大事に過ごす必要があると思います。私は児童労働についての本を読んで、そのことに気付くことができました。

また、私は地域のボランティア団体に所属しています。小学生を対象としたイベントの企画運営、地域清掃や農業体験、地域行事の参加協力等を行っています。リーダーに必要な資質の向上を目指しているこのボランティア団体で活動をしていると、自分でも責任感が強くなったと自覚でき、『成長』を感じることが出来ます。私は、今回、このボランティア団体も税金で成り立っていることを知り、これもまた、自分が更に恵まれた環境の中にいることを改めて気付かされました。

私は今、学校へ通わせて頂いていることにとても感謝しています。今年は義務教育最後の年になります。今まで、様々なことを学ぶ環境を与えて頂いた恩返しに、私もそれに報いることが出来る、そして日本の子供達だけではなく、世界の子供達も支えていくことが出来る大人になりたいです。私が社会人になったら、きちんと税金を納めて、未来の子供達が何の心配もなく学校へ通える様な、そんな環境を作る一端を担えたらと思います。

納税の義務と誇り

八王子市立第七中学校 3 年 小出 学

納税は勤労や教育と並ぶ国民の三大義務の一つだ。でも、勤労や教育は、その義務に誇りを持って果たす人がいるのに、納税の義務に誇りを感じている人は少ないと思う。納税の義務は、他の二つの義務とどう違うのだろうか。他の二つの義務を果たす時とせめて同じ程度に、納税の義務を果たす時にも誇りを感じる方法はないだろうか。

「お金を取られて嬉しい人はいないわよ。」

と母が言った。僕もそう思う。普通に考えて、限られた収入から税金を納めて喜びを感じるはずがない。では、あとの二つはどうだろうか。勤労は、働くことでその報酬を得ることができる。教育は、生きる上で必要な知識を得ることができ、しかも義務教育は無償である。もちろん、勤労するためにはまず就職しなければならないし、就職に必要な能力を身につけるには教育を受ける必要があり、その教育にはお金がかかる。中学までの義務教育は無償と言っても、部活動や修学旅行にはお金がかかる。高校や大学まで行けば、なおさらだ。しかし、それらは、自身の意思と努力次第という選択の自由がある訳だ。

そうした勤労や教育の義務と比べて、納税の義務が特に不人気なのは二つの理由が考えられる。一つは、勤労や教育の義務を果たすと、相応の個人的利益があるが、納税の場合、そのような満足は得にくいからだ。納めた税が一体何に使われたかわかりにくく、納税者には直接利益を実感しにくいのである。二つ目は、納税はその内容も金額も自分の意思で決めることができず、行政からの通知通りに納税するがゆえに、果たして他人が自分と同じく公平に税を負担しているのか気になってしまうのではないだろうか。

勤労や教育の義務と同じくらい、納税の義務を誇りを感じてもらうためには、まず税金が社会全体に、そして国民一人一人に利益をもたらしていることを実感できるようにし、さらに、税金が公平に負担されていることをきちんと納得してもらうことが大事だと思う。今回、学校で配られた税についてのパンフレットを読んでもみると、税金が教育やごみ処理や警察や消防といった、社会の様々なサービスを提供するために使われていることが示されていた。また、公平な負担のために、まず政府の予算の無駄を無くしたり、所得に応じた課税をしたり、薄く広く大勢の人に負担を求めたりと、様々な工夫がされていることがわかった。

税金がなければ、国も町も成り立たない。であるならば、その社会の一員として、様々な負担を共有することは当然である。そのことを心から納得し、自覚するためにも、これから社会の制度や仕組みをしっかりと勉強し、実際に自分が生活している地域の行事やボランティア活動などに積極的に参加していきたいと思う。そして、納税の義務を果たすことに誇りを感じる大人になっていきたい。

「平和を与える税金」

函嶺白百合学園中学校 3 年 杉崎 里彩

中学三年生になり税金について詳しく勉強をしたり、テレビのニュースなどを見ていると生活保護や消費税増税という話題をよく耳にし、最近税金に対して一層興味が湧いてきました。

憲法で定められているように、私達には「納税の義務」があります。その通りで、生活の様々な場面で税金を納めているのです。私は、（どうして品物のお金を払っているのに、更に税金を払う必要があるの？）とずっと疑問を抱き続けていました。しかし、誰も税金を払わなかったらどうでしょう。今の日本は維持されるでしょうか。

日本は、水道からきれいな水が出てきて、食べ物にも困りません。当たり前のように学校に通うことができます。また、救急車や消防車が危険から救ってくれます。ところが、世界の国々を見るとそうではありません。貧困な国の人々は、飢餓に苦しみ、病気になっても治療を受けられません。残念なことに学校にだって通えないのです。

このように考えてみると、日本がとても恵まれた国であることに気付かされます。普段見ている光景は、実は当たり前ではないんだと改めて感じました。私達が恵まれた環境の中生活できているのは、多くの国民や父や母が、きちんと納税しているからです。また、テスト前に友達とよく市の図書館を利用するのですが、これも税金のおかげと気付きました。私がずっと不必要だと思っていた税金は、とても重要な役割を担っていて、身近な存在であるんだと理解できました。代々納税をしてくれた方達のおかげで今の生活があるので、感謝したいです。次は、私達が納税という伝承を受け継ぎ、将来の子供達のためにその義務を果たす番だと思いました。

国民が納税することだけでなく、どのようにその税金を利用するかも重要です。ニュースを見ていると生活保護の問題を耳にすることがあります。体が不自由で本当にそれを必要としている方もいますが、中には働きたくない・働かないといった、不正に受給している方もいます。更に、日常生活の中でお婆さんが、「薬は病院の方が安いから、絶対に薬局では買わないの。」と言っているのを聞きました。残念ですが、これが現状です。公共のため、教育のため、社会保障のために、正しく税金を使って欲しいと願います。また、利用者も正しい心構えで使ってもらいたいです。

私は、海外で勉強をしたいと考えているので、日本と外国との税金システムを比較し、将来の日本の国民のために、長所や短所など、気付いた点を反映して、よりよい国となるように努めていきたいと思います。また、税金の無駄使いを判断することはとても難しいですが、これを判断できる力、税金を無駄使いしない心を身につけられたらなと思います。

納得して納税するために

甲府市立西中学校 3 年 藤原 耕平

「あなたは消費税増税に賛成ですか。反対ですか。」
こう聞かれたら、何と答えるだろう。

消費税増税が検討されている。最終的に十パーセントまで上がる計画だそう
だ。多くのテレビや新聞などがこの話題を取り上げ、意見を交わし合っている。
僕は自分の考えをまとめるため、インターネットで調べてみた。

まず調べたのは、外国の消費税率だ。調べてみると、今の日本の五パーセン
トという値は世界的に見て低い方だった。調べた中で特に目を引いたのは、北
欧諸国の税率の高さだ。中でもスウェーデンやデンマークの税率は二十五パー
セントにもなる。五パーセントの日本でさえ「これ以上税率が上がって欲しく
ない」と思う人がいるのに、不満は出ないのだろうか。興味を持った僕は、ス
ウェーデンやデンマークの税について調べてみた。すると、驚くことが画面か
ら次々に飛び出してきた。

「世界一幸福な国 デンマーク」

「スウェーデンの高い税率 対して文句を言う人はなかなかいない」
これだけ税金の高い国で不満が出ないのはなぜだろうか。さらに調べていくと、
その理由がわかってきた。社会保障の充実と、税金の使途の透明さだ。中でも
僕が特に気づかされたのは、使途の透明さだ。

使途の透明さとは、税金が何のためにどのくらい使われているかを国民が知
っている、ということだ。スウェーデンでは、「税金を納めているのだから、使
途を教えてもらう権利がある」と考えられているようで、国民が税金の使途を
知らされた上で、それに納得して納税している。そんな肯定的な意見が、いく
つかのサイトを調べる中で多く見つかった。だから税金が高くても不満が出な
い、ということのようだ。

一方、日本はどうだろう。まず、日々の生活の中で税金について考える機会
が少ないように感じる。僕も以前は税金の使途や仕組みなどを考えようと思っ
たことすら少なかった。北欧諸国のようにみんなが納得して納税する社会にす
るには、使い道をきちんと知り、適切かどうか国民も共に考える事が大切だろ
う。

そのために、僕は二つのことを提案する。一つは国や県、市の方達に対して
だ。僕達が税金について知る機会を増やしてほしい。知る機会が増えれば当然
使途が明確になるし、国民に税金について知ろうという気持ちが出てくるはず
だ。二つ目は、より身近でさらに大切なことだ。それは、国民が税金について
「知る努力」をすることだ。自分達が払う税だ。もっと関心を持つべきだと思
う。インターネットなど知る手段はたくさんあるのだから、知ろうと努力する
ことは大切だと思う。

税は生活に欠かせない大切なお金だ。僕もこれから、税について「知る努力」
をし、自分の払う税に納得できるようにしていきたい。

「税」は「絆」

富山大学人間発達科学部附属中学校 3年 笹野 仁美

三月十一日は私の祖父母の命日であると同時にたくさんの人が涙を流し心に傷を負った忘れることのできない日です。

私が最初に被災地を訪れたのはその日から五日後でした。道路は悪臭漂う泥と、ありえない向きにひっくり返った車と、泥まみれの家具などが埋めつくしていました。毎年夏休みに来ては浴衣を着て見よう見まねで踊った盆踊り大会、もうあの公園はそこにはありませんでした。ただあるのは積まれたがれきと私の足元に誰かの名前が書かれた理科のノートが落ちているだけでした。ヘドロの臭いでむせ返りそうになりながら目の前にある光景が理解できないでいました。その時の景色は祖父母の遺体の顔より何より私の目に焼きつき今でも忘れることができません。

それから五ヶ月経ち、もう一度あの場所へ行ってみると、そこは住宅地になっていました。公園の面影は一切感じられず新しい家が建ち並び、家族の姿も見られました。それには少し混乱しましたが確かに感じたのは「日本は進もうとしている」ということでした。

しかし、こんなにも早く家が建つものかと疑問に思った私は家で調べてみました。すると「復興税」という言葉が見つかりました。いつも色々な形で納めている税金が復興のために使われていると知り自分も復興を手助けする一員になれているということがとても嬉しく思えました。震災から二年が経った今でも日本は東北を見捨てず支援し続けているのです。あれから何度も「絆」という言葉が叫ばれるようになりましたが、税金を納めることで私達日本人は「復興税」という絆で繋がっています。

税金、税というのは日本人である以上納める義務があり、税を納めるということは会員になるということだと言われています。そう言われればこの不景気なご時世では税に嫌なイメージを持つ人が多いと思います。しかし税のおかげで私達日本人は繋がっています。今回の震災のようにどこかで災害が発生すれば税金がそれを支援し、もし自分が災害にあっても税金が助けてくれます。「困った時はお互い様」とよく近所の人々が言い交わすように税を納めることで助け合うことができます。

私はそんなあたたかい国、近所のように誰かを思い、助け合える日本という国が好きです。だから日本人としてきちんと税を納めることのできる大人になりたいです。そして「税」という絆で繋がってきたいです。

祖父から教えてもらったこと

浜松市立三方原中学校 3 年 荒井 佑奈

健康でいることの有り難さ、元気で働くことができ税金を納めることができるのは、とても幸せであるということを私は深く心に感じるようになりました。

ある日、一本の電話で母が慌てて出かけて行きました。私の祖父が転んで骨折し、救急搬送されたのです。両手を骨折して手術する為に入院しましたが、頭などは異常なく話をすることができて一安心しました。後日、手術も無事に終わり、私はお見舞いに行きました。そこで忘れられない出来事が起こったのです。

祖父の元気な顔を見て、安心した後、私が祖母が見ていた手術と入院費用の請求用紙をチラりとのぞいてみた時の出来事です。子供の私には見たこともない高額な金額でした。少し心配になって、

「すごく高いね、払えるの？」

と聞いてみました。祖母は

「大丈夫、おじいちゃんは障害者手帳を持っていて医療費の助成が受けられるから、負担が少ないのよ。」

と、心配していた私に優しく教えてくれました。そこで、今でも後悔する一言を言ってしまったのです。

「障害者手帳があってラッキーだったね。」

そう言った後、祖父が淋しそうに言いました。

「おじいちゃんは、助成が受けられなくても良いから元気でいたいよ。」

私は次の言葉が出ませんでした。家に帰って母に祖父の病気の話を聞きました。祖父は何年も前から病気になり、身体が不自由な生活を過ごしてきました。数年は不自由ながらも何とか頑張って生活していましたが、治療費の負担も大きいし、仕事も十分にできないので、手続きを行い国や地方の自治体の助成を受けることにしたそうです。小さい頃から遊びに行くと、不自由そうに杖をついたり、元氣なく横になっている祖父の姿をたくさん見てきたのに、祖父の気持ちも考えず、ラッキーだと言ってしまった自分が恥ずかしくなりました。

祖父は、今でも自分のできる範囲で一生懸命仕事をしています。少しでも働いて助けてくれる社会に対し、税金を納めることができたらし嬉しいそうです。

増税という言葉は、大人にも子供にも耳が痛くなる言葉だと思っていました。しかし、税金が、祖父のような弱者を助ける為にも使われていることを知り、将来働くのが楽しみになってきました。私も、祖父のような人を助ける一員になれるという希望が湧いてきました。

何よりも、健康でいられることが幸せで社会の一人一人が税金を納めることにより、多くの人々が助け合って生活できる喜びを祖父に教えてもらいました。

税の使い方

名古屋市立若葉中学校 3 年 橋本 周典

私は昨年度の三学期に、就労体験で名古屋市北土木事務所の方々にお世話になった。その体験は、私にとって、税金というものを身近に感じるきっかけとなるものだった。

特に税金を身近に感じた体験が二つある。

一つは、楠公園地下の、楠調節池の見学だ。この調節池は、平成十二年の東海豪雨を受けて国土交通省が築造したもので、大雨の時に排水路で負担しきれなくなった雨水を、一時的に貯留することができる。中に入らせていただいたとき、懐中電灯で照らしても、どこまで続いているのか分からないほど暗く、巨大な調節池に驚いた。そして、この調節池が大雨から私達を守ってくれると考えると、その大切さがよく分かった。学校や歩道橋など、よく見かけるもので、税金によって造られたものはたくさんある。しかし、公園の下にこんなに大きな施設があり、税金が使われていることは、大変な驚きだった。知らないところで私達は税金に生かされているのだと感じた。

もう一つは、放置自転車の撤去だ。近くの地域を回って、黄色い札のついた放置自転車を、トラックの荷台に乗せる作業をさせていただいた。中には、重い自転車もあり、決して簡単な作業ではなかった。そして、ふと思ったのだ。これは、税金の無駄遣いではないか。自転車を放置しておけば、通行の妨げになり、場合によっては、火事や事故などの救助活動の妨げにもなるので、自転車の撤去自体はなくてはならない作業だ。しかし、一方でこの作業は、自転車が放置されていなければ、行わずに済むものだ。それなのに、自分勝手に自転車を放置し、土木事務所の方々の手を煩わせ、税金を無駄遣いするとは、何という行為だろう。時々テレビなどで、「政府は税金の無駄遣いをなくせ」と言っている人を見かけるが、まずは、私達自身も、身の回りのことから無駄を省いていかななくてはならないのではないかと考えさせられた。

この二つの体験以外にも、公園の整備や公共工事の安全管理など、私の気付いていなかったところでも、税金は役立っていた。税金の大切さは、教科書や新聞、テレビなどで見聞きして、知っているつもりでいたが、この就労体験を通して、予想以上に私達の生活と密接に関わっていることが分かった。税金は、空気のようなものだ。いつもは意識もしていないが、常に私達のすぐ側にあり、それがなくては私達は生きていけない。その大切さを理解した上で、使い方について考えていかななくてはならない。楠調節池のように、万が一の備えとして使われている税金もあれば、放置自転車の撤去のように、誰かの愚かな行為で無駄遣いされている税金もある。私の生活は、税金によって守られているのだということに感謝し、その使い方については、私にも責任があることを忘れずに過ごしていきたい。

税金で救えるもの

名古屋市立天白中学校 3年 道越 愛理

税金とは何か。こう聞かれたとき、私は困惑してしまった。もともと税には興味、関心はなかったが、この作文を書くにあたり税金のことを少し調べてみた。そして、私は「復興特別税」という税金の存在を知った。

「復興特別税」というのは、二〇一一年三月十一日に発生した東日本大震災の復興に必要な財源の確保のため、所得税、法人税の一部から徴収される国税だ。私はこの税金について、少し思い入れがある。

私は、親の転勤で小学校三年生から中学一年生まで仙台、青森で過ごし、東日本大震災を経験した。震災当時、住んでいた青森の街のライフラインは停止し、余震に怯える生活を送った。ようやく電気が復旧し、テレビをつけた私が目にしたのは、真っ黒い巨大な波がすべてを飲みこんでゆく姿、変わり果てた街の様子だった。たった一回の津波は、被災地に暮らしていた人々のすべてを奪っていった。

私が以前住んでいた地区も壊滅的な被害を受けた。強い震れによって家が崩れ、津波で家族や友人をなくした子もいる。そのときの彼らは、きっと何もかもを失った絶望でうちひしがれていた。誰も、希望を持つことはできなかっただろう。しかし、数ヶ月後に届いた手紙にはこう書いてあった。「生き残った子は、仮設住宅で安全に暮らしている。みんな心に傷は残ったけど、みんなで励ましあいながら、前を向いて頑張っている」と。

ちょうど同じ頃、私は被災した人々のためにボランティア活動をしている人たちがいること知った。その人たちの活動は仮設住宅の建設やがれきの除去活動など多種多様だ。そして、それらの活動の資金に、わたしたちから集められた税金や寄付が使われていることも知った。私が今まで無関心で、「余計なお金を払うのは面倒」とさえ考えていた税金は、仮設住宅やボランティアに姿を変えて被災者を救う、「命をつなぐかけ橋」になっていたのだ。

税金のことを「面倒」と考えていたり、無関心の人たちも一度考えてみてほしい。

私たちが払った税金は被災地で「命をつなぐかけ橋」になった。その「かけ橋」で救われた人々が大勢いる。私たちが税金を払うことで、絶望で消えそうな程弱くなった命を救うことができたのだ。

特別復興税は、今年から二十五年間、国税として納める義務がある。今は親が払っている人がほとんどだが、いずれ私たち自身で払う日が来るだろう。私は集められた税が確実に復興に使われるなら、できる限りの協力をしようと思う。しかし、同時に国に求めたいのが「税金の使い道を国民に公表すること」だ。せっかく集められた税が政治家の私欲に使われるのは残念でならない。

「命をつなぐかけ橋」。税で救える命が、ひとつでも増えることを願っている。

税と未来—今、私達にできること—

学校法人延暦寺学園比叡山中学校 3 年 松本 侑季奈

中学生の私は今まで、税金というと実際に納めるのはまだまだ先の事、と真剣に考えた事はありませんでした。でも、調べてみると今の日本はとてつもなく多額の「借金」がある状態で、この状況が続けば将来、国が破綻してしまうかもしれないという事がわかりました。そこで今、中学生の私達にもできることはないか考えてみました。

「借金」を減らす為にできる事の一つは、「支出」を減らす事です。そこで、国の歳出の中で約三割を占めている社会保障費に注目してみました。私の母は医療機関に勤務していて、医療の現場で起こっている事を直接聞く事ができます。母は、税金は必要な人に必要なだけ正しく使われるべきだ、と言います。例えば、病気で倒れて動けなくなった高齢の人がいるのにご家族は遠慮して救急車を呼ぼうとしない。その一方で、酔っ払っている人がタクシーのかわりに無料の救急車を使う。また、難病で治療費が高額になる為何年も痛みを我慢している人もいれば、症状に変化はないのに毎日のように診療をうけにくる人もいます。本当に医療や福祉が必要な人に税金が使われるようにするには、一人一人が正しい判断で行動する事が大切だと思います。また、皆が健康に気をつけて生活していれば医療費を少しでも少なくする事ができます。当たり前の事ですが、風邪をひかないようにうがいや手洗いをする、生活習慣病にならないために栄養をきちんと取って運動をする、喫煙や飲酒はほどほどにする、などです。少子高齢化で税金を納める働き手が減っていく中では、少しでも社会保障の費用を抑えて支出を減らす必要があると思います。

それから、「借金」を減らすには「収入」を増やす事も必要です。国の歳入の内、約半分を税収が占めています。税収を増やすには働き手が増えなければなりません。今は、せっかく就職しても自分には合わないからとすぐに辞めてしまったり、責任の重い仕事につきたくないからとあえて正社員ではなくフリーターを選んだりする人が増えているというニュースを見ました。私が社会人になった時、自分のやりたい仕事に就き、なりたい自分に近づけているように、中学生の今から将来どんな仕事がしたいのか、その職業に就くためにはどんな勉強をしないといけないのかを考え、実践していきたいと思います。一人一人がその努力をしていけば、働き手は確実に増え、税収も増えていくと思います。

二十年後、私達がしっかり仕事をして税金を納め、その税金が正しく使われる仕組みができていれば日本はきっと皆が安心して暮らせる国になっている事でしょう。そう遠くない未来のために、今できる努力を続けていきたいと思います。

町の魅力と税

草津市立草津中学校 3 年 北川 珠々

六月の終わり頃、お父さんから面白い記事を見せてもらった。「東洋経済」という主にビジネスマンが読む経済雑誌だ。毎年行っているランキング調査がまとめられていた。「住みよさランキング 2013」。全国すべての都市を対象に住みよさに偏差値をつけて順位を決めるというものだ。いわば、都市の成績表だと言っていい。「近畿ブロックで芦屋に代わり草津が首位へ」というタイトルが目飛びこんできた。「去年の 5 位からアップしてるし、すごい。」と誇らしげに思った。私の町ってすごいと、私はただそう感じていた。

夏休みに入って税のことを少し勉強した。そして、あの記事のことを思い出した。「住みよさ」って何だろう？もう一度記事を読み返した。安心度、快適度、利便度、富裕度、住居水準充実度という項目が点数として出され、総合評価されている。草津市は西日本総合順位では 2 位、近畿ではダントツの 1 位。快適度では全国 4 位だ。

私の町、草津市は電機メーカーの工場がたくさん立地し、有名私立大学もある。京阪神のベッドタウンとして人口増加が続いている。私の父も実際、毎日大阪まで通勤している。転入、転出人口比率や住居着工数は全国トップクラスで商業集積も充実し、利便度は高く評価されている。もちろん、人それぞれ価値観は違うから、住みやすさの実感は違うだろう。しかし、同じ人生の中で生活環境がどのように守られるかは大変大事なことで、関心を高く持つべきだと思う。

私はたまたま草津市に住んでいるだけであってこの市の魅力を高めているのは、ここに集まる多くの人々、様々な立ち場の人々だと思う。行政、警察、医療、教育など実に多くの人々が様々なカタチでよりよい環境をつくり、守り、育てようとしたから、今もどんどん魅力が外の目線で評価されているのだ。

税の役割は大きい。公共のサービス、環境が整っていなければ、そこに生活する人の生活や生活する人の心は貧しくなるに違いない。治安が悪くなり、町は汚れ、病人も増える。商業、産業は衰退し、街がやせていく。生活にエネルギーが必要で魅力がなくなる。

税は国民と国の約束だという福沢諭吉のことばがあった。この町に集う人々が一生懸命働き、企業も人もしっかりと納税することで、街を育てようとしている。行政の人たち、公務員の人たちが同じくこの町のために税金をムダにせず、一生懸命、魅力づくり、生活者を守ることに励んでいる。それぞれが約束を約束以上に積み重ねないと、住みよさや魅力は生まれてこないと思う。税を納める人、使う人が高い意識で結びついている町は、きっと素晴らしい町になるのではないだろうか。

私の通学路

京都市立加茂川中学校 3 年 春口 真由

中学二年生の三月、半年間くらいずっと工事をしていた私の通学路が完成しました。その通学路は人がすれ違うことも難しく、時には、自転車に乗っている人にぶつかりそうになる程の狭く危ない道でした。だから、安全な広い道に完成した時は、とてもうれしかったです。緑を置いてくれたことや、信号機を変えてくれたこと、そして、その信号機が京都らしさを感じさせてくれる茶色であったこともまた、うれしかったです。

道が完成してまもなくした頃、私の所属している吹奏楽部に、「道路完成記念式典で、演奏してくれないか。」という依頼が来ました。私達は、その依頼を受けました。

道路完成記念式典の日、私達の出番は最後だったのでそれまで、京都市長や関係者の人の話を聴いていました。その話によると、京都市が私達の払っている税金で、道をきれいにしてくれていたことが分かりました。他にも、暗くなってから外を歩いた時に私達が自転車にぶつからないようにしてくれる街灯の設置などにも、税金が使われていることが分かりました。すると、「ありがたいなあ。」という感謝の気持ちが、じわじわと込み上げてきました。

今、五パーセントの消費税が、来年の四月には八パーセントに、再来年の十月には十パーセントに引き上げられる予定です。その事を聞いた時は、「今まで買っていた物の値段が上がるのは、嫌だなあ。おこづかいでたくさんの物が買えなくなってしまうなあ。」と、消費税の引き上げをととても嫌がっていました。

しかし、私達の生活に役立ったり、誰かの為になることを税金がしてくれるのであれば、「消費税が引き上げられてしまうのも仕方がないことなのかな。」と思うようになりました。そして、私達は自身や誰かの為にしっかり税金を払っていくことが大切だと思いました。その上で、このような政府からの公共サービスを受け、感謝の気持ちを表していきたいと思いました。

「そろそろ本番だよ。」

という先生の声で、我に返ると、道路完成記念式典は、終わりに近づいていました。私が、あれこれといろいろ考え事をしている間に、時間はあっという間に過ぎていったみたいでした。

先生が、指揮棒を上げました。「さあ。しっかり本番でがんばって良い演奏をしよう。そして、このきれいな道路にしてくれた人達に感謝しよう。」と、私は心で密かにそう思いながら、気合十分にクラリネットを構えました。

みんなの感謝の気持ちがこもった演奏は、まるで

「ありがとう。」

「ありがとう。」

と、楽器達が口々に叫んでいるかのように聞こえました。

「税の正しき道」

高槻市立第六中学校 3 年 堤 暁生

ある日、友達と映画を見に行くことになった。ドラマの最終回のようなもので、見るのが楽しみでしかたなかった。実際に見ても、やはり期待通りの面白い作品だった。そのまま興奮しながら家に帰った。大きな過ちを犯していたことには気づかなかった。

数日後、封筒が届いた。自分宛ての封筒は滅多にないのだが、封筒の送り主は、何と警察だった。ただ、少年課などというところではなく、刑事ドラマでは見たことのない「会計係」からだった。どのような係かは知らずに、とりあえず中身を見てみた。するとそこには、「遺失物確認通知書」と書かれていた。それによると、どうやら僕の学生証を誰かが拾って警察に届けてくれたようだった。失くしたのはおそらく映画館。学生証が無ければ学生料金でチケットを買えなかったので、持って行っていたのだ。

そう振り返っていると、手紙を見た母がこう言った。

「その封筒の八十円、誰の支払いかも考えなさいよ。」

…一体誰だ？一瞬分からなかったが、よく考えるとすぐに分かった。正解は我々国民だ。警察の金は市から、その市の金は府から、その府の金は国から、そしてその国の金は国民から支払われている。税金として。つまり、僕が調子に乗っていたがために使われた八十円は、国民の負担の一部だったのだ。それに気づいた瞬間、あの映画館での自分の無神経さに嫌気が差した。僕は、ニュースもたまに見るのだが、子どものくせに政治家に文句を言っていた時があった。特に、二〇一四年四月からの消費税増税には好き勝手文句を言っていた。「有効活用してから言えよ。」とまで偉そうに言っていた。だが今はその台詞の矛先は政治家ではなく自分自身に向いている。

そう悲観的になっていた時、手紙の隅の番号に気づいた。そこには四桁の数字が記されていた。そこではっと気づいた。僕以外にも似た過ちを犯した人が自分の街に何千人もいるのだと。だからといって、自分はそこまで悪くないなどとは決して考えていない。そうではなく、同じように国民に負担を背負わせた人が何千人もいて、その中には税が使われていることに気づいていないで、ただ受け取りに行って終わった人もいるかもしれないと思った。

僕は過ちを犯した。だからこそ僕はこう伝えたい。税を有効に使っていくためには、政治家に全て押しつけるのではなく、自分たち国民も不必要な支出を抑える必要があるのだと。そして、自分の不注意で税が使われていなかったかどうかを確認してほしい。大切なのは、税を誤った道へ連れていかず、しっかりと我々国民が道標となって、税を正しき道に導いていくことなのである。

命の税金

三木市立三木東中学校 3 年 藤井 嵩大

僕は、税についての作文を書く、という夏休みの課題が出るまで、税について考えたり、税って何だろうと思うこともなかった。だから、何をどう書けばよいかも分からなかった。そんな時、新聞のある記事が目にとまった。

『『デトロイト市、財政破綻』米デトロイト市は、七月十八日連邦裁判所に破産を申し立て、財政破綻した。米自動車産業の中心都市として知られ、一九五〇年には人口が百八十万人を超えていた。しかし人件費が高いことなどから工場が国内外へ移り、自動車産業が衰退した。さらに治安の悪化などから人口流出が続き、現在は七十万人ほどに減少していた。収入が少ないうえ、税収も減って、借金や退職公務員への年金支払いなどで財政難に陥っていた。また、パトカーや救急車がなかなか来ない、街灯の約四割がつかないなど、生活に深刻な影響が出ている。』

「そうか、税収入が減るとこういうことになってしまうのか！」と思った。会社でいえば、倒産。市が破綻するなんて、市民はどうになってしまうのだろう。生活していけるのか、さらにもっと人口流出が増えるのではないかと、そんなことを考えた。産業の衰退で企業からの税収が減る。人口流出で市民からの税収が減る。税収入が減って何に影響が出たかという、市民の安全や街の治安を守る警察や救急隊の不足。こういったことが新聞から分かった。でも、税収が減ってパトカーや救急車がすぐに到着しないなんて結びつかなかった。そんなとき、親からこんな話をきいた。

僕の叔父が田んぼのあぜ焼きをしていた時、思ったより火が燃え広がり、消防隊に来てもらった。すぐに到着してもらえたので、隣家や建物に被害を出さずに済んだそうだ。もし市が破綻もしくは破綻寸前だったら、手遅れになっていたのかもしれない。でも、なっていないのは、市に税収があるからだ。つまり市民が税金を払っているからなんだと結びついた。

僕の家には定期的に市役所からいろいろな種類の税納付書が送られてきている。母は、「また茶色の封筒がきた…」と、決していい顔をしない。やはりお金を払うことなので喜ぶことができないのだと思う。たしかに、物を買うときはお金を払うとすぐに自分のものになるが、税金は支払ってもすぐに何かが入るわけではない。しかし税金を支払わないことで、当たり前だと思っている、安心して守られた生活が送れなくなってしまう。税は僕たちが普通に生きるためにあるのだと気付きました。

税は自分ひとりで使うものではないが、ひとりの国民として、市民としてみんなで分かち合ったり、利用したり、守ってもらえることができるようにするための源であると思う。この税は何に使われるものなのだろうか、とこれから意識していこうと思うきっかけになりました。

「目に見えないもの」

奈良市立富雄中学校 3 年 分部 明日香

私の母はよく「目に見えないもの」の話をする。世の中の目に見えるものだけでなく、目に見えないものこそ良く見て考えなさいということらしい。私は、税金こそ「目に見えないもの」ではないかと思っている。

例えば、本が大好きな私はよく図書館を利用する。様々なジャンルの数多くの本に囲まれて思い存分読書を楽しめる空間は、何物にも代えがたい。また、犬の散歩に訪れる公園はいつも樹木や草花の手入れが行き届いていて、私の一番のお気に入りスポットだ。

それに、祖母が昨年白内障の手術をした時に、「一割負担ですんだから本当に助かっているよ。税金を払ってくれているみんなのお陰だね。」と話していたのを覚えている。また、毎日車に乗る父は、「アスファルトがでこぼこしてきたなと思っていたら、いつの間にかきれいに舗装されているし、古くなった信号も順番に新しいものになっ変わっているんだよ。」と教えてくれた。

兄が倒れた時お世話になったのは、一本の電話ですぐに駆けつけて適切な処置を施してくれた救急隊員。ほぼ毎日お世話になっているのは、家庭から出る大量のごみを処理してくれる清掃局の方。そして何より一番身近で面倒を見てもらった、幼稚園・小学校・中学校の先生方。校舎や教科書も忘れてはいけない。

少し思い返してみるだけでも、これほどの恩恵を受けているのだ。しかし、これらの制度や施設・人々が税金によって支えられていることを私たち中学生は知っているだろうか。自分で税金を払っているわけではないので、つい当然のことに感じてしまうが、目に見えない税金だからこそこのような機会に、それが国民の生活と安心を守っていることを再確認し、感謝しなければいけないのではないだろうか。

今の私たちのできることは二つあると思う。一つは、親や数多くの見知らぬ人の汗と苦労の結晶である税金を、無駄にせず「大切にに使わせていただきます。」という気持ちを持つこと。もう一つは、全ての人々が笑顔で暮らせる「幸せ」と、世界遺産をはじめ誇りある歴史と豊かな緑溢れる私たちのふるさと「奈良」を、未来に繋げるためのバトンをこの手でしっかりと受け取ることだ。自分が納めた税金が、どこでどんな風に使われ人々の役に立っているかという仕組みを正しく知れば、その重要性がはっきりとわかるだろう。それと同時に、自分も協力しなければその制度を存続させていくのは不可能であり、この制度を残していく責任がこれからの私たちにあるということにも気付くだろう。

将来、確かな意思と優しい気持ちを持って、快く支える側に回れる大人になりたいと、私は強く願っている。

この国の国民であることと税金

古座川町立明神中学校 2 年 野端 菜彩

「この国の国民であって良かった。」

ニュース解説者の辛坊さんが発した言葉だ。

今年の夏、辛坊さんはヨットでの太平洋横断に挑戦した。しかし、出発して五日後にヨットに水が入り、太平洋横断の夢ははかなく終わってしまった。

辛坊さんが暗い暗い海をさまよい、あきらめかけたとき、自衛隊員が自らの身をなげ出し、無事救出されたのである。

その後の記者会見で涙しながら話す言葉は、私の胸につきささった。

今まで私は、日本の国民であると意識したことがなく、まして日本人で良かったなど、思ったこともなかった。辛坊さんが、この国の国民であって良かった、と言ったのは、たった二人の命を見捨てずに、自衛隊や海上保安庁などの国の機関が救出してくれたからだ。

私は、自分が日本の国民であるということを考えてみた。

日本人は、小学校で六年間、中学校で三年間無料で教育を受けることになる。たくさんの税金が使われているのだ。校舎はもちろん、学校で使用するもの。教科書や先生たちの人件費。学校にかかわるものすべての事に税金が使われている。自分が通っている学校だけで考えても、たくさんの費用がかかっているのだから、全国で考えると本当にたくさんの税金が必要だということが分かる。

私は、他にも税金がどのようなものに使われているのか調べてみた。

平成二十五年度の歳入と歳出のうちわけのグラフを見て分かったことは、税金の使い道でまず思いついた教育費と公共事業関係費が、思ったより少ないということだ。一番多く使われているのは社会保障費だった。社会保障とは、私たちが安心して生活していくために必要な医療、年金、福祉、介護、生活保護などの公的サービスのこと、と書いてあった。私が知らない所で税金がたくさん使われていることを知った。

しかし、私がこのグラフを見て何より驚いたことは、歳入の部分で、借金が四十六・三%もあることだ。収入とほぼ同じ金額の借金を毎年重ねていっているのだ。これでは返す見込みがつかないだろう。収入が少ないなら、もっと使い道を考えて節約すべきだし、それ以上けずることができないなら、収入を増やすしかない。このまま借金を増やしていくことは、絶対によくない。

国民は義務として税金を納め、健康で安心して暮らせることを保障してもらう権利がある。私も将来、税金をきちんと納めなければいけないと感じた。

限りある税金をどう使っていくのか。いろいろな意見があるだろう。

私は、この国のより多くの人が安心して暮らせて、

「この国の国民であって良かった。」

と思える税金の使い方をしてほしいと思った。

税に教えられたこと

広島大学附属中学校3年 畠添 咲希子

私はこれまで税について特別関心をもったことがない。今、そのことを恥じている。

八十歳の祖父の話をしよう。私とは別の街で一人暮らしをしている。昔は田畑で米や野菜などを作っていたが、今は年金のみで生計を立てている。家族の心配は高齢の独居に加え病身であることだ。一年半前、前立腺癌に罹患し約四十キロ離れた病院へ毎月通院している。また、数年前の脳血管疾患の影響から右上下肢が不自由でもある。しかし弱音や愚痴を口にするのではなく「じいちゃんはまだまあ元気でやっとな、生かしてもろうとるんじゃ。心配はいらんよ。」と口癖のように言う。

私は、祖父の生活を見聞きする内に疑問を抱くようになっていた。決して恵まれているとはいえない環境の中の祖父。口癖は本音なのか。心配もあり早速電話をかけてみた。病院の窓口負担は一割で九割は支払わなくても良いこと、体の機能障害により身体障害者認定を受け、公共交通機関の費用が割引かれること、手すり設置など安全のためのリフォーム費用への補助、民生委員や看護職による訪問サービス、そして何よりも有難いのは収入のない祖父へ定期的に支給される年金というお金。毎日の生活を支え命を守る費用は、国の社会保障制度という税金から賄われていることを知った。祖父は、自分が納める税金とは比べられないくらい多くの恩恵を受けていることに感謝しつつも、納めた税金が少しでも社会に役立っていれば高齢者ながらこれ程嬉しいことはない、と私の心配を否定した。その張りのある声を聞きながら私は、税金の大切さを実感し自分の知識の無さも痛感した。もっと多くのことを学びたいと心から思う。

祖父の話の続きから、母と社会保障制度の話になった。今の日本社会は少子高齢化が進んでいる。国の年金や医療負担が増え続けることで、将来の世代の納税に大きな負担となったり暮らしが窮屈になったりしないだろうか。実際私が行く病院には多くの高齢者の姿があり、私の窓口負担は三割で済んでいる。この状況をわかり易く示すものが予算だ。平成二十五年度社会保障関係予算は二十九兆一千二百二十四億円。昨年、一昨年より増えていることから、今後更に需要は大きくなると思う。ではその大事に私たちはどうあるべきだろう。

税とは人と人が支え合い成り立つしくみだ。社会の誰もが何かしら税金のお世話になり、サービスを享受している。それは社会保障に限らず他の事業でも同じだ。まず今の社会や暮らしを築いてくれた納税者へ感謝しよう。そしてこれからを担う私たちは税のしくみやその多くの恩恵を理解し、「納税の義務」という言葉と行動に責任と自覚を持とう。次の世代に、より良い納税者意識と変わらない暮らしという二本のバトンを渡せるように…私が買い物をし納める五パーセントは、例え小さくてもこのリレーの一部だと信じている。

また笑顔で祖父に会える日を楽しみに思う。

税の力

安芸太田町立加計中学校 3 年 梶原 和希

約九年前、山仕事で事故に遭った父がドクターヘリで運ばれた。

「あと四十分遅ければ死んでいた。」

父が退院する時、医者はそのように告げた。もしドクターヘリがなければ、父は死んでいた。数年後、私は一つの疑問を持つようになった。

「あの高額であろうドクターヘリは何によって維持されているのだろうか。」私の親はこの高額の費用を払わされることはなかった。つまり、もうけがないはずだ。そして今なら分かる。

「ああ、これが税なのだ。」

そして、税は人の命を生活を守る、大切なものなのだと気づいた。

しかし、人はいざという時にしか、この税のありがたさが分からない。警察や消防を必要とすることはめったにないのだから、だからといって『不必要・税金の無駄使い』という人がいる。それは税に対する認識が薄いのではないか。事件に遭い、警察に助けられた人や火事が起きて消防士に助け出された人がそんなことを言うだろうか。警察や消防はいざという時のために人々の納める「税」によって維持されている。そして事が起きれば、人命救助に最善を尽くしてくれるのだ。「日常」の中で人はそれに気づくことができない。

しかし、逆にゴミ処理や医療費の助成のように当たり前すぎて気づかないこともある。もし個人で野焼きを行えばダイオキシンが発生してしまう。しかしながら、ダイオキシンの発生しない焼却炉を個人で作ることはできない。また、もし医療費が全額負担になれば定期的に病院に通わなければならない人や、大事故に遭った人は払いきれず、一生大きな借金を抱えることになる。

税は人々の命と生活を守ることができる。それは個人では決してできないこと。一人が払う税は無事に等しい。だが一人の小さな小さな力が全国民となることで「命」と「生活」を守る大きな力となる。そしてそれは、確かに自分たちの力であり、その力によって守られるのだ。

現実、「税の無駄使い」という問題はある。人々の納める税金、人々のために使われるべき税金で私腹を肥やす者もいる。だがそれは納税とは別問題である。

「倫理」の問題だ。日常の生活においても、いざという時にも、税は必要で、そして大切なものだ。

現代という、個人では解決できない問題をかかえる社会で、税は人々にとって不可欠な制度であり、そしてこれからも決してゆるがないだろう。

身近な社会貢献

広島県立広島中学校 1 年 井上 歩美

税金が無かったら、人々の暮らしはもっと豊かになるのに。そう思ったことがある。消費税でいえば、五パーセントとはいえ、払わなくて良いのならもっとたくさんのお金が手元に残るのではないかと考えたからだ。

しかし、それは違う。消費税を含めた所得税、法人税、たばこ税などの様々な種類の税金に私たちの暮らしはかなり助けられているのだ。

例えば、私は今公立の中学校に通っている。公立学校は、特別授業を除いて授業料は無料だ。入学金も払わなくてよい。

だが、私立の中学校だと、入学金・授業料・設備費など、たくさんのお金を払う必要がある。

この違いは何なのか。それは、公立学校は私立学校で払わないといけないお金を税金でまかなっているということだ。私立学校であれば何百万円ものお金を払わないといけないが、それを税でまかなっているため、払わないといけなかったはずのお金を自分の好きなことに使うことができるのだ。これによって、私の暮らしは苦しくならずすみ、楽しく生活できているといえるだろう。

それだけではない。世の中で『公立』といわれるものは、税金によって支えられているものだ。これが消えたら、ということを図書館を使って考えてみる。まず、読みたい本を買わないといけなくなる。また、本を読んだり勉強したりする机も、使ったらお金を払わないといけなくなるだろうし、冷房・暖房などの設備費だって払わないといけなくなる。こんな場所に私は行きたいと思わない。きっと、一部のお金持ちの人たちしか行くことができないようになるだろう。これらを税金でまかなうことにより、全ての人が本を読むことができ、空調が整っていて気持ち良く過ごせる快適な場所となっているのだ。

税金は、町のいたるところで使われている。私たちの生活や安全を守るための警察・消防費も、ゴミ処理費用も、東日本大震災復興のための費用の一部だって、税金なのだ。

税金は、人々が安定した暮らしを送っていくために、人の住む街を安心して安全な場所にするために必要不可欠なものだ。私たちは、政府から受けている公共サービスの大切さを学び、それをもっと多くの人に伝えなければならない。そして、税金を納めなければならなくなったときはきちんと納める。この当たり前のように思えるささいなことが、私のような中学生でも簡単にできる身近な社会貢献なのではないだろうか。

税今昔

徳島県立川島中学校 3年 松岡 優佳

私たちは、最後の見切りをつける時や、物事を諦めなければならない時のことを「年貢の納め時」というが、「税金の納め時」と表現することはない。

年貢も税金も租税ではあるが、年貢は、中世・近世を通じ、支配層の主要な財源として位置付けられていた。一方、被支配者層にとっては重い年貢を負担する義務を課され、地方によっては七公三民という過酷な割合で年貢を納めなければならなかったという。

これに比べ、現在の税制は、経済的に恵まれない人たちからむしり取るという制度ではなく、累進課税により税金が徴収され、国民が安心・安全な生活を営むための財源となり、私たちが種々の公共サービスを享受できるというものになっている。だからこそ、国民は肅々と税金を納めているのであって、テレビ時代劇に登場する悪代官の私腹を肥やすために納める年貢とは一線を画していることは言うまでもなく、自分のために納税するという意識が国民一人一人にしっかりと根付いていることが理解できる。

もちろん、最近でも、税金を無駄遣いする官僚や役所が存するという報道を耳や目にすることもあるが、それはごく一部の事例であり、幕府から搾取されたまま絶対返ってくることはない年貢とは異なり、税金は、私たちの生活をより便利に、より豊かにするために還元され、その使途も全てオープンになっている。私がいつも利用している道路、橋、図書館、公園、そして、今通学している中学校の施設や教科書など、税金は私たちの勉強や生活をいろいろな場面で支えてくれている。

江戸時代における村落支配体制としての年貢は、農民など身分の低い者が重労働の末に納めたものであり、その生活は貧困であった。このように自分のやりたいことができなかった時代は終わり、現在は、税が私たちの勉強やスポーツや夢を後方から支援してくれるようになった。私はまだ納税者ではないが、学校や競技場などの公共施設だけでなく、警察、消防、ゴミの収集・処理のように、私たちの日常生活に密着した仕事の多くが税金により賄われていることを、決して忘れないようにしたい。

今、私は親が納めた税金に支えてもらう立場にある。そして、将来、私が納める税金は、私の子や孫を支えることになる。このように考えると、税金は、お上に「強奪」されるものではなく、国や自治体に「預金」をするのであり、何らかの形で私たちや子孫に返還されるものであると言い換えることができる。

今後、そして未来においても、物事を諦める時期を「税金の納め時」と表現されない時代が続くことを願っている。そのためにも、これから納税者となる私たち自身が、税への正しい認識を深め、国民一人一人が喜んで税金を納めるような社会の実現を目指す必要があると考える。

豊かな日本の未来のために

松山市立北条南中学校 2 年 森田 悠莉

これまで私は、税について深く考えたことはありませんでした。父の仕事柄、確定申告の時期になると、「消費税」とか「固定資産税」、「相続税」などという言葉は、よく耳にしていました。けれども、特に自分と密接に関係があるものとは考えていませんでした。

しかし、最近のニュースで、消費税が五パーセントから八パーセント、いや十パーセントにまで上がるかもしれない、ということを聞くようになり、これは私の生活にも関わるぞ、と危機感を感じるようになりました。百円のノートが百十円になるかもしれないのです。これだけを見ればたいしたことないかもしれませんが、ちりも積もれば山となるで、私の限られた小遣いにとっては大きな打撃です。

また、消費税が上がることを見こして住宅を購入する人も増えているそうです。大きな買い物なので、八パーセントか十パーセントかは、大問題。三千万円の土地や家を購入するのに、今は百五十万円の消費税ですが、八パーセントになれば二百四十万円となり、九十万円もの違いが出てくるのです。このように払う側の視点で考えれば、税金は損をするものとししか考えられません。

しかし、この税金があるからこそ、私たちは安全で安心な生活を送ってられるのも、また事実です。この夏は、熱中症のために救急車の出動がとても多かったようですが、救急車の出動には一回何万円も使われています。どうしても必要な時は仕方ありませんが、タクシー代わりに救急車を使う人もいるらしくこれこそ税金の無駄遣いです。

先日、私は、地域のジュニアリーダー研修大会というものに、愛媛県代表として参加しました。そこで、たくさんの仲間と知り合い、色々な活動を通して、多くのことを学ぶことができました。地域に戻って、リーダーとしてもっと頑張らないかという気持ちもわいてきました。この時の費用の多くが、国からの助成金、つまりは税金から出されていたことを、後で知りました。救急車の出動や、校舎の耐震工事などのような、命に関わる、しかも緊急を要することに税金が使われていることはよく知られています。でも、それだけでなく、私が今回参加したような、日本の未来を担う若者のため、日本の文化を豊かにするためにも、税金は、巡り巡って、日本という国の豊かな未来のためなのだと思います。私たちは、もっと知っておくべきだと思います。

今は、消費税という形でしか、私は払えませんが、大人になったら、所得税を始め色々な形で税金を払うことになります。その時は、損だなあというマイナスの気持ちでなく、日本に貢献できているのだという誇り高い気持ちで払いたいと思います。

世界を通して見る税

北九州市立穴生中学校 3 年 黒石 千尋

私は小学校二年生から五年生までの三年間を、イギリスで過ごしました。イギリスといっても、オックスフォードシャーにある、ロンドンから車で一時間もかかるような、日本人がいるのは珍しい小さな田舎町に住んでいました。イギリスと日本、同じ先進国であり、島国という共通点を持ちながらも、言葉や文化、生活習慣などにおいては、大きく異なります。

イギリスでは「ポンド」という通貨を使います。そして、何といっても物価が高いです。同じ商品でも、日本で買うのと二倍近く差がある事も日常茶飯事です。その理由の一つに、十七・五パーセントという高い消費税が挙げられます。しかしその反面、税金によって整備されている高速道路を利用するのは、無料です。メイフラワー号出航で有名なプリマスから、ネッシーがいると知られているネス湖まで車をとばしても、全く費用をかける必要はありません。お蔭で私の一家は、学校が休みの度にイギリスの大自然を見てまわることができました。

また、私は昨年のロンドンオリンピックを見に行ったとき、「大英博物館」と「ナショナルギャラリー」を見に行きました。それらの入場も無料でした。私は、税金をその様に文化財の維持と管理に注ぎ込むイギリスに感嘆すると同時に、税金の力というものを強く実感しました。

一方で日本は、消費税五パーセントというイギリスの三分の一にも満たない低さです。しかし、国立博物館も高速道路も有料です。

さらに、医療制度にも、イギリスはG Pという、ホームドクターへの登録制度があり、ここで治療を受ける分には基本的にお金は要りません。日本の様に一割だ、二割だ、ということもありません。

この二つの国の税の使われ方を比べると、私はあることを発見しました。それは、イギリスでは、納める税金は高いものの、公共施設やサービスを利用する際の負担は軽いということです。一方日本は、納める税金は少ないが、個人の支出が大きいということです。要するに、沢山国に払って身の辺りを楽にするか、少ない税で自分の所得を大きくするかの違いなのです。私の視点から見ると、税とその使い道は、国の政策やその国の未来に反映させるだけでなく、国民の価値観そのものの様に思われます。その価値観に善し悪しはありませんが、税金が人々の望む社会になる様公平に集められ、合理的に使われなければいけません。

ですから私は、将来、本当の納税者になったとき、自分の納めた税金の使い方はもちろん、世界にも常に関心に向け、どのような国になったら良いのかということを考えて、その実現に向けて努力できる大人になりたいです。

「大人」を実感する日

小城市立小城中学校 1 年 田中 結

今年の成人の日に母に聞いてみた。

「大人になったと実感したのはどんな時だった？」

母は迷いもせず、

「給料明細に税金が天引きされていたのを見た時よ。自分も税金が払えるようになったんだと思って、嬉しかったことを覚えているよ。」

と即答した。

それを聞いて私は少し驚いた。二十歳の誕生日とか、成人式の時とか、選挙に初めて行った時などのような答えが返って来ると思っていたからだ。しかも、税金が払えるようになった事が嬉しいという考え方もあるのだとその時初めて知った。大体税金は、「とられる」という言い方をする人がほとんどだ。本心の、「なるべく払いたくない」という気持ちが表れている。

しかし、自分が稼いだお金だけで人が生きていけない事は誰もが認識している事だ。全く見た事すらない大勢の人が、たった一人の生活を支えてくれている。沢山の人の力と沢山の人が払ってくれた尊い「税金」という愛で、誰もが今日を生かしてもらっている。

私も、生かしてもらっている一人だ。大好きな学校でのびのび勉強できる私も、通学路を日々安全に登下校できる私も、健康を管理してもらい元気でいられる私も、家庭で何不自由なく生活できる私も、すべて真綿のように優しく温かい「税金」で守られている。税のありがたさをつくづく感じる。

今、日本がかかえている大きな課題の一つに、少子高齢化問題がある。私の身近にも九十歳を超えた曾祖父母三人と高齢者の祖父母三人がいる。デイサービスや訪問看護などのいろいろな福祉サービスを受けながら自宅で元気に暮らしている。これまで、社会や日本を必死で支えてくれた人達だ。これからは元気でおだやかに生活してもらうため、みんなで支えていきたいし、私も支える番が来たらしっかり役割を果たしたいと思う。

国民の三大義務を社会科で学んだ。三大義務とは、教育をしっかり受け、働く力をつけ就労し、税金を払って日本を支える事だ。私はまだその入り口だけど、今の私にできる事は働く力をつけるべく、しっかり学ぶ事だと思う。

今の日本は国民一人当たり約七百九十二万円の借金があるそうだ。それでも必要なお金はけずれない。それは生死に関わる事もあるからだ。だから、来年四月から消費税が値上げするのは今の日本を維持していくためには仕方のない事だろう。これを機会に中学生の私も、しっかり税のことを勉強し、みんなの「想い」が一円も無駄使いされないように、政府の政策や社会に目を向け、関心を持ち続けたいと思う。

そしていつの日か、私も母のように税金が天引きされている給料明細書を見て、嬉しいと思える大人になりたい。

備えあれば憂いなし

長崎県立諫早高等学校附属中学校 1 年 松原 久美香

ある日、家のベランダに出ていると、頭の上をヘリコプターが飛んで行った。父が、

「ドクターヘリかな。多分、国立（病院）に向かっているんだろう。」
と言った。以前、隣の市の国立病院が建て替わった時、施設見学に行った。その時、駐車場の入り口の広場に赤い印の入った、ヘリコプターが止まっていた。救急車では間に合わない所や、離島地区の人々の緊急時に出勤する救急処置設備が整い、医者が乗りこむドクターヘリだということを父から聞いた。夏の暑いこの日、ドクターヘリに乗った人が無事だったらいいなとぼんやり思った。

その数日後、たまたま見た新聞に先月、熱中症で救急車搬送された人が去年の今の時期の三、二倍だと載っていた。先日のドクターヘリといい、救急隊員の人たちは、この夏、いそがしくて、大変そうだったと思った。

私たちは、いつ病気やけがをするか、わからないけれど、救急車やドクターヘリがあるので安心、そう思っていた。

ところが、父の話によると、外国ではこれが普通ではないそうだ。救急車が有料で、医療費も全額負担が多いそうだ。だから、貧しい人は病気やけがをしても、払うお金がなく受診できない。だから多分、苦しい思いをしたり、ひどい場合には死亡することもあると思う。

日本で行われている医療サービスは、国民一人一人が払っている税金で成り立っているということを知った。『備えあれば憂い無し』ということわざがあるが、日本は国民全員でいざという時に備えているようだったと思った。

税金は、もしものことがあっても大丈夫、と安心して毎日の暮らしを送れる会費と考えたらどうだろう。個人の幸せのために個人のお金を出すのは大変だけど、みんなでお金を出し合って、それをみんなで使うようにすれば個人の負担を少なくし、いろんなことに使える。自分の幸せだけではなく、日本を発展させて、より幸せになるための便利な制度だったと思った。

この作文を書くために、初めて税について詳しく考えたり家族の意見を聞いたりした。だが、意外に自分の暮らしている社会の仕組みを知らないことに驚いた。

少子高齢化が進む現在、私たちが大人になった時、どんな割合やどんな内訳で税金を負担することになるのか今では、想像できない。だが、賢い消費者であり納税者でありたい。私が納めた大切な税金を有意義に使いますます住みよい日本になってほしいと思う。

そのためにも、税金についてもっと関心をもって、より正しく理解していきたい。

立派な大人への仲間入り

熊本大学教育学部附属中学校 3年 堅島 敢太郎

僕は消費税しか払うことのできない中学生だ。最近、納税は「国を支える立派な大人である証」のようだなと感じ始めている。

夏休みの中ごろ、市長と住民で意見交換をする会合に母と参加した。七十人を超える参加者からは、関心の高さを象徴するかのよう、政策についての質問や提案、要望が活発に飛び交った。住民があんなに熱く議論するのは、やはり政治が住民から集められた税金によって成り立っているからだと思う。市長は会合で、言葉を選びながら丁寧に答弁されており、新政策の提案や要望には「すぐに決めることは難しい。」

とも言われていた。税金を使う立場の責任感の強さを目の当たりにし、改めて税の重みを感じた時間だった。

僕が小学三年生だった頃、三歳上の姉が子ども記者のような企画で税務署へ取材に行った。本やDVDを見て、家族総動員で事前学習を行ったのだが、外出の車の中までもその話題で持ちきり。僕は姉と

「あっあれ税金！ あれも！」

と窓から見える景色で言いあった記憶がある。——道路、橋、信号、公園、学校、ゴミ捨て場、救急車……。街には税があふれており、社会の中での存在の大きさとその影響力に驚いた。調べてみると主な税金の使い道には、図書館や警察などの「公共財・公共サービス」、地下鉄や水道などの「公共事業」、そしてお年寄りや、障がいをもった方を支える「福祉医療サービス」の三つがあるそう。しかし車内の僕は、「福祉医療サービス」が適用された場所を見つけることができていなかった。そこで、僕の住んでいる町内には身近にどんなものがあるのか、疑問を解決すべく自治会長さんに聞いてみることにした。

自治会には年に一回、市などから様々な助成金がきて、福祉面にもその一部を充てているそう。特に六十五歳以上の方の、「ふれあいサロン」や「老人会」では、ストレッチやカラオケ、囲碁・将棋などに活発に取り組まれているとのことだった。これらの活動を行う「老人憩いの家」は税金で建てられたものだし、活動にも税金が補助されている。

「最近、平均寿命が延びて近所にも一人暮らしの方が多くいる。活動を楽しみながら仲間づくりをして、元気に暮らしてほしい。」

と自治会長さんは言われていた。高齢者に健康で文化的な生活を営んでほしいという国民の思いは、年金制度を始めとして税金を実用的に使うことで表されているのだとわかった。

あの日、市長が会合で言われていた「ごみの減量と節水」。生ごみのひとしぼりや蛇口のこまめな開け閉めなど、小さな心がけを続ければ、使用する税金も大幅に減らすことができる。だから今は税金を大切に使い、大人になったらしっかりと納税して、僕も日本を支える立派な大人への仲間入りを果たしたい。

ぼくと税金

肝付町立内之浦中学校 1 年 白坂 拓輝

みなさんは、税金が何に使われているか、知っていますか。みなさんが、納めている税金が役立っているのが、わかりますか。

まず、ノートや教科書を無料で配布したり、高れい者などに、年金をあげたり、道路を整備することや、学校教育などに、税金が使われたりすることを学校で習いました。

また、普段の生活の中で他に色々な税の名前を聞きます。「消費税・所得税・たばこ税・法人税…」でも、自分が実際納めているのは本やマンガ、おかしを買ったときにはらう消費税だけです。私はあまり税金のことについて、くわしくは知らないです。二年前の東北大震災の後、新聞やニュースでよく見かけるのが「復興特別税」です。

二〇一一年三月十一日、東北地方太平洋沖地震により大津波が発生し、建物や車を押し流し、そして多くの人が亡くなってしまった、東北大震災、そのニュースで見た映画のような光景は、絶対に忘れることができません。

私の父は、町の役場職員です。私の町肝付町は、東北の岩手県大船渡市と交流していることから、震災直後すぐに大船渡市への支援が始まったそうです。また、父は復興支援チームの一員として、大船渡市で給水活動等の支援活動を十日間行ったそうです。後から父に聞いた話では私たちの町からの支援だけでなく、全国各地から自治体、団体の多くの人たちが支援活動に来ていたとの事でした。そして「この復興支援活動でも税金が使われているんだよ。多くの人からの援助はもちろんだけど税金があるからこそ、すぐにお父さんたちも支援活動ができたんだよ。」と話してくれました。この時、改めて税金は、色々な場面で利用されていることを知りました。今まで、税金について深く考えたことがありませんでしたが、この時をきっかけに、税金は、国民みんなが助け合い、国民みんなが幸せになるための仕組みであると思いました。

復興特別税という言葉調べてみると、「復興施策に必要な財源を確保するために課されることとなった税金であり、所得税、住民税、法人税に上乗せられて徴収される」、とありました。この税金は、私が納めたりする税ではありませんが、両親や、大人たちが納める税金にふくまれることになるということです。遠く離れた鹿児島県の小さな町で納められた大人の税金が、東日本大震災の復興のために使われることになると思うと、両親や私の町の大人たちがとても頼もしく見えてきます。そして、これから先、納税者となっていく私たち自身も、様々な税金について知り、その税金が社会に出て助け合う仕組みであると理解していくことが大切だと思いました。

消費税の大幅値上げが決定した。平成二十六年四月に八%平成二十七年十月に十%になるそうだ。僕は、これまであまり税金について深く考えたことがなかったが、普段の買い物をしても税金をこれまでより多く支払わないといけなくなると思うと、不安になった。

消費税が初めて導入されたのは、平成元年で、三%から始まった税率は平成九年には、五%となったが、それから十八年もの間は変わらなかったことを思うと今回の増税がとても切羽詰ったものを感じる。

さらに国の借金が今年六月に一千兆円を突破したことを知り、とても驚いたと同時に、なんだか不思議に感じた。これまで小学校の授業で税金について学び、例えば、自己負担が医療費の三割ですむ日本の医療制度は素晴らしいと感じていた。世界には日本のように社会保障制度が整っている国は少なく、大国アメリカですら整っておらず、病気になっても病院にいけない人が多いという。

僕は税金のおかげで、消防や警察、学校教育、福祉などの様々なサービスを受け、何不自由することなく暮らしており、そんな日本に生まれたことが誇らしかった。

国は税金の予算で足りない分を国債を発行することで補っている。国債とは国が国民に借金したお金の事だ。国は国民のために高速道路や空港、ダムなどの色々な施設を作るが、税金だけではお金が足りない時は、国債を発行して国民から借金をする。これが国の借金なのである。どうしてこんなに借金が膨らんだのだろう。

今、日本は、税に関する様々な問題を抱えている。少子高齢化が急速に進む、年金や医療や介護の費用は増えているのに、その費用の担い手である若い働き手が減っている。不景気で仕事に就けず税金を納められない人も沢山いる。また、せっかく集めた税金の無駄使いも課題となっている。さらに一番大きな問題が、東日本大震災の復興費用だ。

こう考えてくると、国の借金が増えたのも少し理解できる気がしてきた。また今年、僕の住む石垣島にも新しい空港が出来上がった。感謝すると同時に、消費税の増税も仕方がないことなのかもしれないと感じた。

僕が社会人となった時、国のために何ができるだろうか。僕は将来、税理士になりたいと思っている。皆が幸せに安心して暮らせる社会のために、自分が税金をきちんと支払うことはもちろんのこと、どうすれば全ての人が税金をきちんと支払えるようになるのか、考えていきたい。

国の政治に関心を持ち、どのように税金が使われるべきかを真剣に考え、国の借金が少しでも減っていくよう、社会の一員として今できる限りの事を努力して過ごしていきたい。

税～安全で快適に暮らすために～

札幌市立厚別北中学校 2 年 西川 侑里

——ガンガンガン…ドッドッド——

いつもなら子供達の無邪気な笑い声が飛び交う近所の公園から、その日は工事用の重機の音が響きわたっていました。

母から、「公園が新しくなるんだよ。」と聞いたときは、小さい頃からよく遊んでいた公園だったので、変わってしまうのが少し残念でした。しかし、工事の理由を聞いて、思いは一変しました。この公園は木が非常に多く、生い茂っていたので、昼間でも薄暗く、もし不審者などが現れても、外部からは気付きにくい状態になっていたのです。まして、北海道では秋ともなれば、日が暮れるのも早く、なおさらです。その話を聞いてからは、工事中の公園の前を通るたびに、白いネットで覆われて見えなくなっている部分を、背伸びをしてのぞいてみたり、どんな公園が完成するのか想像してみたりと、待ち遠しくなりました。そして、先日ついに、完成しました。今までとは違い、見通しもよく、雰囲気も明るくなって、また再び、子供達が楽しく遊ぶ光景がみられるようになりました。

そこでふと、この公園は誰が建てたのだろう、と疑問に思いました。そして調べてみたところ、この公園を建てたのはまぎれもない私達だった、ということに気が付きました。公園は地方公共団体の土木費で作られています。その土木費は私達が納めている税金の事なので、つまり、この公園は私達が建てた、といっても過言ではないわけです。この時に私は、公園の水道代も税金でまかなわれている、ということに改めて気が付きました。バケツに水をくんで砂場で遊ぶくらいなら良いかもしれませんが、たまに悪ふざけで蛇口を上にして指をつっ込み水を飛ばす子供もいます。そういえば私も小さい時、よくやっていたな、と思いながらも、改めて税金について考えてみると、反省せずにはいられません。何ととっても、大人の方々が一生懸命働いて納めてくれた税金なのですから。今度、そのような事をしている子供を見かけたら、注意してみようと思いました。

このように、日頃私達が納めてきた税金は、私達の暮らしをより安全で快適にしているのだと実感しました。しかし、近い将来、少子高齢化の影響で、私達若い世代の負担が増えるといった、非常に厳しい状況が待っていると聞きます。これから納税者となる私達こそが、もっと税について深く考え、正しい判断のできる大人にならなくてはいけないのだと、心に誓いました。

日本の消費税を八パーセントに、将来的には十パーセントにまで引き上げるというニュースが以前取りあげられていた。その時、まだ税の知識がなかった私は「無駄なお金をなくせば、引き上げる必要はないのではないか。」そう思った。

そこで諸外国の消費税をはじめとする税について調べてみた。アジア各国の消費税は五パーセントから多くても中国の十七パーセントだったのに対し、ヨーロッパでは大半が二十パーセント前後。二十五パーセントに達している国もある。また、日本が約二十五パーセントの租税負担率も、スウェーデンでは約五十パーセントと二倍である。

なぜヨーロッパの国々は租税負担率が高いのか。そしてそのお金は何のために使われているのか。

その理由のひとつに社会保障が充実しているということが考えられる。例えば、スウェーデンの福祉政策として、共働きの親のために子どもを預けられる家庭デイホームなどの充実や、十七歳までの子どもに国から補助金が給付されるといった少子化対策がされている。また、少子化対策の他にも、無料で高齢者が介護を受けられる、高齢化対策も行われているのだ。

一年前に亡くなった祖父は認知症の症状が出ていて、外出の機会も減り、あまり話をしなくなってしまった。それが週に二日デイサービスに通うようになると笑顔でデイサービスのことを話してくれるようになった。祖母も、祖父の介護で一日が終わってしまうような日々を送っていたが、時間にも心にも余裕ができたようだった。しかし、その裏に金銭面で問題を抱えていたのだったら、それは本当の幸福ではないと私は思う。税は、この社会の礎を築いてくれたお年寄りのために、そして、未来の日本を創っていく小さな命のために使われるべきである。

「引き上げる必要はない。」そう思うのは、私達が納めた税金が何に使われているのかがはっきりと分からないからではないだろうか。たとえ税を大幅に引き上げたとしても、それによって生活がより豊かになっていると感じられれば、きっと納得してくれるはずだ。

国民一人ひとりが納めた税金。それは、この国をもっと輝く国にしたい、といった人々の希望が込められたものだと思う。だからこそ、国民に見えるように、生活に還元されるように大切に使ってほしい。

今日の笑顔のために。そして輝く未来のために。

税を納めるということ

守谷市立御所ヶ丘中学校 3年 谷口 詩乃

日本では税金を払う人を「納税者」、つまり、税金を納める人と呼ぶ。アメリカでは「TAXPAYER」、つまり、税金を払う人と呼ぶ。

これを聞いて私は、税金を「納める」とはどういうことか。また、「納める」と「払う」とではどう違うのだろうと、税について興味を持ち、調べ、考えてみることにした。

私たちは国や県や市に税金を納めているが、これは、何かを買ったり、してもらったりした時に払う「代金」ではない。税金に応じて国や県や市から行政サービスを受けるのではなく、あらかじめ、税金という形で集められたお金で、学校や道路や医療などの色々な費用に充てられているという仕組みである。国や県や市に、税金として渡したものが、結局は色々な形でみんなに戻ってくる、そういう意味で「払う」のではなく、「納める」と言われているのだと思う。

これに対して、アメリカで「払う」と言っているのは、行政サービスを受ける代金として税金を払っている、という感覚を持っているからなのではないだろうか。そして、このような違いがあるのは、それだけ日本は、納税者が国や県や市を信頼しており、「会費を出すからあとは自分も含めたみんなのために大切に使ってください。信用していますからね。」ということなのだと思う。

ところが、税金が無駄に使われていたり、公務員がいろいろな事件を起こしたりして、徐々にこの信頼関係が崩れてきてしまい、税金を納めることにも、不満を感じるようになってきているのが、今の日本なのではないだろうか。何に使われるかわからないような高い税金を納めることには納得できない、ということである。

そして、さらに今問題になっているのが、消費税の引き上げについてだ。テレビや新聞を見ていると、これからの日本のためには引き上げが必要だと言う人がいる一方で、もっと無駄を削れば引き上げなくても大丈夫だと言う人もいる。また、そう言っている国会議員こそ無駄があるのではないかと考える人もいる。私は、税金を引き上げることが本当に必要なかどうか、無駄があるかどうか、よくは分からない点がいくつかある。けれど、税金を集め、それを使っている国や県や市が、今よりももっと信頼されるようになることが大事なのではないか、と思う。

みんなが苦労して稼いだお金の中から納められる税金だからこそ、大事に使ってもらいたいし、そうでなければ許されない。私が大人になった時、喜んで税金を納めることは無理だとしても、安心して、信頼して税金を納められるようになっていてもらいたいと思う。そういう社会になるように、どういう形でできるのか、今はまだ分からないが、私も協力できればと思う。

税の大切さを知って

宇都宮市立宮の原中学校 3 年 数又 翼

デトロイト…アメリカの自動車産業の代名詞と言っても過言ではないこの市が、七月十八日、財政破綻しました。負担総額は日本円にして一兆八千億円を超え、アメリカ史上最大だそうです。私もこの日の夕方、ニュースでこのことを知り、驚きの余り、なかなか信じるできませんでした。あれだけ栄えていたはずなのに、なぜここまで財政が落ち込んでしまったのでしょうか。

最大の理由は、急激な人口減少でした。人口が減るに連れ、税収が少なくなり、仕方なく行政サービスを切り詰めました。しかしそれにより人口減少が余計に強まり、負債の支払いや年金、医療負担なども多く重なり、債務が膨張するという悪循環に歯止めがかからなくなり、このような事態になってしまったようです。

そこに住んでいる人が町を出ていき、人口が減少し税収が少なくなれば、私の住む町も、例えニューヨークやロンドン、東京などの大都市であっても、デトロイトと同じ道を歩むことになるかもしれないのです。それだけ「税金」は国や自治体にとって重要な“宝”なのです。

ところで、私たちは消費税や所得税など、たくさんの場面で様々な税金を納めています。そもそも、「税金」とは何なのでしょう。

国や都道府県、市町村が、個人ではできない様々な公共サービスを提供したり、病院や学校、図書館、公園などの公共施設をつくる為に必要な費用を、みんなで協力して出し合って負担しているのが「税金」です。「税金」はみんなで社会を作りあげていく為の材料であり、一人一人が協力して集まれば、とても大きな資金となります。

私たちが納めた税金は、国や自治体が受け取り、国や自治体の行政で使用内容や目的、予算など話し合って決定し、公共施設をつくったり運営したりして公共のサービスの為に使われます。

もし、税金がなかったら、どうになってしまうのでしょうか。

例えば救急車や消防車を呼べばお金がかかり、ごみ収集や学校の授業も有料になります。公園は整備されず、事件や事故が発生して警察が出動するのにもお金が必要になるので、治安が悪化してしまいます。こう考えていくと、どれだけ「税金」が私たちの生活にとってなくてはならない大切なものなのかと、改めて考えさせられました。

私たちは一人で生きている訳ではありません。一人一人が納める税金のお陰で、安心して豊かに生活できているのです。私は、税金、そして自分を税金という形で支えてくれている社会に感謝して、普段何気なく払っている消費税はもちろんのこと、将来働くようになったら、地域の為に、そして社会全体の為に、税金をきちんと納められる大人になりたいと思います。

一蓮托生～税とともに生きる～

川越市立東中学校 3 年 梅原 優太

朝、伊佐沼に日が昇ると、風がサァと吹いて蓮の花たちが一斉に茎を垂れました。「太陽さん、待っていました。おはようございます。」とおじぎをするように。そして、日を受けた薄桃色の花卉は透けて輝きを増し、一面がガラス細工のような美しさです。真ん中にある黄色い花托は、仏さまの台座のように鎮座しています。ちらほらと蜂や虫たちが遊びにやってきました。人間たちもこの美しい情景にひかれて散歩にやってきます。

ここ伊佐沼は、川越市の東部に位置する埼玉県内最大の自然沼です。以前は周辺水路の水質が、家庭雑排水の流入で悪化したことから、沼の水質浄化に市の税金が使われました。そして、地域も一体となって環境の美化、保全活動に取り組み、今のような美しい沼に蘇ったのです。この活動は今も続けられています。例えば、当初蓮は絶滅の危機に瀕していたため、自生の蓮を遊休田に移植して増やし沼に戻す活動が始まりました。そして、ぼくたちも小学三年生のときに、蓮の植え方を教えていただきながら、移植作業をしました。自分たちが植えた蓮の花が見事に咲き、道行く人の慰めになっていると思うと感動します。税金は子どもたちの環境教育にも役立っているのです。また、地域の方々は自生していたヨシやマコモの再生のために、間伐材や竹、炭で浮島を作り、水質浄化に取り組んでいます。材料や活動費にも税金が使われています。その浮島にコアシザシやアオサギ、カルガモなどが飛んできて羽を休めます。そして、沼に棲む魚はヘラブナ、マブナ、コイなどで、釣り人が糸を垂れます。また、蓮や沼の景観をカメラに収めようと、地元の人のみならず、観光客も大勢訪れます。沼の周りに遊歩道があり、ウォーキングやジョギングをしている人もいます。昔は川越鉄道の沼端駅があり、沼の湖岸に路線があり、電車が走っていたそうです。当時の風景を想像し、ロマンを感じます。また、税金によってきれいに整備された湖岸の道路は、春になると桜並木のピンクのトンネルになります。夏には小江戸花火大会が行われ、水上花火が湖面に大輪の花を咲かせます。花火大会も市民が喜ぶために税金が使われているのです。

このように、川越市及び埼玉県の税金は、市民のために感動やロマンを伴いながら使われていることがわかりました。小江戸川越は歴史ある街です。蔵の街や、喜多院、時の鐘。川越城本丸御殿。川越祭りに、春祭り。夕暮れ空に飛ぶ雁の群れ。人情味あふれる隣のおじさん、おばさん。どれも、ぼくが愛する川越の姿です。とても誇りに思います。そして、この街を守るために、税金が活かされ、ぼくたちも生きていきます。税金と先人たちの努力によって成し得たこの街をしっかりと引き継ぎ、この街のために税金を使うことを誇りと思える大人になりたいです。

「税を納めることは国民の義務である。」

これは中学生の私でも常識として知っていることだ。義務であり、あたりまえであるこれは、消費税、所得税など様々な種類があることが、テレビや新聞などから知ることができる。

学校から配布された税による冊子の中にはこのようなことが書いてあった。「税金は、生活を向上させるためにやるべき仕事に使うお金のことです。」なるほど、と私は思った。今ある生活の便利さは税金があつてこそのものだし、もしも税金が無かったら暮らしにくい環境になると思った。

でも、私は税金を納めたことがない。大人である母に、「税金を納めるときってどんな気持ち？」と聞いてみた。すると母は、「やっぱり必要なことだとは思いますが、正直税金がなければもう少し楽だなあと思うよ。」と言っていた。一度に多くのお金が必要になる税も中にはある。それを聞いた私は、

「税をはらうことは大変なことだから、できればはらいたくない。」

と思った。税は大切だ、と思う反面、心の中ではめんどろだと考えていた。

それからある日、第一回派遣研修会があつた。これは、私が住む市の中学三年生の二十名が八月下旬にアメリカに派遣されることを前に開きされた説明会である。私はまさか自分が派遣生で選ばれると思っていなかったのでもううれしかった。説明会で大人の引率者の方がこんなことをおっしゃっていた。「皆さんの渡米についてお金を出してくれる人は誰でしょうか。」

私が考えているとその人は続けた。

「みなさんの両親だけではありません。多くの方が納めた税金もかかっているのです。」

私はその言葉を聞いてはっとした。直接自分に税金が関わるなんて、ないだろうと思っていたからだ。税金によって、貴重な海外での生活を体験させてもらうのだ。私は軽い気持ちでなく、市の代表としての自覚を持っていこうと思った。

今回の出来事を通して私は、税はまわっていることを知った。税はただ納めるだけではなく、それが教育や防災などで自分たちに返ってくるということだ。このことを考えると税を納める時の気持ちも良くなると思う。

「今の生活がもっと良くなるように。」という思いで納められたら本当に、良いと思う。

今、私は中学生である。だから税金を納めることの重みがまだわからない。でも、これから先の将来には、私にも税金を納めるべき日がやってくるだろう。その時に私は、私はかつて支えてくれた大人のように、見えないサポーターとして支えていくべきなのではないだろうか。見えないけれど、確かに社会を支える税によって。

税と向き合う大切さ

千葉市立新宿中学校 3 年 橋本 明佳

「税金」を辞書で調べてみると、「国や都道府県・市町村が仕事をするために、国民にわりあてて、取りたてるお金」のことだと書いてある。勤労・納税・子どもに教育をうけさせると、国民の三大義務の中には、納税が含まれていて、税金は納めなくてはならないことになっている。消費税、酒税、ガソリン税、たばこ税などはよく耳にするが、いったいどれくらい種類があるのだろうか。税についての本を読み、考えてみた。なんと、世の中、税金だらけなのだろうか。それだけ、私達の社会では、国民が納めた税金が使われているのだ。そう考えると、税金を納めることは大切なことであり、納めた税金が正しく、生活向上のために使われてほしいと思う。そして、これから自分が大人になって、さまざまな税金を納められる、立派な社会人になれるよう、頑張ろうと思った。そのためにも、納めた税金の使われ方を理解しておくべきだ。

私にとって、一番身近な税は、自分のおこづかいで納めている消費税である。そもそも消費税は、いつからあるのだろうか。普段、払っている消費税は、どうして始まったのだろうか。

消費税は、1989 年の 4 月 1 日から、始まり、はじめは税率 3 % からだった。それまでの日本では働いている人だけから税を徴収していた。ところが、働いて税を収めた人も、収めていない人も、同じサービスを受けられるため、不公平だ。その上高齢化が進みはじめ、税収入が減る心配がでてきた。そこで、所得税率を下げるかわりに、国民全員に税金を負担してもらおうと、新しく消費税が始まったことがわかった。

その後、消費税は現在の 5 % となり、今後 8 %、10 % と上がる予定だ。テレビのニュースや新聞でたびたび話題に上がり、賛成か反対か話し合われていたが、結局、消費税増税法が成立となった。

消費税増税をして、本当に良いのだろうか。税金が増えた分だけ、社会生活がより良くなったり、国の借金が減ったりするのなら良いと思う。しかし、今まで買っていたものが、同じ金額で買えなくなるし、税率が上がっても、収入が増えなければ、なるべく物を買わないようにするだろう。そうすると、せっかく経気が良くなりつつあるのに、消費が減ってしまい、また元へと戻ってしまうかもしれない。でも、消費税だけでなく、納めた税金は全て私達の生活と深く関わっているのだ。私が安全に暮らせたり、学校へ無料で通えるのは、税金を納めてくれた人たちがいるからなのだ。

これからの社会を支える私達は、税に対して、真剣に向き合うことが大切だと思った。自分のためにも、未来を生きる人々のためにも、責任を持って考え、義務をはたせる大人になりたいと思った。

税が目指す未来

学校法人芝浦工業大学柏中学校 3年 増田 美咲

私は、税金というと消費税が真っ先に浮かんで、何か物を買う時の手数料程度にしか考えたことがありませんでした。そんな私が、税金の使われ方について深く考えたのは、偶然病院の待合室にいる時でした。

私たちは、ほとんどの人が保険証を持っています。そして、保険証を持っていれば医療機関で診察や治療を受けた際にかかる負担は三割程度で済みます。きちんと補助を受けられる体制ができているからこそ私たちは、風邪をひいた時でも気軽に病院を訪れたり、健康を維持したりすることができるのだと思います。そして、払わなくて済んでいる残りの七割はどこから来ているのか…と、ふと疑問に思った時、家にあるはがきを見つけました。父の職場の健康保険組合というところから、私たち家族が半年間で、いつ、誰が、どの医療機関で、どのくらいの医療費がかかったのかというのが記されたものでした。そこには、医療費総額と健康保険支払額という欄があり、総額はとてつもない金額でした。

父に話を聞いてみると、「そうだね。治療費っていうのは高いからね。でも、パパ達が払わなくて済んでいる残りのお金は、顔も知らないいろんな人の税金から来ているんだ。もちろんパパも払っているよ。税金というのは、ただ納めなきゃいけないだけではなくて、助け合いを目に見える形にしたものだと思うんだ。美咲、税金で一番使われているのはなんだと思う？」そう聞かれて私は、社会保障関係費について調べてみました。授業で財政や税金について勉強した時、年々社会保障関係費の支出が増えていると知ったからです。

社会保障には、大きく四つあり、年金・医療・介護などを支える社会保険、障害がある人などのために公的な支援を行う社会福祉、生活に困っている人などのために自立的な支援を行う公的扶助、国民が健康に生活するために整備などをする公衆衛生です。どれもなくてはならないもので、私たち国民の安心や生活の安定を生涯にわたって支えるものというのがわかります。医療費というのも、この社会保険によってまかなわれていることを知りました。

今、少子化が進む中、国民の四人に一人が高齢者という現状です。今後高齢者は増え続けることが予想されているので、今と同じ生活をする中で、少ない納税者の人たちで大きな負担を抱えなければなりません。私も十年後は、二十五歳となり社会に出て働いている頃です。その頃の税制度や社会保障がどうなっているかはわからないけれど、きちんと税金を納めて国民みんなが健康で安定した暮らしができたらいいなと思いました。

税金と言えば消費税。と、私には税金に対して、何とも単純な認識しかありませんでした。この作文を書くにあたり、私なりに、税金について調べてみました。すると、私達の生活の中のあらゆるものに、税金が掛けられていたことに驚きました。それは、消費税はもちろんのこと、所得税、都道府県民税、ガソリン税、自動車税、贈与税、酒税等がありました。もちろん税金は、支払うだけではなく、私達の生活の支えにもなっていました。

私は、今年の三月に突然の発作で倒れ、いつ完治するかわからない病気を発症しました。これから、定期的に検査や診察を受け、治るまでの何年間か、薬も飲み続けなければならなくなりました。病気知らずで健康だけが私の長所だったのに、ものすごくショックで、立ち直るまでに多くの時間が必要でした。その時、私の病気の為に、この先どれだけ家族や回りの人に迷惑を掛け、どれだけの費用が掛かっていくのかを心配しました。しかし、医療費の本人負担は少なく、ほとんど税金で負担してもらえるとということを教わりました。私は、直接税金に支えられていたことに驚いたのと同時に、感謝の思いで胸が一杯になりました。今まで、なぜ働いていない学生の私達が、少ないお小遣いで買う物に消費税が掛けられるのか、不満でしかありませんでしたが、病気になってみて初めて、払った以上に自分に返って来ていることを実感しました。私が買ったお菓子やマンガ本、CD等も無駄ではなく、世の中のためになっているのだと、身をもって感じました。

このように、皆それぞれ形は違うけれど、生活していく上で、様々な所で税金に支えられているのでしょう。いつか私達が、この国を支えていかなければなりません。だから、もっと社会のことや税金のことに関心を持ち、認識を深めていかなければならないと思います。昨今、新聞やテレビ等で、消費税増税の文字を見ない日はありません。私は、これまで反対でしたが、自分が税金に支えられていることを知ったり、こうして調べていくうちに、増税を反対でなくなりしました。

国民が、税金によって日本という国を支え、国も税金によって、私達の生活を支えている。税金は、日本の社会や私達の生活になくてはならないものだと考えられます。税金を支払うことは、国民の義務です。支払われた税金は、多くの人の助けとなります。そして、気付かぬうちに、自分も支えられているのです。

今までは、税金についてあまり関心がありませんでしたが、これからは、身近であり大きな問題として考えていきます。また、国民一人一人が支払った税金を大切にし、より有効に活用していけるよう、皆が意識するべきであり、その上で、生活をより豊かにしていくことが出来れば良いのでしょう。そうすれば、日本は皆が手を取り合い、より一層笑顔あふれる明るい国でいられるはずなのです。

夢をつなぐ税金

世田谷区立梅丘中学校 3 年 成冨 羅夢

演奏終了後の拍手。

歌い終わった後の大きな舞台からの眺めはどこか温かく、達成感に満ちた素直な喜びの笑顔をつくる。

毎年、区内の中学校の音楽部が集まる発表会は、区民ホールで行われる。そして、心地よい響きを演出する。この美しいホールを支えているのもまた、税金である。

私が税金について考えるきっかけになったのは、去年の秋。職場体験でお世話になった税務署でみたビデオが始まりである。

学費が払えずに学校に通えない中学生、舗装されていない道路。

税金という仕組みがない社会を疑似的に再現した、三十分にも満たないアニメーションに、私は衝撃を受けた。この時味わった衝撃は、無知が導く恐怖だったように思う。

三年生になった今ではわかる。警察や消防などが一般企業と同じであるならば、自分でお金が払えない限り、救急車を呼ぶことも出来ないのだということも。

私は、税金についてあまり知らなかっただけでなく、自分が受けていた日本の税制度による恩恵についても考えたことがなかったということに気がつかされた。

数年前、病院に向かう途中で倒れてしまったことがあった。意識が戻った時は救急車の中にいた。その時の優しい隊員の方の顔を今でもよく覚えている。

しかし、このような医療制度を受けられる国は本の一握りである。集められた税金を国民の生活に生かしていけるのかどうかは、国の機関にもかかっている。現在、盛んに行われている「増税議論」で中心となっているのも社会保障制度にも関係している、ということを毎日のニュースでよく耳にする。

私にはまだわからないことばかりなので、社会全体に目を通しての意見を持つことができない。けれども、このままでよいのだろうか。いや、そうではない。

私たちが五年後に二十歳を迎える時、選挙権を持つことになる。自分の意思を「一票」という形で伝えるようになるのだ。国会議員が国民の代表者であるならば、その議員を選ぶ有権者も責任を持って考えなければいけないと思う。残された年数で税金について考え、自分なりの考えを持てるようになりたい。

今、若い世代の投票率が下がっている。まさに進む「政治離れ」を暗示しているように思われる。

私たち中学生に夢を抱かせてくれた区民ホール。そんな素晴らしい環境をつくれるのも税金であるならば、納税はすなわち次の世代への架け橋になるのだ。だからこそ、私も立派な納税者になりたい。

日本の税制度が不協和音を奏でない、より透き通ったものになることを願いながら。

支えられ支えあう「税」

調布市立第六中学校 3 年 白崎 伶奈

私は税のことは今まで考えたことはなかった。税について調べたり聞いたりしているうちに最近よく耳にする少子高齢化や消費税増税の意味が重く深刻な問題であることに改めて気づかされた。とても他人事ではない問題が私達の世代にもすぐそこに迫って来ているのだ。将来の日本や人々の生活が不安になってきた。どうすれば良いのだろう。

少子高齢化がもたらす影響は高齢者が増えて働き手が減り、子供も少ないので将来の日本の国の力が今より衰えると漠然と思っていただけだった。それが意味する細かな内容までは考えてもみなかった。私達が普通に学校へ行き、ご飯を食べられ不自由な思いをせず生活できているのも親のお陰と国のお金＝税金のお陰なのだ。税金のことはあまり頭になかった。もうすぐ大人になる私達も税金のこと国の財政のことを真剣に考えなくてはならない。税の仕組みや行政に対しても、誰かがやってくれるとか、何とかなるさと無関心でいてはいけないと思った。

私達は多くの人々や税金に支えられて成長し大人になってゆくのだから、働き手になったら今度はその恩返しをするつもりで税を負担しようと思う。今まで何で税金なんか払わないといけないんだと思っていたけれど、税によって一人一人が支えられていることがよく分かった。そして税金を負担するのは大変だけれど税は「支えられ支え合う」の象徴だと思えるようになった。この感謝の気持ちを忘れずに持っていようと思う。

消費税も近々上がるそう。私の親も嘆いていたけれど、もっと少ない年金で日々生活を切りつめながら生活しているお年寄りや苦勞しながら頑張っている人はたくさんいる。私もよく考えて生活しようと思う。スーパーで値段の下がった食品をほんの少しだけ買って一生懸命小銭を数えて出しているお年寄りを見たり、ニュースで孤独死や餓死、お金がなくて病院にも行けない話を聞くとすごく辛い。誰もがもっと楽に困ることなく幸福に生活できる国にしたい。そのためにはやはりお金、税金がいるのだ…。困っている人を助けるためには自分も役に立てるような行動をすることだ。ボランティア活動がまず一番に頭に浮かぶけれど納税も大切なことなのだと思う。

私は今から色々なことを学び経験しながらこの国のことを考えたい。そして社会を支える一員になったら、しっかり自覚し責任をもって快く税を負担したいと思う。誰もが苦勞して納める税金は本当に大切なお金だから大事に平等に適切に使って欲しい。全ての人に助けの手が必ず差し延べられる世の中、そんな優しく豊かな国にするために私達はみんなで努力しなくてはいけないと思う。私達は支え合って生きているのだから。

税金を納めることの大切さ

小田原市立橘中学校 3 年 内藤 寛乃

「お姉ちゃん、のうぜいってどういうこと？」

小学生の妹に聞かれました。夏休みの宿題である、税の書道展の課題の一つに「のうぜい」があったからです。私は

「税金を納めることだよ。」

と言うと、妹は、

「税金を納めるってどういうこと？」

と質問してきました。私は少し困りました。“税金”とって思い浮かぶのは、消費税くらいです。買い物をしたときに負担する消費税ですが、意識していないせいかよく考えると、それがどういうもので、どのように利用されているのか詳しく知りませんでした。「税金」と言われても、まったく身近に感じていませんでした。そこで、税金についてインターネットで調べてみました。

所得税・酒税・たばこ税・関税・自動車税・相続税・贈与税・市町村民税・固定資産税・ゴルフ場利用税・入湯税など、驚くほど多くの種類の税金がありました。これだけ多くの税金は、どのように使われ、どのような役割を果たしているのか、さらに調べてみたくなりました。

私たちが納めた税金は、災害救助や災害復興、医療や福祉、学校の教科書や図書館の本など、私たち国民が健康で豊かな生活を実現するために、国や地方公共団体が行う活動の財源となっています。公共施設や公共サービスのために使われていることが分かりました。

もし、税金がなければ、私が通う中学校のいろいろな設備や、本が好きな私がよく利用する市立図書館も使えず、去年私の兄が交通事故でけがをした時にお世話になった、救急車や交番や市立病院などの利用も有料になり、すべて自己負担になるとしたら、安心して暮らしていけません。私たちが健康で文化的な生活を送るために、個人ではできない様々な公共サービスを税金によって受けられていることに気付きました。

「税金を納めるっていうのは、安心して暮らせるようにするために、一人一人が会費を払っているようなもので、みんながお金を出し合い、支え合うということだよ。」

と、妹に説明することができました。

妹の質問から、今回初めて税金について調べてみて、税金の種類の多さや使い道などが分かったと同時に、私たちが大人になったとき、より良い社会を築くために、また、必要な公共サービスが受けられる社会であるように、税金を納めることの大切さを学ぶことができてよかったです。

今の社会、私たちの暮らしには税金がかかせないものになっています。しかし、ニュースなどで耳にする「消費税アップ」などのいくつかの問題もあります。これから大人になり、働いて税金を納めていく私たちが、知恵をふりしぼり、力を合わせ、税金についての知識を高めていくことがとても大切だと感じました。

幸せな未来のために

都留市立都留第二中学校 3 年 小林 亮太

中学二年生の夏休み、僕は職場体験学習を税務署で体験した。税務署を選んだ理由は、ある貴重な体験がきっかけだった。

中学一年生の春休み、僕は、「都留市ちびっこ海外使節団」の一員として、都留市と姉妹都市であるアメリカ・テネシー州への国際交流事業に参加する機会があった。現地の家庭にホームステイさせてもらいながら、広い世界を見聞し、様々な人々と触れ合うことができた。この交流事業に参加させてもらったことは、広い視野を持つことの大切さを学ぶことができ、自分の将来を考えるきっかけにもなった、貴重な経験だったと思う。

この事業の参加費の一部が、市からの補助金として、税金が使われていたことを聞き、感謝の気持ちでいっぱいになった。税金、と言うと正直、消費税ぐらいしか、身近に感じていなかった僕は、このように様々な形で僕達の生活の中に関わっていることに気付かされた。だから、複雑に感じていた税金の仕組みを理解できればと思い、税務署の職場体験学習に参加した。

税の仕組みと役割について、税務署の方が、中学生の僕にも分かるように説明して下さった。行政としての課題が、数多くあることを、初めて知ると同時に、税に関してあまりにも無知だった自分に驚いた。

税金を使い、社会全体の誰もが、生き生きとした市民生活を送ることができるよう、様々な取り組みをしているそうだ。しかし、国や自治体の行政は、大きくて複雑な為に、なかなか一般には難しく理解できないことが多い。身近な教育、福祉、医療、労働など生活にかかせないことから、災害対策、社会の治安維持、国の防衛まで、納税と日々の生活が密接に関係していることには、なかなか気付きにくい。

現在、国や地方には、たくさんの借金があるそうだ。単純に考えると、無駄に使われているものから減らせばいいと思う。しかし、必要な公共事業をやめてしまったら、自然災害に対応できなくなったり、雇用の問題が起きるかもしれない。教育や科学の研究費を削ってしまったら、教育が立ち行かなくなり、国の未来がなくなってしまうかもしれない。税金の使い方が無駄なのか、必要なかを判断することは、とても難しい。正しい税金の使い方を判断できる目を持った人を、一人でも多くするためには、税金について、もっと身近に考える機会が必要だと思う。

僕は、税務署で、毎年行われている確定申告のやり方を体験させてもらった。社会に出て、働いて、納税するということは、こういうことなんだ、ということを実感できた。

税金について、誰もが、もっと身近に感じて、使い方や納税義務の大切さを真剣に考えていくことが、これからの幸せな未来を築いていく、大切な一歩だと考える。幸せな未来は、僕達、一人一人が作っていくものだから。

～消費税について～消費税から救える命

富山市立堀川中学校 3 年 高野 優佳

私は、今まで税金がどのように使われているかなど全く知りませんでした。「税金」という言葉を知っていても内容や中身を知らないという人は、多いのではないのでしょうか？

私達にとって、一番身近な税金は消費税ではないかと思います。他の税金は、親などが払っているけれど、消費税は、自分で何か物を買った時に払っているからです。

現在、日本の消費税率は、5%です。しかし、最近は消費税を増税するとい話が出ていて、ニュースを見てみると国民へのインタビューでかなりキツイ言葉が飛びかかっていました。増税を反対する人は、生活が厳しくなるなど、物を買ってもらえなくなるなどのさまざまな声がありました。たしかに生活が厳しくなってしまう事は、嫌なことです。

でも、使いみちを調べてみると国民のことを考えて国民のために使われていることがわかりました。

私が小学校低学年だった頃のある日、幼い頃からよく遊んでくれていた私のお母さんの友達が病気になってしまいました。その病気が発覚したのは、二人目の赤ちゃんを間もなく出産するという時期でした。病名は、今まで耳にしたことのない長い病名でした。その病気は、先天性の病で現代の医学では、完治するのは、不可能な病気でした。

予定日より少し早めに帝王切開で赤ちゃんは無事に産まれましたが、しばらくするとお母さんが自分で呼吸をすることができなくなってしまい、酸素ボンベを常に持ち歩くという生活になってしまいました。数年後、肺がどんどん悪くなってしまい、移植手術を受けることになりました。少しでも長く生きたいという夢が叶い、手術は成功して、少しの間、酸素ボンベを持たなくてよくなりました。

その手術費や薬代などは、全部、国が払ってくれて本当に助かったという話を聞いて、税金は、こんなところにも使われているんだなと思いました。

こんな風に病気になり、手術を受けなければいけない人は、たくさんいると思います。医療費が高い、手術費が高いなどの理由で治療を受けられなくて救えない命があるのは、とても悲しいことだと思います。でも、国が少しでも補助をしてくれるおかげで、救える命があるのです。

私は、このように医療や福祉、介護などの社会保障の充実が日本の豊かさの一つだと思います。豊かな日本を維持していくためにも納税は大切なことだというのを伝えていきたいです。この作文を書くことで学んだことを忘れずに税金を納めている親や納税者の方々に感謝して、将来、自分で働いてお金を稼ぐということが出来るようになったら、何か物を買う時に誰かを救おうという気持ちになって税金を納めていくように心がけていきたいです。税について調べることが出来て良かったです。

「税金の大切さ」

一宮市立西成東部中学校 3 年 村上 舞

最近テレビのニュースで、消費税が 8 %や 10%に上がることが話題となっていますが、なぜ消費税を上げなければならないのでしょうか？私はよく分からなかったので、調べてみました。すると、原因の大部分は今の日本で大きな問題とされている、「少子高齢化」にあると書いてありました。私はふと、学校の公民の授業から、少子高齢化になると、医療保険や介護サービスなどの、社会保障制度にかかるお金が増えるということを思い出しました。だから、国民の負担は増えるけど、消費税を上げて、税金で負担するしかないのではないかという結論に達しました。

消費税を上げることに、反対という人が多いですが、消費税を含む税金がなくなってしまうと、とても大変だと私は思います。

例として一つ上げると、義務教育です。日本では、小・中学校は義務教育です。もし、税金がないとすると、義務教育九年間で、一人当たり約八百万円も払わなければなりません。しかし、今の日本は、授業料や教科書代などは、税金から払われています。そのおかげで、私たち日本のすべての子どもは、学校に行くことができます。しかし、私が去年の夏、一宮海外派遣団として訪れた中国では、道端で子どもが働くという光景をよく目にしました。私は、この子どもたちは学校に行っていないんだろうかと、心配になりました。日本では考えられないことです。だから、中国に義務教育制度はないんだと思っていました。しかし、中国にも日本とほぼ同じ制度があるそうです。では、なぜ中国では、すべての子どもが教育を受けられないのか、私は不思議に思いました。そこで私は、中国の義務教育は日本のように、全額無償化になっていないのでは、ということが頭に浮かびました。早速調べると、やはりそうでした。学校整備代、教科書代、飲用浄水代など、多くの費用を払わなければなりません。だから、義務教育という名だけの制度があっても、それが大きな中国全土で実施されるのには、まだまだ程遠いのではないかと私は思います。だから、義務教育が全額無償化になっている日本は、勉強しやすい恵まれた環境なのでとても幸せだと思いました。ですから、私は、税金を納めてくれている大人の人たちに感謝して、日々勉強に励まなければいけないと感じました。そして、将来私が働いたとき、日本のためにしっかり税金を納めようと思います。

私たちは、税金についてもっと知識を増やし、理解を深めるべきだと思います。なぜなら、税金は私たちの将来を担う、とても大切なものだとは私は考えるからです。だから、税金が何に使われ、何に役立っているかを知り、一人一人が税金を納める義務を、しっかりと果たさなければならないと思います。

「税金」、それは、これからの日本の輝く未来で、重要な「カギ」となるから。

「税金って何？」と聞かれたとき、あなたなら何と答えますか。以前までの私なら「税金」と言われてすぐ思いつくのは、消費税でした。消費税は私たちが何かものを買うとき必ず払わなければいけないお金のこと。私は正直、税金について良いイメージを持ったことはありませんでした。たとえば、なんで五パーセント払わなければいけないのだろう。二〇一四年には八パーセントに増税するから今より多く払わないといけない。というイメージで、税金イコールあまり良くないという印象を受けがちでした。そんな中、私が税金について興味を持つようになったのは、学校でのある出来事がきっかけでした。

ある日、とても暑い日が続いていました。私たちの学校にはひとクラス四台の扇風機があり、四台全部を強く回してもあまり涼しいとは感じませんでした。そんな時間こえてきたのは、「エアコン取り付けて欲しいよね」という言葉でした。私もその時は大賛成でした。しかしよく考えてみると、いつも当たり前に使っている扇風機もあらゆる人の税金から支払われているということです。あつて当然の教科書も、いつも使っているいすや机も、もちろん学校の校舎もです。ということは、なんだか私たちの言っていることはおかしくありませんか。税金は払いたくないのに、エアコンは取り付けて欲しい。お金は払いたくないのに、ものは欲しい。なんだか矛盾していますよね。

扇風機やいす、机、教室などの電気代、水道代、学校全体が皆さんの税金によって支払われています。皆さんは机やいすなどを大切に扱っていますか。自分も払っている税金、皆さんが払ってくれた大切な税金で買っていただいた、という意識を持っていますか。教室やトイレなどの電気を点けたままにしていますか。水道の水などを流したままにしていますか。それも全部税金なのです。あつて当たり前ではないのです。

私はこれまで税について悪いイメージだけを持ち、きちんと考えたことがありませんでした。しかし、「学校」という私たちにとってのとても身近な場所で、税について大切なことをたくさん学ぶことができました。まずは税金のおかげで「学校で何不自由なく勉強ができることに感謝すること」です。教材や電気、水などを税金で払ってもらっているという、恵まれた環境に感謝しなければいけません。そして税というものは「小さな助け合い」だと思います。なぜなら、誰かがものを買うその税金が巡りに巡って私たちの生活をより便利に、豊かにしているから。病院での補償がされたり、道路が整備され安全になったり、年金になったりなどと、日本の生活を豊かにしていると思った。だから私も、税金を悪いイメージととらえず、皆で支えあい、助け合うことだと思って「小さな助け合い」の精神で考えられる人に成長したいです。

社会全体を幸せにする税金

みよし市立北中学校 3年 橋本 夢実

先日、定期健診を受けるために眼科に行った時のことです。高校生の姉と共に、同じような診察を受けたはずなのに、母は一人分しかお金を払っていませんでした。私は不思議に思って、

「何で一人分しかお金を払わなかったの。」

と言いました。すると母は、

「夢実は中学生だから、子ども医療費支給制度のおかげで、医療費は無料になっているんだよ。」

と教えてくれました。そして、

「小さい頃はよく病気をして、大変だったよ。前に住んでいたところは、この制度がなかった時期もあったから、医療費もかなりかかったし。」

とも言いました。

帰宅して、子ども医療費支給制度について調べてみました。すると、税金によってこの制度が成り立っていることが分かりました。

私は、小学校低学年まで、風邪をひくと必ず中耳炎になり、よく耳鼻科に行っていました。でも、中学生になった今は、一度も欠席することなく学校に通っています。ここまで健康に成長できたのは、もちろん家族のおかげです。しかし、それだけではありませんでした。多くの人の税金によって、私の健康な生活は支えられていたのです。

このように、私達の生活を支えるものに、税金があることを知りました。毎日の生活の中で、個人では負担できないサービスを提供しているのです。

私は、税金について知らないことがほとんどです。だから、学生のうちにしっかり学んで、税金について理解したいと思います。税金によって、私は健康に成長できました。そして、何不自由なく勉強、生活ができる環境にいます。いつかは私も大人になって、消費税以外の税金を払う立場になります。そのとき、税金によって豊かな生活を送ることができている今を思い出したいと思っています。そして、感謝の気持ちを持って、税金を納める人でありたいです。

では、今私にできることは何でしょうか。消費税を払うこと以外にも、公共施設やその用具を大切にし、無駄な出費をなくすことができると思います。大きな組織から見ると小さなことですが、一人一人の努力の積み重ねで無駄はなくなります。だれもが税金によって助けられていることを、忘れないでほしいです。

最近テレビや新聞などで、「税金の無駄遣い」について、よく指摘されています。有効に使えば、私たちの生活もより暮らしやすくなります。税金の意義を理解し、税金を納めることが大切です。そのためには、私たち一人一人が無駄をなくすように意識することです。それが、「みんなが幸せになれる税金」となり、日本の未来につながるでしょう。私はそう信じています。

カナダと日本の税金の違いについて

学校法人滋賀学園中学校 3 年 西堀 里奈

私はカナダに九年間住んでいましたので、日本とカナダの税金の違いについて述べ、日本の税金のシステムはどのようにすればよりよくなるか考えてみたいと思います。まず私が一番興味をもったのはカナダではミルクやおむつ等の育児用品と加工されていない食料品には消費税がかからない事です。例えばポテトチップスには税金を払いますが、肉や魚野菜など加工されていない食品には税金がかからないのです。これはたとえお金がなくても食料品は買う必要があり、その時になるべく買う人の負担を少なくし、また健康のためにも材料を使って自分で料理をすることを考えるようになります。育児用品にも税金がかからないので子育ての費用の負担が少なくなり、もっと子供を育てたい気持ちにつながります。

私が住んでいたオンタリオ州の消費税は現在 13%ですが、以前は 7%が国税、8%が州税の計 15%の消費税でした。けれどももし日本からカナダに旅行して二百ドル以上の買い物をし、日本に帰国するとしたら、申告をすれば支払った消費税が戻ってきます。カナダは観光も大切な財源なのでこうすることで旅行者にいい印象を与えますし、旅行者は住民でないので支払った税の恩恵を受ける事があまりなく、その分、税の負担を少なくしているのです。

また日本では高速道路は料金を払うしくみになっていますが、カナダでは一部を除いてほとんど料金を支払わなければならない道路はありません。これはカナダのような広大な国は日常の生活に道路は必ず必要で、いくらお金がなくても誰でも使えるように無料なのです。

それから自分の支払う税金をどの教育システムに役立ててほしいか、その支払い先を自分で選ぶこともできます。カナダではキリスト教系、フランス語系、英語系など様々な公立の学校があり、自分の税金を役立ててほしい教育システムに支払いをするのです。

このように日本をカナダでは税金のしくみに違いがありますが、国のしくみも当然違いますので、簡単にどちらがいいとは言えません。けれども、育児用品や加工されていない食品には消費税はかからないというのは大変よいシステムだと思います。日本は少子化の問題もあり、なるべく育児にお金がかからないようにするのは大切な事だと思うからです。また、加工食品をなるべく買わないで生の材料から料理をすれば健康にも大変よく、医療費の節約につながるかも知れません。そしてまた、税金の支払い先を自分で選べるというのは、自分のお金が何の役に立っているのか知ること、税金を支払っても負担とは感じる事なく、社会に貢献しているのだという気持ちをもっと強くもつことができるのではないかと思うからです。

税金によって成り立つ幸せ

京丹後市立橘中学校 3 年 堀 優理香

「四百二十円になります。」

私の好きなマンガ一冊に、四百二十円かかります。本体が四百円で税金が二十円です。おやつを買う時などももちろん消費税がかかります。だから、つい最近までずっと思っていました。「税金って何のためにあるのだろう。増税でマンガ本一冊買うのにまた値上がりしたら嫌だなあ」と。少ないお小遣いなのに、余分にかかる税金に不満を持っていたのです。でも、その時の私は、税の働きを何も理解していませんでした。

中学校入学式、耳が少し聴こえにくい私のために親が、FMマイクを買ってくれました。それは、電波を通して補聴器に話の内容が直接届くマイクなのです。値段は約十万円です。しかし、私の親が負担したお金は約三万円くらいでした。そのことを知った私は、マイクを買う時に手続きをして下さった先生に、「残りの七万円はどこから出たの？」

と聞きました。

「税金。国がお金を出してくれたんだよ。」

と、先生の答えが返ってきました。その答えから、「税金は、私たちの生活の経済的負担を軽くしてくれるためでもあるのだ。」と改めて知りました。同時に、税金の存在に感謝の気持ちが生まれました。

夏休み前、学校で税の学習をしました。消費税、所得税、たばこ税等いろいろと細かく振り分けられていることを知りました。また、集められた税金は、治療費や教科書、年金等これもまた細かく振り分けられていることを知りました。また、集められた税金は、治療費や教科書、年金等これもまた細かく振り分けられて使われていることも知りました。

私たちの親が支払っている税金制限がない、という世界を仮に想像してみると、様々な困ったことが容易に思い浮かびます。ある家庭では高額な治療費を支払うことができず、病気になってもなかなか治療を受けることができません。また別の家庭では、教育費を支払うことが出来ず、学校に行けない子どもたちがいるのです。土砂崩れ等の自然災害で道路が崩れても修復できず、交通機関も麻痺してしまいます。このように税金がないということは、私たちの生活全般に大きな影響を与えてしまうのです。

そう考えると税金の存在が、私たちの生活を安定させているのです。漫画本を買うときの私のように、税金を払うことは生活の中で少し負担です。しかし、税金がないということは、国民全体の生活にとって大きな負担となってしまうのです。税は私たちが幸せに過ごせるように存在するものなのです。一人ひとりが「自分たちの生活の安定と幸せのために税金を納める」という自覚を大切にする必要があると思います。私は、まだ納税者ではありませんが、将来、働くようになったら自分自身の生活のためにもしっかりと納税者でありたいと考えています。

税金のありがたさ

大阪市立新北島中学校 3 年 岡村 裕貴

今、僕達が毎日安全に通学し、学校で多くの事を学ぶことができているのは、すべて税金のおかげだということを改めて感謝しなければいけないと思います。もし、通学途中の道路が整備されていなかったら、信号機が設置されていなかったら、僕達は安心して学校にも行けなくなるでしょう。そして、新学期にたくさん新しい教科書をもらい、パソコンを使って授業を受けたり、理科の実験ができているのも、決して当たり前のことではなく、すべて税金によって支えられているという意識を持ち、日々過ごしていかなければいけないと思います。

先日、太平洋横断に挑戦していたヨットが途中遭難事故により、海上自衛隊に救助されたというニュースを目にしました。僕はこのニュースを見て、始めは、挑戦が失敗してしまった事にかわいそうだなとだけ思っていました。しかし、「そういう問題だけではないと思うよ。」という母の言葉に複雑な気持ちでした。それは、今回の救助費用には多くの税金が使われていたということです。しかし、本来、国民の健康や生活を守る為、つまり国民の命を守る為にこそ税金は使われるべきであると思うから、さまざまな意見がある中で、僕はこの日本という国は、彼らの尊い命を守れたことを誇りに思うし、すばらしい国だと改めて感じる機会となりました。

僕は、今年の夏休みに、「日本—スイス青少年交流使節団」という国際交流の団員の一人として、スイスに行かせていただきました。出発前から、アルプスのすばらしい山々、美しい自然、町並みをイメージしていました。実際に行くと、この目で見たスイスの町並みは本当に美しく、イメージ通りでした。そこで現地の先生から「スイスには犬税というものがあるんだよ。」という話を聞きました。人間でいうところの市町民税で、飼っている犬の頭数分支払うということでした。犬税の使い道は、犬の糞などで汚れた街の清掃費用や、犬の糞の始末の為に街中に用意されたエチケット袋などに利用されているということで、いいことだなと思いました。僕の通学路にもよく犬の糞をそのままにしているのを見かけることがあり、飼い主の無責任さにとても残念な気持ちになります。税金を収めることで、飼い主としての責任感につながると思うし、これは日本でも是非とも検討し、導入するべきではないかと感じました。このスイス派遣を通し、僕はそれぞれの国の文化の違いを知り、日本の良さを再確認できたり、見習いたい所があったり、多くの事を学ぶことができました。世界各国にはまだまだ日本が参考になるような税金の種類や仕組みがもっとあるのではないかと思います。だから、未来の日本を支えていく僕達の世代がもっと安心して生活できる国づくりのお手伝いができるよう税の大切さを学び、そして感謝して行動していかなければいけないと今、改めて感じます。

未来の話をしよう

千早赤阪村立中学校 3 年 高橋 柚月

今、「税」と聞いて真っ先に思い浮かぶのは、「消費税増税」の案についてではないだろうか。日本の消費税は現在 5 % だが 2014 年から 8 % への引き上げを予定しているそう。私達の生活に大きく影響する話だから、当然賛成・反対、色んな意見が飛びかう。現在は「反対」の声が 6 割を占めているようだ。私は賛成・反対両方の視点からこの案について考えてみようと思う。

6 割を占める「反対」派の中で最も多い理由は「家計への負担が増えるから」だそう。分かりやすく 100 円の品物で考えてしまうと、あまり差は感じられないが、私達の生活は 100 円ショップに売っている物では成り立たない。食品、服などではもっと大きな差が生まれるし、家や車などの大きな買い物をする場合、何万、何十万と違ってくるのだろう。これは増税をした場合に最も表面に出てくる問題だろう。増税をするか、しないかという話は、言い方を変えると、今の生活を取るか、未来の生活を取るか、という話になってくるのではないかと私は思う。そして「反対」を選んだ人たちは同時に「今」を選んだ、ということになる。では「未来」を選んだ人達は…？

「賛成」派では「社会保障のために必要だから」という意見がトップだった。医療や介護などの社会サービスは税金を払う上での私たちのメリットだろう。しかし高齢化が進む今、これらも完全に機能するのは難しい。極端な例だが、税率 25% のスウェーデンでは医療や教育費はゼロ、老後の心配もなく手厚い社会保障に支えられている。25% なんて日本では考えられないが、実際生活苦を感じる人は、ほとんどいないそう。見返りがあるからこそ、これほど協力的になれるのだろう。今より 10 年、20 年先の自分の将来を考える「賛成」の人は、税で「未来の安心」を買おうとしているのではないだろうか。

増税の背景にはきっと、日本の国債の問題が大きく関わっていると思う。前にニュースで日本の発行国債が 900 兆円を超したことを耳にした時は、思わずニュースに見入ってしまった。このまま増税反対を押し通し、国債も増え続けた日本をその頃担うのは私たちなのだから。普段何気なく聞いていた増税案の議論、あれは私達の未来の話をしていたのだとその時気付いた。では、その未来を託された私たちにはできることは…？ 私は、まずは「知ること」だと思う。知っているから賛成反対と意見が言える。納得することだって、反論することだってできる。税と聞くだけで少し難しい話のような気がしていた私も、調べごとに、税が生活と深く関わっていること、それも今の生活だけでなく未来まで続いているということがよく分かった。税に関心のある人、日本の増税問題を、自分達にも関わる話なのだと意識できる人が、1 人でも多くいる日本にしていきたい。

身の周りの税

姫路市立安富中学校 3 年 下森 夕舞

私は今、十五才です。まだ自分の力で税金を納めたことはありません。

税について、今の私ではまだまだ気付けていないことの方が多いです。

そんな私でも、分かるものもありました。私の通う中学校には、今までプールがありませんでした。しかし、そのプールが来年の春に向けて建設されることになったようです。私は卒業するので、プールに入ることはないけれど、学校でプールの授業が受けられることになります。市内でも、プールのない学校がどれだけあるのかは正確には分かりませんが、無かったものが形として出来、使用することが出来るようになることが嬉しいことだと思います。

私の中学校は、人数もそう多くなく、クラスも各学年二クラスしかありません。市街地などにある学校に比べると本当に小さな学校かもしれません。そんな小さな学校にプールを設置することに意義を問おうとするとき、そこには、私達の生活のために多額の税を投入してでも皆が出来る限り平等に、そして有効活用出来るようにと考えられ、そこにプールが必要な理由なども色々あったのだろーと思います。

公共施設のプールというものは、直接利用頻度の高い私達以外にも使用方法があります。夏期以外のプールには常に水が張ってあります。これは、火災や天災の際に非常用水として貯水してあると聞いたことがあります。

私達の学校のプールも、地域の防災の備えとなるのです。火災や天災なんて、起こらない方が良いに決まっています。それでも、何か起こってからでは間に合うはずありません。そこで、私達や地域の防災の備えの一つとしてプールが設置されるのだと思った時、税金の必要性が少し理解出来たような気がしました。

一人ひとりが、やっとの思いで納められた税金によって、この小さな私達の学校に、地域にプールが設置され、そのプールは有事の際には私達の地域の貴重な水として備えられているので、税金を投入して設置されるプールを大切にしたいと思います。こんな形で、私に分かり易く教えてくれた、目に見えた税金ですが、私も大人になって働くことが出来るようになったら、この善循環の一員として、人の役に立てるよう納めて行けたらいいなと思います。ひとりのために、皆のために、社会のために、平和のために、誰にでも分け隔てなく、支え合うために使用されるもの。それが、皆で納める幸せ貯金の一つだと私は思いました。

税金に守られている私達の生活

小野市立旭丘中学校 3 年 奥田 祥平

朝、自転車に乗って家を出て、舗装された道路を通って、信号に守られて学校に行く。僕にとっては、当たり前の一日の始まりで、道も学校も当然きちんとあるものと思っていた。ところが、先日、デトロイト市が財政破たんしたニュースを見て驚いた。デトロイトといえば、自動車産業で有名な巨大都市として学習したが、現在は自動車産業の衰退とともに、住民も減り、働く場所を失い、町は廃墟となり、税金を納める人が減って財政破たんしたということだった。道路は、草ぼうぼうで、廃墟となった家や工場跡が崩れそうな状態で建ち、ごみも町中にあふれていた。衛生状態も悪く、病気が蔓延してきているようだ。治安も悪化し犯罪も増えてきているという。なんとかしたいが、この町の状態を健全にするための歳入すなわち税金が足りないと知った。今ある、自分の生活の当たり前が、実は、見えないところで整備され整えられた中で成り立っていることが分かった。そうして、これを維持する大切さを実感した。

日本の財政状況をみると、財政赤字が大きくなって、歳入の半分が国債になっている。自分の家で考えたら、使っているお金の半分が借金になっているということで、それをどうやって返すのか、こんな生活していいのかと不安になった。デトロイト市の財政破たんは、自分たちの目の前に迫ってきているのかもしれない。歳入を増やす努力と歳出を最小限にして健全な財政にする必要性を感じた。

では、実際にそういうことができるのだろうか。震災で被害を受けた人々を救わないといけない、ゲリラ豪雨による洪水や増水で、命の危険がないように道路や河川を補修しないといけない、お年寄りや子供が安心できるように、予防接種や医療費の補助をしないといけない、学校も整備して、将来の日本を背負う人材を育てないといけない。思いつくだけでも、たくさんのやらないといけないことがあって、減らすことは難しい。それでは、税収を増やすためにできることは何だろうか。フランスやスウェーデンでは、もっと多くの税金が課せられている。例えば、収入の多い人たちが多くの税金を払って、社会に貢献する。また、復興のための税金とか、災害防止のための税金とか、未来の子供たちのための税金とか、使い道も知らせていく。そのことで、自分の税金が社会に役立っているという喜びにして、みんなで助け合おう！という気持ちを広げていくのもいいのではないかなと思う。

厳しい経済状況の中で、環境を守る責任とか、住んでいる人を安全・安心に守る責任とか税金に対する期待はたくさんある。僕は、今はその税金に守られて生活し、義務教育で学ばせてもらっているが、いつか社会に役立つ一人となって、税をきちんと納められる人になりたい。

「税金の使い方を考える」

東吉野村立東吉野中学校 3 年 榊井 麻生

今年の 6 月全盲のヨットマン岩本光弘さんをサポートして、小型ヨットエオラス号で、太平洋横断に挑戦したニュースキャスターの辛坊治郎さんが、出航から 6 日後浸水が発生し遭難事故にあい救助の要請を出して海上自衛隊に救助されました。

海上自衛隊や海上保安庁は、波の高さが三メートルでも着水出来る飛行艇 US-2 で、辛坊さん達を救出し、無事に生還を果たしました。

その時、インタビューで「私はこの国の国民でよかった」と辛坊さんが、泣きながら話していました。この救出には、数千万円の費用が使われたそうですが、今回は、自己負担の必要がなく、税金が使われたそうです。

その事については、色々と文句や中傷もあったみたいですが、私は、税金をそんな時に使ってくれる日本をさすがだと思いました。

去年、この村でも起きた山での中学生の遭難事故や、私たちの身近なところでは、救急車や消防車が連絡ひとつで助けに来てくれるという安心感がある事が日本の国の良さだと思います。

私達の村は老人が多くて車の運転のできない人も多くいます。本当にいざという時、すぐに駆けつけて来れる救急車は、人の生死にかかわる事なので、とても助かると思います。また、火事の時も、どんなに夜が遅くても、朝が早くても、すぐに火を消しに来て来れるし、どんなに山奥でも日本中どこへでも行ってくれるシステムが整っているのがすごい事だと思います。

そして、それらは、すべて個人負担ではなく、税金という形で助け合っているのだと思います。もし個人で支払うとすると、それはすごい金額になるけど、皆のお金をその人に見合った分だけ集めて、それで助け合うのだから負担が減ります。

こんな風に考えると、やっぱり税金は必要なものなんだと思います。

日本の財政を立て直して安定した社会保障費を確保するために、消費税が来年 4 月から、今の 5 % から 8 % になり、再来年 10 月には 10 % に引き上げられる予定になっています。

世の中は、「アベノミクス」効果で、景気が良くなって来ているといいますが、電気やガソリンなど色々な物が値上がりしていて、私達には、まだその実感が正直ありません。

東日本大震災で、被災した人々も、まだまだ苦難を強いられています。こんな時に消費税を上げて、本当に日本は豊かになるのかと思いますが、むやみに消費税増税を反対するだけでは、お互いに助け合う社会は作れません。

国民が必死に働き納めた税金を、無駄なく使うことを本気で考え、私たちが困ったときに助けてくれる、そんな「カッコイイ日本」を築き、私自身も将来それを支えていけるような大人になりたいと思います。

税金による防災

田辺市立龍神中学校 3 年 西 涼太郎

二〇一一年三月十一日、東北地方を襲った東日本大震災では、地震や、それによる大規模な津波で多数の死者を出す大きな被害がもたらされた。

それ以降、盛んに叫ばれているのが、「防災」である。そこで僕は、身近な地域ではどのような防災対策が行われているか調べてみた。

僕の住む集落は家の裏まで山が迫っており、ほぼ全域が急傾斜地崩壊危険区域という土砂崩れなどの危険性が高い区域に指定されている。

最近、その危険性を減らすために、土砂災害崩壊対策事業という工事が行われている。それは、急な斜面をコンクリートで固め、大きな壁をつくり、万一土砂崩れが起こっても家などには被害の及ぶことの無いようにするというものだ。

僕の家もこれまで、裏は急斜面で大雨が降ると、上からぱらぱらと小石が落ちてきたりしてとても怖い思いをすることもあった。

しかし、この急傾斜地崩壊対策事業のおかげで、安心して生活を送ることができるようになった。

この工事は、僕たちの集落だけで約七億円もの費用がかかったそうだ。

もし、七億円というお金を地元で負担するとしたら大変なことになる。僕の住む集落は小さな集落なので、一軒あたりの負担金額はものすごい額になるだろう。そうなればこの工事は行われず、僕たちはずっと土砂崩れとの恐怖と闘いながら暮らさなければならなくなる。

それを救ってくれたのが、税金だ。これは国の事業で、費用の内九十五パーセントは国や県、市の税金で賄われており、約六億六千五百万円までが税金である。税金が使われることで、地元の負担金額はほぼ皆無に等しいものとなった。

こうして、僕の身近な地域では着々と防災対策が進んでいる。

防災対策は一人の力でできるものではないと思う。人々が納めた税金で、かけがえのない命や大切な財産を守るというのは素晴らしいことではないだろうか。急傾斜地崩壊対策事業の他にも、津波対策、洪水対策など、税金による防災対策が行われていることはたくさんある。

たくさんの人々が納めた大切な税金で、みんなの暮らしを守り、より安全なものにしていくのが、国を始めとした自治体の責務だと思う。

税と我が国の借金

福山市立向丘中学校 3 年 藤井 祥子

「借金時計」。税に関する知識が乏しい私が、この作文を書く為に情報収集に用いたインターネットで出会った。私は、この不思議な時計の虜になった。

瞬く間に増えてゆく国の借金。毎秒約百万円のスピードで増え続け、一日で千億円の借金を生み出す計算になる。

なぜ、日本はこれほど多額の借金を抱えているのか。この借金時計のスピードを遅らせることはできないのか。私には二つの疑問が浮かんた。

まず、借金の額についてだが、国の収入の半分は税金、もう半分は公債金である。公債金の額がこれほど膨れ上がる理由を、私は、税収入が少ないからだと考えた。税収入が少ないのは、所得税や法人税などの所得課税が少ないからではないかと思う。景気が回復して、個人の所得が増えれば、より多額の所得税や法人税が納められるのではないか。そうすれば、公債金収入は少なくなるのではないかと考えた。

次に、借金時計のスピードを遅らせる方法についてだが、先程の要領で税収入を増やせば、公債金収入は少額で済む。このサイクルが確実に実行できれば、徐々に日本の借金は減少し、借金時計の歩みは遅くなるのではないかと考えた。私の望みは、借金時計が逆走して借金が減ることだが、まあ、不可能だろうから、せめて、スピードが遅くなってほしいと思う。

私は今まで、「税金の種類は？」と聞かれても、消費税くらいしか答えられなかったけれど、今はもっとたくさん言えると思う。税の作文を通して、税金の種類をたくさん知ることができたし、税金の使いみちも分かった。学校も、教科書も、病院の治療費も、警察や消防、救急車にも税金が使われている。つまり、私達は税金の支えなしでは生きてゆけないと言っても過言ではないと言える。

私が税金を納めるようになったら、脱税などせず、国のために、自分のために税金を納めたい。そして、国には、みんなが懸命に働いて納めた税金を、効率よく使用してほしい。

この国には、多額の借金がある。それ以前に、そもそも、借金の無い国のほうが珍しいのではないか。借金は、経済のメドも立たないまま、私達の世代へと受け継がれるだろう。後は次の世代が何とかしてくれる…根拠のない信頼と共に。それではいけない。税金を使用して借金を返済しているのなら、借金から目を背向けず、向き合っていくべきだ。そのために「借金時計」はあるのだから。

教育を支える税

高松市立香川第一中学校 3 年 遠藤 侑里奈

「こんなにかかるの。」私は、兄が持ち帰った税に関するパンフレットに釘付けになった。なぜなら、それには、公立学校の児童・生徒一人当たりの年間教育費の税金負担額は、小学校で約八十六万円・中高校生では約百万円とあったからだ。一年間でこんなに税金が使われているなんて。いったい何に支払われているのだろう。不思議に思い調べて見ることにした。インターネットで調べたり、税務署に行って聞いたりした。すると様々なことが分かった。学校教育費については、小中学校の教科書代・先生方の給与・学校施設管理費全般・育英資金など様々だった。中でも、特に次の三つの税負担の内容が心に残った。

一つ目は、教科書の無償配布だ。中三の私は教科書を頂くのも最後となる。過去に頂いた教科書は、一年生の時から大切に本箱に保管している。小学校の時、両親から教科書は無償給付されていると聞いていた。今年四月に、兄の入学準備で高校へ付き添った父が、「高校からは教科書代が高くて大変だ。」ともらしていたのを思い出した。今まで当然のようにもらっていた教科書が、高校からは実費での購入となるのだ。無償で頂けることに、改めて感謝すると共に、教科書の隅々までよく読み、授業や予習復習にしっかり役立てて行かなければと強く感じた。

二つ目は、校舎の工事である。高松市の小中学校では、地震に備えての耐震工事が近年行われている。私の通う中学校でも工事が無事終わり、今では、安心して学習に取り組める。二年後には、各教室に冷暖房も完備されるとのことだ。整った環境の中で気持ちよく学習できることは、本当に幸せだと思う。

三つ目は、学校給食だ。兄が高校に入学して以来、毎日母は早起きしてお弁当を作っている。「おかずの材料代だけでも毎日買うと高くつくし、学校給食は、バランスよい食事で一食三百円以内だから本当に助かる。」といつも言っている。調べていくうち給食費についても、税金による補助により、家庭の負担が軽減されていることが分かった。給食費未納の家庭が、年々増えてきていることを新聞で読んだことがある。栄養バランスのとれた給食を毎日、安価で提供してもらえるのだから、給食費は必ず支払うべきだと思う。また、給食を残さず食べることも給食補助費としての税金を大切にすることにつながると思う。

今回の調べで、学校教育への税の使い道がよく理解できた。日々恵まれた環境で何不自由なく学習できるのも、大勢の方々が一生懸命働き納めた税金のおかげだ。そのことを忘れてはいけない。また、税によって私たちの学びが保障されていることに、感謝の気持ちをもつと共に、税を納める人々の思いに恥じないよう日々の学習に励みたい。そして、将来、働いて税を負担する立場になった時、少しでも恩返しができるよう社会の一員として、納税の義務をきちんと果たしていきたい。

税があるから

日高村立日高中学校 3 年 福本 理帆

「税金が、私達の暮らしを安全で快適なものにしてくれている」この事に初めて気付いたのは、中学一年生の時の、学校で行われた心臓検診がきっかけでした。この学校心臓検診で心電図をとった時に、異状が見つかり、くわしく調べる為に病院へ検査に行くことになりました。病院には、自分が思っていたより多くの人がいたことに驚きました。

診察の結果、心臓が急に運動した後のようなドキドキする症状がでしてしまうような病気があることが分かりました。幸いに、この症状があまりひどくなく、今は普通に運動や部活動をする事ができます。症状も、人によって違いがあるようですが、ほとんどの人が少しずつ治っていくらしいです。念の為、一年に一回、心臓の様子を知る為に病院へ診察に行くことになりました。

中学二年生の時に病院へ行った時、母にカウンターの人に紙を渡してくるように言われ紙を渡しに行きました。その時、母から渡された紙は病院へ行った時、よく見る紙で何の紙なのか気になり、母に聞くと

「医療受給者証ってって、村の税金からその村で住みゆう人の中三までの子供の医療費を払ってくれる手続きのする保険証みたいなものがで。」

と言っていました。その他にも、母はいろいろと話してくれました。医療受給者証は、住んでいる場所によっては出ない所もある。別の使われ方もしている所もあると、私は母から税金の使われ方を初めて聞き驚くばかりでした。みんなが、私の住んでいる村のように医療費が出ている訳ではない事を知り他の所ではどんな使われ方をされているのか気になりました。でも、もし使うならそこに住んでいる人が豊かな暮らしが通れるように使われているといいと思います。

「税金」とは、私達の暮らしを安全で快適なものにしてくれる、母の話を聞くまでの私はこんな風に思うようになるなんて、全く想像もつきませんでした。

あと五年もすると、私は社会人になり税を納める立場になります。今回、納税について学んだ事をこれから先も忘れず、自分の知らない間にお世話になっている税金について、もっと理解を深めていきたいです。

これからの未来社会がより暮らしやすいものになるためにも税への関心を高め、私達国民が税を知ることが大事だと思います。

今年も、私は病院へ診察をしに行きますが、その時は税によって無償で診察を受けることができるということ、その税に感謝を忘れてはいけないということ胸に、受けます。税のある日本はとても幸せな国だと思います。これからも、日本国民の幸せの為に税であってほしいです。

収入が多ければ支払う税金も多い。それが常識だと思っていた。税金は、皆で社会を支えるための「会費」のようなもので、多く持つ物が多く持たない者を支えるための制度だと学んできたからだ。しかし、どうやら私の中の常識は世界の非常識であつたらしい。どう見ても「多く持つ」者である多国籍企業が節税として、税率の低い国を利用しているというニュースに驚いた。名前が上がっていたのは誰もが知っている大企業ばかりで、耳を疑った。節税の全てが悪いわけではない。合法的な手段は認められているのだし、支払いは少ない方がよいに決まっている。でもこれはあんまりだと思った。これらの企業は進出している国々で商品を販売して収益を上げている。つまり、その国の人々の収益の一部を手にしてしているということだ。それにもかかわらず、その国に相応の税金を払わないとは不公平ではないか。節税できればもうけが増える。そうすれば企業のサービスはよくなるかもしれない。雇用も増えるかもしれない。良いものを安く買えるかもしれない。いい事づくめに見えるが、視点を変えると困ったことが起きるのが分かる。

世の中は企業だけで成り立っているのではない。もうからないがなくてはならない仕事がたくさんあるのだ。一言で言えば、公共サービスがそれだ。学校・警察・医療・消防など、毎日の生活にかかせない多くのサービスは税金で支えられている。これらの大半が商売にはならないからだ。これらの全てを企業が運営するとしたらどうなるか。収益が増えなければ、閉鎖や廃止に追い込まれることになる。あたり前と思っているサービスをあたり前に受けるには、税金を払う者がどうしても必要なのだ。大半の人は地道に税金を払っている。しかし、多額の収益を上げながらほとんど税金を払わない企業が増えれば税収は低下する。その結果、国や地方自治体の財政が悪化し、公共サービスの質が低下することになる。

こうしたことを考えると、企業の税金逃れを防ごうとするルール作りをしようと国際社会が動き始めている理由が分かる。私達の暮らしを守るためには皆がきちんと守る納税のためのルールが必要なのだ。同じだけ収入を得ているのに、納税しなければならぬ人と納税しなくてよい人がいるなどという事態は防ぐべきだ。

このニュースに接して、税金について改めて考えた。私も常日ごろ、税金によって支えられているサービスを利用している。社会の皆が払ってくれたお金で学校に通い、医療サービスも受けている。将来も税金に助けられることが多くなるだろう。税は社会にはなくてはならないものなのだ。私もいずれは納税者になる。その時今回学んだ事を忘れずに、きちんと税を納めたいと思う。そうすることによって社会に貢献していきたい。

美しい心で

学校法人美萩野学園小倉日新館中学校 2 年 大八木 花萌

「その会社から、商品を買わないで。」

アメリカの大手通販会社に CD を注文している時、母が私に言いました。他の会社より在庫もあり早いし、何より安い。母の言っている意味がわかりませんでした。

母はわかりやすく説明をしてくれました。その会社はアメリカを本社とし、日本でどれだけ利益があっても、日本に税金を払わなくて良い仕組みを利用し、日本に税金を納めていない。税金は人々の生活を豊かにするものだから、日本人の消費が日本の役に立たないのはおかしい。少し待っても、少し高くても、日本を豊かにする会社から買ってほしいと。

母の言いたいことは何となくわかりましたが、やっぱり早い方がいい。安い方がいい。

けれど、その話しがあってから、アメリカの大手コーヒーチェーンがイギリスに納税していない。アメリカの IT 企業が納税していないと大きなニュースになりました。そして、その二社だけではなく、多くの企業が税金のない国に本社を置き、税金を納めないことが、G 8 という国際会議で問題になりました。

税金がなくなるとどうなるのか。海外で、ごみが回収されず街中がごみだらけになっている映像がありました。日本の夕張市では財政破綻をし、小学校がたくさん統合され、小さな小学生が長い時間歩かないと学校へ行けない。今、古い橋やトンネルが問題になっていきますが、それも改修できない。当たり前の生活が送れなくなっていく。大きな収入を得た人、企業が次々に税金のない国へ向かえば、いつの日か日本や多くの国が荒廃していくはずです。荒廃すれば、経済活動もなくなるでしょう。企業が行き詰まれば、株で利益を得ることも出来なくなります。少しずつ美しい地球が崩れていきます。

多くの国の中でも安全で、人々が平和に生活出来る日本が好きです。美しい日本を守るためにも、人は支え合い生きているという、美しい心が大切だと思います。

フォルクスワーゲンの創業者は、「社員が自社の車を買えないような報酬ではいけない」と言われたそうです。会社が得た利益は社員のお陰。利己的な考えではありません。

アメリカでは以前から、富を得た人は寄付や慈善活動をすることが成功の証です。しかし、今回の問題を考えた時、今そのように考えている人がどれだけいるのでしょうか。

この作文を書いている時、株で富を得て税金を減らすために、海外へ移住をした人がテレビに出ていました。税金が減った。富裕層の人脈が出来ると語りながら高級車に乗る姿。持っているものも車も一流ですが、利己的で二流以下の人にしか見えませんでした。

度々税金の使い方が問題になることは、政治家の方や、予算を立てる方々が改善すべきことだと思います。人々がより良く暮らしていけることに正しく使われることも、税金に対する考えを変えることにつながるはずです。

「税」について

福岡市立香椎第三中学校 3 年 川内 春菜

私は今まで「税」について考えた事がありませんでした。テレビや授業で税についての話題が出てきても、どこか他人事のように感じていました。

去年の夏、九州北部を中心に大豪雨が襲いました。この豪雨で土砂崩れが発生し、道路が塞がれたり、河川の氾濫により橋が流されたりしました。道路や橋の設計をしている私の父は復旧作業のために盆休みを返上して現場を視察したり、夜遅くまで仕事をしていました。多くの人が利用する道路や橋が使えなくなると、通常の生活がマヒしてしまうため、急いで復旧させなくてはならないからです。ふと私は「道路や橋の膨大な建設費用が急にどこから出てくるんだろう。」と疑問に思いました。すると父が「国から税金で特別な予算が出て、それを使っている。」と教えてくれました。私は、地方で起った事に対して国がすぐに資金を出してくれる事、こんな所に税金が使われていた事に驚きました。このことは私が税について深く考える良いきっかけになりました。

災害の復旧作業に税金が使用されている事を知り、まだ私達が暮らしている中には税金によって支えられているものがたくさんあるだろうと思い、調べてみました。

私は月に一回治療のために通院しています。実はここにも税金が使われていました。私の病気は特定疾患というものに指定されているため、月の治療費や薬代の一部が税金で賄われています。なので、MRI やエコーなどの検査も安く済んでいてとても助かっています。他には、いつも遊んでいる公園や警察・消防の活動、ゴミの回収や処理にも税金は使用されていました。

さらに調べると、とても悲しい事が分かりました。多くのものと密接に結びついている税金。しかし、その税金だけでは国の支出を補えず毎年多額の借金をしている事です。このまま借金をし続ければ返済の方に税金がつぎ込まれてしまいます。するとどうでしょう。道路を通るためにお金を払ったり、教科書も自分達で購入しなければならなくなり、いつも通りの生活が送れなくなってしまいます。

日本は増々高齢化が進み、税金を納める若い世代が減っていきます。これから大人になる私達には何ができるのでしょうか。それは、ちゃんと税を納めていく事、税金の使われ方を見ていく事です。しかし何も知らなければ、税金の使われ方を見極める事ができず、無駄な税金の使われ方をされても気付くことができません。そのために、税金の仕組みを学んで、税について理解を深めていく事が必要です。

私は上の世代の方々が繋いできて下さった“税のバトン”を途中で切らすことなく次の世代へ繋いでいけるように、税と向き合っていきたいです。

私達の身の回りを支える税金

久留米市立牟田山中学校 3 年 豊福 優輔

昨年夏の七月。突如発生した豪雨。あの九州北部豪雨だ。僕は、九州北部地方の福岡県久留米市に住んでいる。もうここに住んで今年で十五年目になる。昨年みたいな体験をしたのは初めてだ。

昨年の久留米市は七月に入ってから一週間ほど、集中豪雨みたいな土砂降りの雨に見舞われた。家を出る時、靴と靴下を脱いで制服のズボンを太ももの位置まで上げないといけないくらいの雨水が大量に入っていた。その通学時に辺りの店をよく見てみると、床が雨水で浸水していて店の人は大変困った顔をしながら黙々と雨水をかき出していた。

家に帰ってこの豪雨のニュースはないかと探してみると案の定、ほぼ全部のテレビ局が豪雨の事を取り上げていた。そのニュースを見ていたら、唖然とするような光景がそこにあった。まるで、どこかの外国の川をイメージさせるような茶色に濁った筑後川が氾濫している様子や、他の地域では橋が崩壊したり、道路が寸断されたりともう本当に見るに堪えない悲惨な光景ばかりだった。

その時、この災害でふと思い出したのが、小学六年の時にした租税教室の事だった。こういう大災害が起こった場合、直ちに国から多額の補助金を貰い、一刻も早い復興を目指して市町村に渡されるお金がある、つまり全ては税金によって賄われているというのを思い出して、税金というのは非常時の為にも使われるんだと思った。当時は、税金の事をあまり詳しく理解していなくて、こんなにも税金の事を考えたのはこの災害があったから、そして県や市町村のために役立っているのだと思うと、今まで税金の事を知らなかった自分がとても恥ずかしくなった。

あれからまもなく一年が経つ。まだ完全な復興とは言い切れないが一年前みたいに活気のある町を取り戻しつつある。

私達の暮らしは税金によって支えられている。そして役に立っている事を昨年の災害が教えてくれたので、税の事を詳しく知れたし知れたからこそ、より身近になったと感じた。

そして小学六年の時、租税教室の学習をして本当にためになって良かったと思う。なぜなら、日本国民のためにサポートしてくれているので、こんなに幸せな暮らしが出来ているから。警察が動くのも税金。病気になった時、病院でかかった医療費も税金から。自分達の身近で最も関わりのあるもので言うと、教科書無償というのも無料になったわけではなく、昔の保護者からの強い意見で教材費は全て税金から支払われている。よく考えると自分達の知っている所から知らない所まで、たくさんお世話になっているんだとまた改めて感じさせられた。

最後に、税金についての学習を通して税金が身近になったと思った。私達の身の回りを支える税金で全国の人が笑顔になって、不自由しない社会であってほしいと思う。

我家の不況と税金

熊本県立宇土中学校 3 年 松本 茉李南

「来月からお小遣い一割減らすけんね。」

「えーっ!!何で!?.」

突然の父の言葉に家族全員不満の声を上げた。

「給料カットだけん仕方なかない。入ってくるお金の減るなら使うお金も減らさな生活の成り立たん。」

「えー。夏休みでお金いるのに…」

テレビや新聞では景気は上向きだと報道されているけれど、我家には不況がやって来た。

「あとちょっとで欲しい文具買えるのに。」

こうなったら仕方ない。この夏はアイスやジュースを我慢してお金を貯めよう。そしたら一割カットくらい何とかなるかも…

夏休みに入る前、租税教室があった。そこで納税は国民の三大義務として憲法で定められていることや、一口に税と言っても様々な種類があり、どれも私達が健康で快適な生活をする上で欠かすことができないことなどを楽しく学習することができた。そこで私は考えた。父の給料が下がったということは、すなわち我家の所得が減ったということで、国に納めなければならない所得税も減る。私がアイスやジュースを買い控えるということはそれらにかかる消費税が国に入らないということで国の収入減につながる。税金は国民みんなで出しているのだが、我家のような家庭が増えると国の税収がかなり減る。しかし、社会保障関係費や公共事業費など、私達の生活に欠かせない出費があり、それらを減額することは国民へのサービスの質の低下につながり、むやみに減らすことができず国家財政が厳しくなる。税は、私達の生活と密接なつながりがあるのがわかると同時に、国のお金のやりくりの難しさは、スケールや項目はかなり異なるが、家計によく似ていると思った。

では国の税収を増やすにはどうしたらよいか？消費税の税率を上げる他に何か方法はないのだろうか？近くにいた母に尋ねてみた。母はしばらく考えた後、「あなたがしっかり勉強して、沢山お金を稼げる人になって高額納税者になればいいんじゃない？あとは、次世代の納税者になるべく子どもを産み育てて健康に過ごすこと。そしたら私達は年寄りになっても安心して生活できるかも？」

遠回しに「もっと勉強したら」と言われているような気もしたが、なるほど…未来の主たる納税者になる私達が将来きちんと納税できる収入を持つべきで、そのためには今から勉強し、多くのことを学んでおいた方が良くと納得できる部分もあった。私達が住んでいる日本は、国民みんなが出し合っている税金のお陰で中学までは教科書や授業料は無料になっている。この恵まれた環境を生かし、一人一人が立派な納税者に育ってこそ豊かな国になる最良の方法だと気づいた。

直径五センチメートルから見える税

鹿児島市立鹿児島玉龍中学校 3 年 下吹越 愛莉

「いってきます。」と言って玄関を飛び出した私。その視線の先に一本の旗が立っていました。不思議に思って近づいてみると、直径五センチメートル程の穴があいていました。はじめは、いたずらだろうと思い、あまり気にとめていませんでした。

真っ暗な中、いつもと変わらぬ帰り道を歩いていると、赤や緑の光が見えました。慌ててかけ寄ると、一台のショベルカーがとまっていました。そして、さらに驚いたことは、十時間ほど前までは小さい穴だったのが、その百倍以上の大きさにほられていたことです。「ただいま。」と言って家に飛びこむなり、私は父にかけよりました。「緊急工事中」と書いてある看板が気に入り、「どうしたの。」と父にたずねました。すると、「誰かが市役所の道路建設課に電話したのかもしれないね。」と言いました。「小さい穴があるだけで、なぜ大がかりな工事をしているの。」と私は再び父にたずねました。すると、あの小さな穴があるアスファルトの下には、大きな空洞があり、大変危険だということを教えてくれました。私がいたずらだと思っていた、あの旗が警告の役割を果たしていたとは思いませんでした。しかし、緊急な工事の費用はどこから出ているのだろうと私は、ふと疑問に思いました。すると、この問いかけに父は、みんなの税金が生かされているということを説明してくれました。私は、こんなにも身近なところに税金が使われているとは、思いもしませんでした。いや、それは、私が気にとめていなかっただけかもしれないと思い、不思議と税に親近感がわいてきました。この工事が行われている道路は、私の通学路です。もし、いたずらだと思って放置したり、旗をどかしていたら、大きな落とし穴に車がうもっていたかもしれないと想像できます。だから、今まで安心して歩いていた通学路が安全であることも税のおかげだと思うと税の重要さを知ることができました。

私たちが納めている税金は、めぐりめぐって、私たちの生活を安心、安全なものにしていくことにつながっているのだと実感しました。毎日、同じ通学路を安心して歩けることに感謝すると同時に、税のありがたさを感じました。だから、十五歳の私にも納税の義務を果たす未来の自分への自覚と果たさなければならぬという責任感がわいてきました。

私は、たった十時間ほど前に見つけた、直径五センチメートルの穴から、今、工事している百倍ほどの穴のように、税についての考えを深くほりさげることができました。この日常体験を通して思ったこと。それは、税を納めることは、未来に誇れるまちづくりにつながるのだということです。後数年で私も納税者です。そのときに気持ちよく納税できる人でありたいです。日本が、そして、ふるさとがもっと活気づくように。

将来を担う子供たちのために

那覇市立城北中学校 3 年 知念 穂希

僕の家は、母と僕が住む「母子家庭」です。母は、僕が二歳の時に離婚し、女手一つで今日も僕を育ててくれています。

母は大手スーパーのパートとして、家計を遣り繰りしています。出勤時間は一定ではなく、不規則な生活を辿っています。毎日大変な中、母は一度も僕に弱音を吐いたことがありません。また、僕が幼い頃から極力本を買ってくれたり、少しばかり教育熱心な母です。しかし、中学校や高校と進学する度に莫大な学費がかかり、母は苦しいことだと思います。そんな中、母を救ってくれたものは、生活を保護してくれる「母子扶養手当」や学費を手当してくれる「就学援助費」などでした。これによって母の負担も軽減されたと思います。

僕は毎日、家族を守ってくれる税に感謝をしながら、勉強や行事、生徒会活動に取り組んでいます。しかし、税に感謝している僕ですが、「税」についてあまり知りません。僕らを守っている税はどこから取っているのか、どんな事に使われているのか等、様々な疑問を思った機会に僕は、税について調べてみることにしました。

まず、税は様々な形で納められていました。国民や県民、市町村民からの住民税、会社に勤めている人や商売をしている人からの所得税等と国や地方に、税を納めていることがわかりました。

次に、税金はどこに使われているのかを調べました。すると、国の歳出の半分が僕達、国民のために使われていました。社会保障や公共事業など身の周りが税金から成り立っているのだと実感できました。しかし、国の借金約九六〇兆円になり、日本の人口を一億二千万人と考えると、国民の一人当たり八百万円の借金を抱えているということになります。これから先、消費税が十パーセントまで上がると聞き、僕は反対の意志がありますが、それ以上に賛成の思いでいっぱいです。無駄なことに使うのはゆるせないことだけど、これから先、社会保障や学習環境を実充させるために使われるのならば、僕は賛成です。

僕は今、中学三年生で受験が待っています。仮に、合格したとして、次は大学入試、就職試験等、多くの壁が立ち上がるのだと思います。僕はその壁を乗り越えて、立派な社会人になることを心に誓い、日々の勉強を頑張っています。

税を自分で払える歳になったら、払うべき税を全て払い、今まで育ててくれた母に恩返しをしたいと思います。

税は、「取られている」という考えを持つのではなく、国や地域、人々に感謝の気持ちを込めて納めるものだと思います。「感謝」という名の税を納めることで、国や地域のためになり、これから先、日本を担う子供たちのためになるのだと僕は思います。

増税の日の迎え方

札幌市立陵陽中学校 3 年 渡邊 未来

『参院選挙各党首らの第一声。』その日、社会科の先生は、生徒に新聞記事のコピーを配り授業を始めた。授業の内容は各政党の政策を比較して、特色をまとめる、というものだった。みんなと一緒に作業を始め、その新聞を読み始めた私の目にはある同じ内容の一声が入ってきた。「消費増税反対」「復興予算がピンハネされる状況で消費増税を認めることはできない」「消費増税は今やるべきではない」このような意見がたくさんあった。もしかすると日本国民でもこのような気持ちの人がたくさんいるのではないかと思った。このような状態で来年四月の増税の日を迎えても良いのだろうか。

「まだ不安」母の口からでた言葉だった。私は母に「増税についてどう思う？」と聞いた時の最初の返答だ。増税によって日本がより住みやすくなると信じている私には少し予想外の答えだった。母は「本当に政府がうまく税金を使用してくれるのか不安。でも、将来日本を支えるための貯金は絶対必要だから今やるべきかな。」とても不安気な様子だった。これが国民の気持ちなのか。直接、日本人の増税に対する不安を耳にした気がした。

私は小さい頃、四年間ほどヨーロッパに住んでいた。世界的にも消費税が高いといわれているヨーロッパの国では「人が安心して生活できるサービス」が整えられていた。「人が安心して生活できるサービス」とは例えば、医療費の無料、教育費の無料、幼児への応援サービスらだ。人口が少ないからこそ行えるサービスなのかもしれないが、日本は人口が多い分たくさんのお金を集めることができると思う。日本の増税は少子化をストップさせる第一歩になるのでは、と私は思っている。

毎回、政治家の人達が増税を反対しているところを見たとき私は、「増税を決めたのはあなた達なのだから、反対などをせずに決めたなら決めたなりにもっともって政治家みんな協力して税の良い使い方や政策を国のために考えてほしい。」と思っていた。でも今は、反対者の気持ちも分かる。なぜなら本当にこの政策がうまく成功するのか「まだ不安」だから。

今、一番大事だと思っていることは、増税によって集められたお金を社会保障に本当に使うこと、政策を「本当に実行」することだ。

今、国民の不安をなくして、全員、いや一人でも多く増税に対して不満をもつ人をなくしていく必要があると思う。このまま不安のある人がたくさんいる状態のままにしてはいけない。このままではだめだ。日本に住む人全員に大きく関係があるからこそ、みんなが素直に良い気持ちでその日を迎える必要があると私は思う。

来年、消費税が上がった日に、誰一人文句を言わないでいつも通り、今まで通りにみんなが生活していることを願いたい。

税が形づくる私の生活

大崎市立古川北中学校 3 年 渋谷 友里子

この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。

教科書の裏表紙に小さく書かれたこの文句。学年が変わったら新しい教科書が届いてお金なんて払っていないのにいつのまにか自分のものになっていて。すっかり慣れたあたりまえのシステム。けれどもそれは本当に“あたりまえ”なのだろうか。税金がどこでどのように使われているのか、私達はもっと深く理解するべきなのかもしれない。

中学三年生の私。身の回りには税金によって賄われているものがあふれている。落書きだらけの机も理科の実験道具も、毎日過ごす中学校の校舎も。そんな環境の中で成り立っている私自身の生活だって、言ってしまうと税金のおかげで形づくられているものなのだ。そう考えると、その税金を負担している人達、父や母にはよく感謝しなければならないと感じる。自分達が常に多くの人々の支えのもとで生活しているということは、しっかりと自覚すべき事実なのだ。

しかし私達中学生も、将来その税金を負担する中心となる。テレビ等を見ると、その負担はどんどん重くなっていくということがよくいわれる。原因は何か。少子高齢化である。子供が減るということは将来税金を負担する人々、勤労者世代が減り、一人一人の負担が大きくなるということだ。その上高齢者人口の割合が増えるのだから、負担はさらに大きくなる。消費税が増えるとテレビで放送される度に、特に深く考えもせず嫌だとかなぜだと言ってしまう私達だが、その必要性についても、将来の納税者として理解すべき所は理解していかなければならない。

いずれにせよいえるのは、私達は税金についてその使い道に関心をもち理解を深めなければならないということだ。ただなんとなく税金を負担しているのではなく、自分の負担した税金がどこで何のために使われているのか把握することが大切だ。そうすれば納税者としての責任を一人一人がしっかりともつことができるだろう。

そしてもう一つ大切なこと。それは、税金について多くの事を次世代へ伝えることである。私達の老後の安定した生活や、健康で文化的な社会を実現するためには、大きな費用が必要であり、その財源の中心は税金だ。将来の生活のためにも、今のうちから“税”についてたくさんを知っておく必要がある。そして私も、責任をもって税を納め社会を支える一員になりたい。

机に並んだ教科書。学校。私の生活。どれも多くの人々の支えのもとでつくられているものであって、決して“あたりまえ”などではない。そのことを忘れずに、常に感謝の気持ちをもって日々の生活を過ごしていきたいと思う。

税について思う事

筑西市立下館北中学校 1 年 笠倉 真衣

小児慢性特定疾患。私はこの制度に助けられ、感謝の気持ちをもって毎日病院に通っています。

私は五歳の時に、I 型糖尿病を発症し毎日インスリン注射をしています。その時に使う薬や器具は、皆さんの税金によってまかなわれ、大きな負担を背負うことなく治療をすることができています。日進月歩で医学は進歩しているとはいえ、現在の医療ではこの I 型糖尿病は完治することはありませんが、前向きに自分の病気とつき合っていこうと思っています。病院に通うのも今となっでは楽しくもあり、勉強になったりでもあります。

日本には、人と人が助け合える税金制度があることを小学校の時に税金教室で学びました。税金が形となり、物となり、人の心を助けていることに、驚いたと同時に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

私と同じ I 型糖尿病の子供達が、世界中にはたくさんいます。みんな、血糖値を測定したり、インスリンの注射をしたり、希望をもって明るく生きています。でも、国の制度の違いで高額な治療費が支払えず、重症化したり、命を落としてしまう子供達がたくさんいることも現実だそうです。命は誰でも、どんな人でも平等であり、そうであってほしいと思います。そして、また税金も誰にでも、どんな人にでも平等に使われてほしいと思います。

私が毎月通っている病院には救命救急センターがあります。診察を待っているわずかな間でも、大切な命を乗せた救急車が何台も到着している様子が見えます。一分でも、一秒でも早く！救急隊員の方々の気持ちが伝わってきます。この救急車や救急隊員の方々は税金でまかなわれていることを、消防士であるおじから教えてもらいました。その時に、一分でも一秒でも早く助けたい命があるのに、救急車をタクシー代わりに使ったり、自分勝手な行動で搬送しなければならない事があることを聞きました。命も税金も平等ではあるけれど、助け合うためにある税金で助けられる命があるのに、身勝手な税の使い方があることは、本当に悲しくなります。税によって守られ、助けられているということ、本来の意味をみんなが理解して、安心して生活ができる社会がずっと続くといいな、そう心から思います。

私は、皆さんの税金で助けていただいていることに感謝し、税金の制度がある、この日本で暮らせることに感謝し、大人になったら社会に恩返しができるような人となろうと思います。

税について考えることができた中学一年の夏休みは、自分の生き方を考えることができた貴重な時間になりました。

これからは、日本の皆さんに支えられていることに感謝しながら生活していきたいです。

税金に支えられた生活

一宮町立一宮中学校 3 年 尾形 学政

僕は夏休み前に体調を崩して入院をした。入院中は様々な検査や点滴を受け、個室だったので、入院の費用はきっと高額なんだろうと心配していた。母に入院の費用のことを尋ねると、母が逆に質問してきた。僕は「五万円ぐらい。」と答えた。すると母が笑顔で「全然違います。答えは一日三百円でした。」と言った。あまりの安さに僕はすぐには理解できず、うそだろうと思ったが、それは本当のことだった。

どうして、そんなに安い金額で入院できたのだろうか。それは、千葉県には子ども医療費助成制度という制度があり、平成二十四年十二月から、その対象年齢が小学3年生から中学3年生までに拡大されたためだった。

この制度は、公的医療保険制度とは別の制度で、子どもの保健対策を充実し、子育て世帯の経済的負担を軽くするため、子どもが病気や怪我などにより受診した場合の医療費を県と市町村で助成するという制度である。では、その財源はいったいどうしているのだろうか。

それは、県民や市町村民のみんなが、納めている税金によって、この制度が支えられているとのことであつた。そこで、僕は今回入院したことをきっかけに、改めて税金について調べてみることにした。

国税庁のホームページには次のようなことが書かれてあつた。「私たちが納めた税金は『健康で豊かな生活』を実現するために、国や地方公共団体が行う活動の財源となるのです。私たちは一人では生きていけません。税は私たちが社会で生活していくためのいわば『会費』といえる。」その文章の意味は僕の頭の中にスーッと入り、すぐに理解できた。まさに今回の出来事では、僕の健康で豊かな生活のために、税金が使われていたんだと思ったからだ。今まではどちらかというと消費税が増税される、住民税が高いなどと納税の負担のことに目がいくことが多かったが、税金が僕たちの暮らしを支えているということを改めて実感し、知ることができた。

いろいろと調べていく中で、気になることがあつた。ある地方自治体では限られた財源の中で医療費の助成を行っているのだが、医療費が無料ということで、ごく軽症であつても気軽に受診する人がみられて、その安易な受診が自治体負担を増大し、財源の圧迫の要因となっているとのことであつた。僕たちの健康維持のための制度ではあるが、本当に必要なかを考えて受診することが大切だと思う。限られた財源を有効に使っていかないと、将来僕たちが大人になったときに大きな負担を作ってしまうことになる。僕たち自身も税金の無駄遣いをしていないかを意識して生活していくことが大切だと思った。また、大人になったら、しっかりと「会費」を納め、支え合う生活をしたいと思った。

税金につまった愛

勝山市立勝山中部中学校 3 年 石上 穂伸子

「消費税上がるんかあ。」

父は新聞を読みながらため息まじりに独り言を言った。私の家は、両親が経営する小さな雑貨屋だ。私は小さい頃から両親の働く姿を間近で見てきた。だから商売の苦労もよく分かる。最近は消費税率引き上げの問題に頭を抱え気味だ。これにより、大きな打撃を受けるかもしれない、という心配があるからだ。このように商売をして働く両親を悩ませる税金は敵のような存在だった。なくしてしまってもいいのではないか。今思うと、そんな考えを持っていた自分が、とても情けない。

税金の大切さに気づかせてくれたのは、愛のある父の言葉だった。

「税金って何の為にあるん。」

ある時、私は何気なく父に聞いてみた。すると、父は当然というような顔で、私の目を見てきっぱりと言ったのだ。

「そりゃ、一番はお前らの為やろ。」

それを聞いた時は驚いた。また、同時に、どういう意味だろう、という疑問が浮かんだ。

しかし、税金について色々なことを知り、父の言った意味が何となく分かってきた。私達が学校に通うことができるのは、教育費という税金のお陰だし、医療費を負担してくれるのも税金だ。他にも、生活の大部分を税金が担っていることを知った。もし、税金がなかったら、生活は成り立たず、支え合って生きていくことが困難になるだろう。そして、最後に父が教えてくれた。私達が社会に出て国を支えていく時の国の借金をこれ以上増やさないように、少しでも減らしていく為に頑張るのだと。つまり、父は私達の現在、そして将来の為に一生懸命働いて税金を納めているのだ。父の思いを聞いて私の中で税金が味方のような存在に変わった。

税金には納める人の愛がつまっている。それは、まさに、国の「心」であり、国を支える大切な部分となっている。その心の中の一つ一つの思い、つまりは税金の一部が私達の生活の中に溢れている。そのことを忘れず、この幸せな空間で過ごせることを感謝すべきだと思う。自分達があたり前に思っている生活を大切にしていきたい。

また、自分が大人になったらこの幸せを未来につなげていくために、しっかりと納税したい。そして、有効な税金の使い道をみんなで考えていける社会になることを願っている。地方や国は、納税者の愛がつまった税金を無駄使いせず、大切に扱ってほしい。

私達子供は、大人に比べて税と接する機会が少ない。だから、税なんてどうでもいい、と思わず、知識を深めていくことが明るい未来につながると思う。一生懸命働く大人を見たり、学校で出来ることを精一杯やって、税について考えていきたい。そして、次の世代に愛を広げていこう。

税のおかげで

名古屋市立城山中学校 3年 鈴木 雄登

僕が小学一年生になったばかりの頃、母は体調不良が続いていました。父は単身赴任のため不在で、僕も幼くて何もしてあげられませんでした。近くで診てもらっても、なかなかわからないまま、どんどん具合が悪くなっていきました。秋になってやっと何が起きているのかわかってきて、すぐに大きい病院で検査入院が必要と言われました。「リンパ球性下垂体炎」という、まだあまり解明されていない、脳下垂体に炎症が起きてしまう難しい病気だとわかりました。脳下垂体がうまく働かなくなり、生きるために必要なホルモンを分泌する能力をだんだん失っていく病気でした。治療法が無く、足りなくなってしまった体内の水分をコントロールする、抗利尿ホルモンを補充することになりました。しかし母は、僕やみんなの前では元気そうにしているけれど、一人になるとしんどそうでした。

ところが、僕が小学三年になった頃、新しくもう一つのホルモン、成長ホルモンを補充することができるようになり、母は元気を取り戻すことができました。本当は初めから成長ホルモンも足りなくて、筋肉が脂肪に代わってしまい、また疲れを癒すことができないため、辛い状態なのはわかっているけど、高額すぎて使えなかったのだと、主治医の先生から言われたそうです。厚生省の認可がおりて「特定疾患医療給付」を受けられるようになり、医療費を公費で一部負担していただけるのおかげで、母は毎日成長ホルモンの注射ができるようになったのです。

あの頃の僕には、よくわからなかったけれど、母の命を、元気を、みんなが納める税金が助け、支えてくれているのだと今はよくわかります。母は残念ながら順にホルモンの能力を失い続けています。でも「みんなに助けてもらっているのおかげで、命を保っていただけるのだから、こんな自分でも役に立てることがあれば、何でもしたい」といつも言っています。僕も、母を助けてもらって、感謝の思いでいっぱいです。

母の医療給付のことを知るまでは、僕は税金がこんなにも個人の支えになるなんてピンときませんでした。しかし、よく考えてみると、僕が小さい頃お世話になってしまった救急車も、毎週のごみ回収も、毎日のように遊んだ公園の整備も、税金のおかげでした。それどころか、僕が毎日通う学校の、教科書も授業料も全て税金でまかなわれています。僕の打ち込むバスケットボール部の活動も支えてもらっています。給食も補助を受けています。身の回りのほとんどのことが税金で支えられていたことを、改めて思いしらしました。

僕は今、みんなが納めてくれた税の恩恵を受けるばかりの中学生です。しかし、しっかり勉強して、大人になったら一生懸命働いて納税し、母を、僕を、支えてもらった分の何倍も、社会にお返しができるように、精一杯努力したいと思います。

知っていますか？税について。

大阪市立下福島中学校 3 年 大崎 航詩

「消費税引き上げは賛成か、反対か」こんな議論がマスコミをにぎわしている。そんなニュースを見ていて「反対に決まってるやん」と僕はつぶやいた。それを聞いていた母が、笑いながら、「なんで反対なん？」と尋ねてきた。「そんなん、俺らが買うお菓子も、CDも値段があがるんやろ。そんなん困るわ。母さんだっけいろんなものの値段が上がって困るやろ。」母は笑顔を崩すことなく、また質問をしてきた。「じゃあ、その消費税以外にどんな税金があるか知ってる？」僕は「ええっと、たばこ税、所得税、あと…」出てこなかった。母は「市民税、家の固定資産税、車の自動車税、お酒の酒税まだまだたくさんの種類の税金があるよ。」それを聞いて驚いた、そして正直、少し腹が立った。そんなに税金を取ってるのにまだ引き上げるのなんておかしいと思った。そう言うとき母は「じゃあ、その税金何に使われていると思う？」と聞いてきた。そう言われてみれば、税金って何に使われているかよく知らなかった。調べてみよう、そう思った。

調べていくと、税金にはたくさんの機能、効果があることを知った。一つ目が公共サービスの費用調達機能。二つ目が所得の再分配機能。言い換えれば福祉に関する費用調達機能だ。三つ目は景気の調整機能だ。増税や減税で景気を調節する機能だ。

調べたことを、母に得意げに伝えたと、母は、「公共のサービスっていっても人件費や建物だけじゃないよ。私らの普段あたり前のように使っている道の整備、ゴミの収集、上下水道の整備も全部税金がかかわってるんやで。外国に比べて衛生的できれいな町並みも税金でなりたってるんや。所得の再分配も、身近なものと思ってないみたいやけど、おじいちゃん、おばあちゃんは年金もらってんねんで。ありがたいもんやってゆうてたやろ。税金って身近に役立つことが多いねんで。何でもよく知ることなく反対はあかんと思うよ。調べてどう思った？」確かに、蛇口をひねれば水が飲めるなんて国、めったにない。僕らの快適なあたり前は、公共のサービスという名のものの一部だったということも初めて知った。福祉といわれても正直ぴんとこないが、祖父や祖母のうれしそうな顔を思い出せば少しは納得できる。母は続けていった。「正直、消費税増税は痛いよ。でも仕方ない部分もあるのかなって思う。問題は、どう使われるかやと思うよ。福祉を悪用する悪い人もいる。それを考えると腹がたつ。それも本音。だからみんながちゃんと税金について調べて本当の意味を知らないとかんと思う。今、どう思うん？」僕は少し考え答えた。「ちゃんと使ってもらえるんやったら、賛成かな。」税金ってお金を渡すわけだから、うれしいものではない。でも、普段の快適な町並み、生活、祖父母の笑顔を考えると大切に使うと、気持ちよく納めることができる。

「税金の身近な使い道」

山口大学教育学部附属光中学校 1 年 糸山 遥

七月二十八日、山口県北部で記録的大雨が降りました。そして、土砂災害も発生しました。山口市阿東、萩市須佐、阿武町では土砂崩れで民家が倒れ、住民計四人が一時、閉じこめられたそうです。また、七七〇回線が不通となり、三三四九世帯が断水、二六六棟が停電となりました。徳佐では河川のはんらんで屋根にひ難した家族を県の防災ヘリ「きらら」が救助しました。

では、そのヘリコプターはどこから来たのでしょうか。実は、このヘリコプターは山口宇部空港内にある山口県消防防災航空センターからきているそうです。ヘリコプターは、一般的なものでも数億円もするそうですが、それは私たちの税金で購入されたものなのです。その値段は、命を救うのに高いといえるのでしょうか。

それを命を助けてもらった人だけに負担させると、高額になるかもしれません。しかし、税金でまかなわれれば、広く薄い負担でまかなう事ができるようになります。

また、火事が起きたとします。消火するために、いくらの費用がかかっているでしょう。消防士さん、数十トンの水、消防車などたくさんの費用がかかります。それを火事が起きた家だけでまかなうのは大変なことです。しかし、実際には税金でまかなわれているので、ちゅうちょせずに電話することができます。

もっと、私の身近なことに置き換えてみると、学校もそうです。学校にあるものを思い浮かべてみると、運動場の遊具、合奏班で使っていたバイオリンやチェロなどの楽器も、税金でまかなわれています。

黒板や教科書一つにしても同じです。日頃当たり前に使っている物について、これまで「これは税金でまかなわれている」と考えたことはありませんでしたが、もっと感謝することだったのです。

一方、税金が無駄に使われている事もあるそうです。例えば、用もないのに救急車を呼んだりする人がいます。救急車を一回呼ぶのにも税金が使われているのだし、本当に病気の人にも迷惑がかかります。

ゴミの分別も同じです。いい加減な分別をすると、それを手で分別し直す手間や施設が必要になります。それらも結局は税金でまかなわれることになるのです。

私は、これまで買い物に行くと必ずついてくる消費税は要らないと思っていました。しかし、実際に税について調べてみると、色々なことに役立っていることがわかりました。

みんなで少しずつ負担し、同時に無駄な税金の使い道を減らし、せっかく納めた税金を大事に役立ててほしいです。

税の重要性

越知町立越知中学校 3 年 片岡 亜子

今年の夏の初め、私は驚くようなニュースを知った。それは「デトロイト市破綻」という内容だった。アメリカ合衆国の大都市、自動車の街として有名なデトロイト市の現在の状況を伝えていた。私は何より驚いたのは、犯罪の九割が未解決だということ。警察官の減少によって緊急通報の出動にも平均五十八分かかるといったことだった。これは大変なことだ。さらに、街には廃家屋が七万八千軒以上もあり、映像にうつったそれらの家は、落書きが書かれていたり、焼かれた跡があったりとさんざんな様子だった。どうしてこんなことになったのだろう。私にはすぐに分からなかった。そこで、インターネットを使って調べてみた。すると、少しずついろいろな事が分かってきた。

まず、日本にも財政破綻した都市があることが分かった。北海道の夕張市がその自治体だ。夕張メロンが有名なそんな所が財政破綻しているのが、意外だった。夕張市の現在の状況は、公務員が三百人から百二十人に減少していて、集会所、公衆トイレ、公園などの公共施設が休・廃止されている。また、除雪予算が削られたために、閉鎖中の市立美術館が雪の重さで倒壊してしまうということも起こったらしい。

私は、この二つの都市の財政破綻の原因はそれぞれ違うが、税金の使い方や、財政問題への対応の仕方などだろうと思った。二つの都市に共通するのは、どちらの都市も急激な人口減少がおり、税収が激減したことだろう。自治体に入る税金が少なくなれば、出来る公共サービスも当然、縮小される。でも、この二つの都市のようになれば、住民の生活は、めちゃくちゃになってしまう。こういった事実を知ることによって、税金は、私たちの生活を支える重要なものだということに気づかされる。

私たちは、普段の生活の中では、なかなか税金の大切さに気づくことはない。むしろ、消費税などは、めんどくさいなどと思ったり、これから税率があがることなどを嫌だと思ったりする。しかし、実は税金が私たちが個人の力では、どうすることもできない、警察、消防といった公共サービスを支えているものだということに気づけば、その重要性を強く感じるのだと思う。

財政破綻という難しいことは、今の私にはなかなか理解しづらいが、行政が住民のために公共サービスをきちんと提供することは、とても大事だと思う。だから税金は大切なのだ。私たちは、よりよい生活を送るために、税金をきちんと納め、国や地方公共団体は、税収にもとづいて適切な運用システムをつくる必要があると思う。国民、住民の生活を守る有効な税金の使い方を考えてほしい。

私たちを守ってくれる税

博多女子中学校 3年 田中 実乃里

私には大好きなおじいちゃんがいた。いつも保育園に迎えにきてくれたおじいちゃん、魚を食べるときは苦手な骨をとってくれたおじいちゃん、おじいちゃんはいつでも優しくかった。近所の池へ一緒に鳥に食パンの耳をあげに行ったこと、たまごかけごはんを作って一緒においしいねって食べたこと。私の胸にはおじいちゃんとの思い出がいっぱいだ。

そんなおじいちゃんは八年前、脳こうそくという病気を患った。私はこわかった。私の知っているおじいちゃんじゃなくなる気がした。おばあちゃんはおじいちゃんの世話におわれた。トイレに行くのも、ご飯を食べるのも、薬を飲むのも、全部おばあちゃんの助けが必要だった。そんなとき、とても助けになったのはデイサービスの存在だった。週に何度か、おじいちゃんはデイサービスに通った。ある時、私はデイサービスの運動会に行った。みんな楽しそうで、私もいつのまにか一緒に楽しんでいた。デイサービスはおじいちゃんが病気を患ってから、私とおじいちゃんの間で新しい思い出をつくってくれていた。病院にも、たくさんお世話になった。何度か入院したし、たくさん薬をのんで、点滴もうった。最後の最後までおじいちゃんは懸命に闘った。5年間病気と闘い続け、おじいちゃんは亡くなった。たくさんの人に見看られ、最後にみせてくれたおじいちゃん表情はやわらかくてすこし笑っているようにもみえた。私も、おじいちゃんとずっと一緒にいられて、たくさんの思い出がつくれて、幸せだった。

後から母に聞いた話だが、おじいちゃんが病気を患ってから通ったデイサービスや病院、薬や点滴などのお金は、その多くの部分で9割が税金からの付給だったそうだ。介護保険という制度で、一割の負担ですむものがたくさんあったのだと聞いた。最初に車イスでおじいちゃんが帰ってくる時、建てたばかりの家のドアやトイレなどに改造が必要になったが、そこでもこの制度に助けられたそうだ。学校や交通機関の整備などが税金で補われているということは身近に感じていたが、そんなところまで税金に助けてもらっているなんて思いもしなかった。税金で支えられる中で今の私があるのだと改めて考えさせられる。生まれてから死ぬまで税金で私たちは互いに支え合っているのだと感じた。税金を納めてくれる人に感謝の気持ちを忘れず、今は一日一日を大切に生きていくと同時に、いつか自立して自分が納税者となったときに、今よりもっと広い視野で、ものごとを見ることのできる人になりたい。

税金が世界を継ぐ

曾於市立財部中学校 3 年 新地 星碧

私は、あるテレビを見た。毎日、川や湖、井戸とも呼べないほどの地下水を飲み物として利用しているマラウイ共和国の人達が目に飛びこんできた。私達が普段、口にしている水がどれだけきれいでどれだけありがたいことだと感じた。日本は恵まれた環境だということがすごい分かった。欲しい物は買えて、風邪を引いたら病院へ行き薬を貰える。蛇口をひねればきれいな飲み水がでてすごい良い環境だ。

私は、よく父に「どこかお出かけに行きたい」と言う。そうすると、「ガソリンを入れてくるね」と言い、ガソリンスタンドへガソリンをいれに行く。そのガソリンにも税金が支払われているのに驚いた。他にも住民税や法人税など私が知らない税の種類がたくさんあることに調べてみて初めて知ることができた。

私は、税の使い道がどこにいつているのだろうか、と思い、図書館に行って調べることにした。そしたら、色々な使い道があることが分かった。その中でも一番多かったのは、社会保障関係費というものだった。社会保障関係費とは、医療や年金、福祉、介護、生活保護の公的サービスというものであった。やっぱり、福祉や介護には結構使われているだなと思った。私は、いい考えだと思った。今までお仕事を頑張ってきた方へのご褒美と考えれば、税金の使い道はすばらしいと思う。

次に、国債費というものだった。国債費とは、借金の元利返済分であった。日本は、借金が大きいんだと思った。三番目は、地方交付税交付金等が多かった。地方交付税交付金とは、地域によって地方税の収入額に差があるので、その財政力の差を補填するため、地方自治体に交付されるお金のことであった。

これらの三つの中で私が身近に感じる物には、社会保障関係費がある。

私は、毎年地域で行われるサマーボランティア体験学習という中のスキルアップコースに参加している。デイサービスセンターに行ってお年寄りの方々とコミュニケーションをとったり、簡単なゲームをしたりする。その時に思うことは、利用者さん同志やスタッフの方とコミュニケーションを図ることで元気になっていく姿を見てこの環境が実現できていることは、社会保障関係費の賜物であると思った。やはり、税と私たちの生活は密接につながっており、安心して暮らせる社会が成立していると思う。

私には世界を飛び回るキャビンアテンダントになりたいという夢がある。世界には、たくさんの国があるが、それぞれ置かれている状況は違う。しかし、この世界に生まれてきた人だからみんな平等に幸せになる権利はあると思う。そして、マラウイ共和国の人達も恵まれた環境へ少しでも近づけるよう、世界中の人々が支援していけたらいいと思う。

私は、日本人であることを誇りに思う。

夢のある暮らしを目指して

竹富町立黒島中学校 3 年 又吉 海智

ある日の夕食時、畜産業を営む父が、
「牛舎を拡張したいのだが、皆手伝ってくれないか。」
と僕達に言いました。それからは、毎週末になると家族そろって昼食を持って牛舎作りの作業が始まりました。でも始まって二ヶ月程過ぎた頃になると、
「海智、ブロック二個持ってこい。」
「はあ、まだ作業やるの。」
と暑さと疲れでイライラして反抗的な態度をとってしまいました。そんな時、休けい時間に僕は父に
「前みたいに補助金を受けて牛舎を拡張すればいいのに。」
というと父は
「海智、補助金は皆の税金が使われているんだ。税金は、支え合うものなんだ。他の人にも受けてもらわないといけないんだ。今回は、父さんは受けないんだ。それに、この作業は補助金に頼ることなく家族で力を合わせてできると思うからやっているんだ。」
と言いました。補助事業の恩恵を受けている父は常日頃より、「良い牛を育て最高の仕事をするのが社会への感謝の意を表すことだ」と、強いまなざしで語っています。そんな父の姿を見て、僕は知りました。僕達の生活は税金によって支え合っている事、また税金は払うものではなく、納めるものであり、納めた税は形として戻ってくる事。そして、父の
「補助事業を受け、畜産の基盤をしっかりとったお陰で、畜産の魅力を知り、やってきた分だけ返ってくる感動がある。」という言葉に、税はそこに生きる人達の豊かで、夢のある暮らしと深く結びついているという事を改めて感じました。
今、消費税が五%から八%、十%へと引き上げられる話がでています。税金について、政党や様々な人々の間で意見のぶつかり合いがおこっています。しかし、税金は僕達が毎日生活する中で、切っても切れないものです。とても重要な役割を果たしているからこそ、多くの人の意見を尊重しながら決定してほしいです。
僕は、僕の父のように、補助事業という税恩恵によって豊かで夢のある生活を過ごせる人が増える事を願っています。そのためにもしっかりと税を納める人になりたいです。
家族と共に汗をかき、大好きな牛の世話ができる。
「日本一の牛をつくるぞー。」
という父の声が牛舎に響き、今日も、家族で夢や希望を語り合える事に感謝し、僕自身も夢のある暮らしを目指して、頑張ります。

「支え合う私たちと税金」

芽室町立芽室西中学校 3 年 福井 和加奈

私が日々の生活の中で税金を意識することはほとんどない。消費税を払うことはあってもたいした金額ではないため、税金はあっても無くても変わらないような気がしていた。しかし以前、小中学校で教育を受ける九年間の授業料は全て税金で賄われている、と母が言っていた事を思い出した。ということは、私は大いに税金の恩恵を受けて暮らしているというのに、それを当然のように思う事はおろか、税金の必要性にさえ疑問を抱いていたわけだ。自分が情けなく思えてくる。せめて税金の使われ方は知っておかなければ。そうすることで、私がお世話になっている税金と日本中の納税者に、恩返しができるだろう。

両親や祖父母に話を聞き、税金は医療費、ごみの収集、公共施設の建設など様々なものに充てられていると知った。図書館の本にも税金が充てられている、と父が言った時、私は胸が痛んだ。私はよく図書館を利用していた。新刊も充実しているため、来る度新しい本があって、大好きな場所だった。ある時私は、読みたい本があったため本をリクエストした。しかしなかなかその本が入らず、図書館に来る楽しみが、読みたい本が入らない不満へと変わっていった。そして、次第に図書館に来ることは少なくなっていった。もう過去の事だが、税金の使われ方を知った今、昔の私に会いたくなかった。そして言いたい。「税金は一人のものではなく、みんなのものだ。もちろん本を購入するためにその全てを費やすわけにはいかない。それに税金と同じく、図書館もみんなのものだ。本をリクエストしているのは、私だけではないだろう。私の独りよがりな考えのための税金ではない」と。読みたい本をリクエストできる、それだけでも有難い事のはずだが、これも私は税金と同じように、当然のように思い、逆に入るのが遅い事を制度が整っていないというように思い込んでいた。このように、税金を知らないと、大きな誤解をしてしまう。税金が日本中の納税者の大切なお金で、私たちの生活に欠かせない、大切なものだを知ったからには、いつまでも感謝の気持ちを持ち続けようと思う。

大人になると、今よりも税金を意識する機会は増えるだろう。そうになると、税金を払うことに嫌気がさすかもしれない。でもそんな時は、今の私の気持ちを思い出すといい。税金があるから、私は今ここにいる。これからもそうだろう。私たちと税金は、切っても切れない関係にある。なんだか友達みたいだ。友達が辛い時は、私が助けてあげる。すると今度は私が辛い時、友達は私を助けてくれる。税金も同じではないだろうか。納税者が税金を払ったぶん、医療費の七割を税金が負担してくれたり、町がきれいになったりする。そうした支え合いがあるからこそ、私たちの生活が豊かになるのだと思う。

未来への希望「税金」

秋田市立秋田西中学校 3 年 高橋 巧

「成長ホルモン分泌不全性低身長」、みなさんはこの病名を知っていますか。これは、「脳下垂体」から分泌されている「成長ホルモン」が何らかの理由で少ない、あるいは出ていないために骨の発達が遅れ、結果として低身長になってしまうという病気で難病に指定されています。他の病気とは違い、どこかが痛くなったりするなどのサインが無いため、かかっていることに気付きにくいのだそうです。

私は小学校一年生の時にこの病気と診断され、以来毎日自宅で成長ホルモンを補うための注射をしています。注射に使用する薬は毎月数十万円にのぼりますが、この薬は公費によってまかなわれているため全額負担しなくてもよくなっています。つまり私の治療には税金が使われているということになります。そのことに気がついたのは、税の使われ方や税の種類について調べていたときで、医療や福祉の分野に多くの税金が使われているということを知り、では自分の治療にはどのようにして税金がかかわっているのかということに興味を持ったからです。

日本は今、世界の中でも最先端の医療技術を誇る国です。その最先端の医療技術を支え、さらなる研究を進めるためにも、国からの援助が必要となります。

最近では、ノーベル賞を授章した山中教授の I P S 細胞の研究にも国からの資金が出ることになり、今まだ治療法が見つかっていない病気をかかえた多くの人々の希望の光となっています。その、国からの資金の源となっているのが私たちの納めている税金なのです。

税金がたくさんの分野で広く使われるためには国税、都道府県税、市区町村税などの税金を一人一人が正しく納めなければいけないと思います。それによって、多くの人々が安心して生活していけるようになるのではないのでしょうか。

税金が無くなればいいと思う人もいるかもしれませんが。しかし私のように税金によって病気を克服できた人にとっては、とても大事なものだと思います。今すぐ実用化されなくても税金によって研究が進み、将来的に実用化されるようになれば、それは生活の質を上げることにつながるのだと思います。

つまり税金というものは、私たちの未来をより過ごしやすく豊かにするために、とても重要なものだと思います。たくさんの人々が苦勞して得た収入から支払われる税金は、その全てが意義の有る使われ方をされるべきで、一円たりとも無駄にすることはいけないと強く思います。

私も将来、今自分が税金によって助けられているように、誰かを支えていけるような納税者になりたいと思います。

形を変えて生活を支える税金

品川区立荏原平塚中学校 3 年 吉澤 唯

私は今、病院で治療しても費用がかかりません。それは品川区に子育てをしやすくするために中学生までの医療費がかからない制度があるからです。実はそのお金は税金でまかなわれています。母もこの制度のおかげで、安心して子育てができたと言っています。

そこで、他にも税金はどんなところで使われているのか気になり、詳しく調べてみることにしました。税は大きく三つの目的で使われています。それは、安全に関わること、快適な暮らしにつながることで、支え合いに関わることです。具体的には、安心・安全な暮らしを送るために警察や消防の活動を税金が支えています。快適な暮らしに関わることは、ゴミ処理をしたり公園の整備が行われています。支え合いに関わることは、お年寄りや体の不自由な人への社会保障に当てられています。その他にも宇宙開発や海外援助にも使われているそうです。

自分の身近なところでは、授業で使っている教科書が無償で配布されているのも税金が使われていますし、印刷して配られるお手紙や学習プリントの紙、美術で使う画用紙なども税金を使って購入されています。学校で使っているものの多くが税金でまかなわれているということが当たり前の環境にいる私にとって、父に聞いた話は驚きでした。それは東日本大震災の被災地での話です。被災地では、学校で使う画用紙などが不足していて、自由に使えない状況なので保護者からお金を集めて購入しているそうです。私はその話を聞いて、被災地の人にはただでさえ苦勞が多いのに、厳しい条件の中で学んでいるんだなあとびっくりし、もっと復興にお金をかけるべきだと思いました。学校の復旧、住宅の整備、がれきの処理、原発対策など、被災地の人々が少しでも早く暮らしやすくするために税金を使ってほしいです。

また、この夏ニュースで異常気象による大雨、土砂災害、河川の氾濫などの映像をよく目にしました。私たちの住んでいる東京でも大きな地震が起こると言われています。様々な災害対策にも計画的に予算を使ってほしいと思っています。

今、日本はお金が足りず国債を発行しています。さらに、少子高齢化が進み、たくさんの税金を集めないと社会が成り立っていかなくなります。そこで消費税の増税が行われる見通しです。個人の負担が大きくなる分、税金の使い道の優先順位をよく考えて、一人一人が安心して生活していけるような使い方をしてほしいと思います。私自身も税金の必要性を考え、きちんと納税する大人になりたいと思います。

父から学ぶ大切な税金

射水市立小杉中学校 1 年 小竹 康史

最近まで税金は、大人が払うものであり、子供の自分には無関係だと思っていました。小6当時夢中で観ていた国税徴収官が主人公のテレビドラマが大好きで、初めて税金に興味を持ちました。またボクの父は、市税徴収を担当する納税課に勤務する市の職員です。ドラマの中で差押や搜索といった専門用語が出てきますが、父に言わせると市役所でも似たような仕事をしているとのこと。父は「理由無き税金滞納は許さない」と豪語していました。そんな父が租税教室の講師として小学校をいくつか担当し訪問すると聞き、冗談半分で「ボクんとこの小学校へ来てよ！お父さんが教壇に立って話すところ見てみたい」と言ったら「お前そんなこと言うなよ」と言っていたにもかかわらず、我が校のしかもボクのクラスを担当することになったと言うのです。「お前が望んでいることならしょうがない」とか言ってます。父はおだてに弱いお調子者だと思いました。租税教室の講師となった父は、ボクの忠告に従いボクに目線を決して合わすことなく、顔見知りの友達に親しく話しかけることもなく、淡々と講義を進めました。父が教壇に立つことにボクも照れがありそうしてもらったのです。講義を聞き驚いたのは、税金が無くなると当たり前の生活が当たり前でなくなるということ、また税金の種類がいかに多いかということです。いくつか挙げると、所得税・法人税・固定資産税・自動車税・自動車取得税・贈与税・相続税・消費税等々全部で50種類以上もあるとのこと。自分が買物した際に消費税を支払っていることを思い出し「ボクも立派な納税者だった、こんなに税金は身近にあったのだ」としみじみ感じました。父は「税金は個々の担税能力に応じて課税されるものであり、基本的に納付できる額となっている。収入に応じたもの元々持っている資産に応じたもの、譲り受けた資産に応じたもの、購入する商品価格に加算されるもの等様々ある。だから滞納する人には厳しく対処している。そうでなければ、税の公平性が保てない。きちんと納付している人がバカを見る世の中ではいけない」と言います。それから父は数年前に他界した祖父のことを話してくれました。祖父は、急性心筋梗塞を発症し、一命は取りとめたものの、その後何度も難手術を繰り返して、二十年近く延命させてもらったとのこと。その間に掛かった医療費は莫大でしたが、健康保険のおかげで家計の負担が軽く済みました。国民健康保険税に我が家は助けられ、この税が無ければ祖父はこれほど長く生きられなかっただろうと思います。この話を聞き、更に税金が身近なものと感じました。今回父と税金の話をして、税金は本当に大切なものであり、必要不可欠なものであると学びました。ボクも大人になったら立派な納税者になれるようにがんばりたいです。

納税の義務を果たす人になるために

大町立大町中学校 3年 水谷 玲那

「納税」「電子申告」。小学生の頃、夏休みに、書道の応募作品で書いていた文字だ。当時は意味も分からず、ただお手本を見ながら丁寧に書くことだけを心がけていた。

小学校低学年の頃は、「税」と言われてもピンと来るはずもなかった。ただ、百円均一ショップへ買い物に行ったとき、なぜ「五円」余分に支払うのか疑問に思い、親に尋ねてみて初めて「消費税」というものを知った。しかし、その存在は知っても、意味は分かっていなかった。小学六年生のとき、税務署の方が税についての授業をしてくださった。税を納めていなかったら、火事が起きても消防車が火を消してくれたり、事故が起きても警察官が交通整備してくれたりできなくなり、その都度お金を払わなくてはいけなくなることを知った。これまで書道で何も考えずに書いていた「納税」という二文字の意味が、徐々に理解でき、税によって世の中が支えられていることが分かってきた。

私の住んでいる自治体は、小・中学校の給食費は半額、医療費は中学校を卒業するまで無料である。また、世界で活躍している大きな企業の本社がいくつかあり、多額の法人税によって私たちの学校が新しく建て替えられたり、設備が整備されたりしている。特に学校の設備に関しては、近隣の市町の学校を訪れたとき、その違いに驚くと同時に、とてもありがたみを感じる。また、教科書をふと見ると、無償であることが記載され、「大切に使いましょう」という言葉が添えられている。私たち子供も、様々な場面で、税によって支えられていることが分かる。

八月現在、二〇一四年四月に消費税が五%から八%、翌年の十月には一〇%と段階的に引き上げられることが予告されている。税の勉強をした当時は「このまま消費税が五%だと、みんなが大人になったときの負担が多くなるよ。」と言われたのでどうなるのか気になっていた。確かに消費税を引き上げることは、負担が多くなり、反対する人は多いかもしれないが、私は賛成である。消費税の半分以上は年金や医療に使われている。少子高齢化社会の今、少ない労働者で高齢者を支えるなど、欧州のように、福祉分野を充実させるために増税するのはいいことだと思った。

約五十種類もある税。生まれたときから、随分とお世話になりながらも、その意義や使い道については、まだまだ不勉強な部分が多い。あと数年もすれば成人となり、働くようになるだろう。そうすれば、今以上に税について関わる場面が増えているはずだ。

国民の三大義務の一つに「納税の義務」がある限り、もっと税について理解を深め、しっかりと納税する国民の一人になりたい。私自身、今まで見えないところで税によって支えられてきたのだから。

「税は未来のための義務」

学校法人灘育英会灘中学校 3年 後藤 優和

来年四月から消費税が八％に上がるかもしれない。もしそうなったら、僕のお小遣いも三％上げてくれるのだろうか。上がらない場合は、これまでより、少しばかり節約しなければならないということだ。これは困った。

アベノミクスで景気が良くなったとは言われているが、我が家では実感がない。給料が上がれば消費増税でもこれまでと同じレベルの消費が可能だが、逆に下がっている。庶民の懐が暖くなる前の増税は、おそらく僕の対処法と同じで節約するしかないだろう。昨年から景気が回復傾向にあった日本経済が、また消費低迷で、逆に税収が落ちてしまうかもしれない。経済に素人の僕でさえ、そんな不安を感じてしまう。そして、誰しも痛みを伴う改革を望む者はいないが、もはや増税がなければ未来の日本は間違いなく崩壊する。

戦後、日本の財政はGHQから様々な指導を受け、歳出面では地方財政費や社会保障費の割合を高め、歳入では所得税を中心とする直接税に重点を置くことで、貧富の差が生まれにくい財政の仕組みを作った。しかし、右肩上がりの経済成長が一九七三年の石油危機によって止まり、それに伴い税収が不足するようになった。政府は赤字国債を発行することで不足を補ったが、以降も赤字国債の比率を増しながら現在まで国の借金も莫大になってしまった。赤字国債は、僕たちの将来に借金だけを残す。現在、国民一人あたりの借金は八〇〇万円以上あるというから驚きだ。年年借金は増え続け、今や日本の国家予算の半分は赤字国債で構成される異常事態なのだ。

税金はどうして必要なのか。警察や消防などの公共サービスの充実、道路・空港・建物など社会インフラの整備、公的年金や医療保険など社会保障政策に使われることで「国民の利益・公共の福祉・内政の安定」に還元され、一人一人が納めた税金は形を変えて暮らしやすい豊かな社会を支え、そしてそれに僕たち自身も支えられている。未来の日本を考えるなら、国の税収に見合った支出に徐々に転換して、早く国の借金を減らし健全な収支バランスになるよう舵を取る必要がある。

言うまでもなく税金は大切だ。GHQが考えた貧富の差が生まれにくい財政の仕組みは、グローバル化経済への大きな変遷により近年、富の偏在が著しくなった。いわゆる「タックスヘイブン」だ。累進課税のない海外に、超高所得者が流出し、国内が空洞化、富める者だけがますます裕福になる問題が出ている。ものの本によれば「貧」という字は貝を分ける意味だという。貝は古代貴重な財産とされた。増税により最もしわ寄せが大きい低所得者層に富を上手く分配し、消費増税を成功させ貧を無くしていく政治を実現してほしい。

未来の日本の安心につなげるために一人一人が税への理解を深め、きちんと納税の義務を果たすことが絶対多数の幸福につながると僕は思う。

それはちがうと思う

倉敷市立倉敷第一中学校 3 年 藤原 侑香

首相は周辺に予定通り増税した場合を含め増税の開始時期や引き上げ幅を変える複数案を検討するよう指示している。首相周辺は①消費税率を予定通り 2 段階で引き上げる②最初に 2 % 上げその後 1 % ずつ引き上げる③5 年間で毎年 1 % ずつ引き上げる④増税を当面見送る——の 4 案の影響を検証する作業に着手。首相はこの検証結果や有識者へのヒアリングを踏まえ、最終判断する。という消費税引き上げ問題のニュースを私は目にした。

「やっぱり、税金、上がるんだね。これからは、ちょっと節約しないといけないね。」

と私は、お母さんに言った。私は、公園や図書館や私達の通っている学校、毎日使う道路などの公共施設は、私達が国や都道府県、市町村に納めた税金でつくられていることを知っていたので増税は仕方ないと思いました。ほかにも水道、警察や消防の活動費など、税金は私達みんなの暮らしを支えています。もし、税金がなかったら、火事になっても消防車が来ず、火が消せない。急病人がいるのに救急車を呼んでも来ない。教科書や机、黒板がないから授業ができない。税金がないと、たくさん困ることがでできます。すると、お母さんが、こんなことを言いました。

「そうねえ。みんなでお金を出し合うことで私達の生活は成り立っているから、税金はみんなを支えるための会費のようなものだね。でも、それを払わない人もいるのよねえ。」

「えっ!? 税金を払わない人がいるの?」

私はとても驚きました。気になったので、調べてみると、そういう、税金を払えない、払わない、滞納しているという人がたくさんいることが分かりました。でも、それは 2 種類に分けられていました。お金がなく、食べる物も買えない、などの税金を払いたくても、払えない人と、それとは反対に、たくさんお金を持っているけど払わないという人とに分かれました。しかも、その払わないという人は何にお金を使っているかというと、ダイヤモンドのネックレスや指輪、別荘、高級車など。信じられないでしょう。本当にこんなことありえません。テレビでもよく見ますが、10 億の家を買ったとか、ドレスが何千着もあるとか、そんなにお金があるなら、食べ物もなく、お風呂にも入れない、家もない、そんな貧しい人々に寄付するべきだと思います。社会はみんなを支え合って成り立っている。税金を払えるのに払わない、こんなこと許されると思いますか。私は絶対だめだと思います。税金はとてもとても大切なものだから。それでも、払わないのであれば、道路も使わないで。病院も使わないで。と私はその人達に言いたいです。

限りある税金

宇多津町立宇多津中学校 2 年 藤澤 拓也

夏休みに入り、猛暑日が続き、毎日生活に欠かせない水を大量に使っています。香川県に住んでいる僕達は、高知県の早明浦ダムに水を頼っており、八月の終わりにはダムの水が底をつくのではないかと心配しています。水がなくなってしまうと、命の危険性にとまなうような事態に陥ってしまうからです。

今、世間で注目されている消費税増税。税金も水と同じように、僕達が暮らしていく為に必要なお金です。税が底をついてしまえば、当たり前で生活ができていたことに支障が出るはずです。どんどん使っていけば、いつかなくなってしまうのは当然のことです。

去る七月、参議院選挙があり、安倍首相率いる自民党が圧勝しました。景気の動向、経済の行方などありますが、ほぼ来年四月に、消費税が8%に上がることが確実のものとなってきました。さらに、10%にもいずれ上がっていくでしょう。日本の財政状態は、借金が一兆円を超え、誰が見ても最悪の状況です。まったなしに、財政再建が必要です。

水は限りある資源であり、作ることができませんが、お金は借金をすれば、使えます。借金をすれば、税率を上げれば、何とかかなるという甘い考えは止めたいのです。このままだと、国が破綻して日本中が大変なことになるかもしれないのです。

僕達は税金のおかげで、学校という良い環境で勉強をしています。僕達が使っている教科書は税金のおかげで、無償提供されみんな平等に教育を受けているのも知っています。

昨年、町の中学生の海外派遣事業でベトナムに行き、ベトナムの中学生と交流したり、ベトナムの日本企業を訪問したりして貴重な経験をさせていただきました。また学校にクーラーがつき、より勉強しやすい環境になりました。将来を支えていく僕達に税金を使って社会が育ててくれているのだと思いました。

だから僕達は、一生懸命勉強して一人前の社会人になって労働し、きちんと税金を納めて社会に恩返ししていかなければなりません。国民の義務として、教育、勤労、納税を果たしていかなければなりません。国民が納めた税金が適正に使われて、納めた税金によって将来が安心して暮らしていける世の中になれば、きっと国民みんなが一生懸命働いて税金を納めると思います。そうすれば、日本の経済も良くなると思います。国民一人一人が、限りある資源の水のように、税金の使い方やありがたさをじっくりと考えてみる必要があると思います。

ますます人口が減ってきている日本では少子高齢化がどんどん進んできています。都会と地方の税収の差はますますひらくばかりです。日本全体が日本という国に住んでいてよかったなあと思えるように、次世代にも明るい未来が思い描けるように税金を適切に使って欲しいと思います。

税によって救われた命

学校法人東明館学園東明館中学校 3年 上野 すだち

皆さんは、税がどのような事に使われているか考えたことはありますか。

私は、中学三年生になるまで税についてあまり考えたことがありませんでした。

しかし、ある出来事をきっかけに税について考えるようになりました。

皆さんは、大切な人は誰？と聞かれたら誰だと答えますか。私には、大切な人がたくさんいます。しかし、頭に最初に浮かぶ人というと、両親です。私の家は、両親が共働きで家族全員で話すことはあまりありません。ですが、私が小学二年生の頃の算数の授業が全然わからなくて家で泣いた時に、お父さんとお母さんは私につきっきりで算数を教えてくれました。私が寮に入らなくては行けない学校に中学受験をしたいと言った時も、一緒になって考えてくれてその受験した中学校に行かせてくれました。私にとってお父さんとお母さんは、私のことを誰よりも理解してくれるとても大切な人たちです。

そんなお父さんが、大きな怪我をして病院に入院をしていると知ったのは、今から三ヵ月前でした。「父の日」だったその日、寮で生活をしている私は、お母さんと電話していて後でお父さんに電話すると言って電話を切ろうとしました。しかし、その後お母さんにお父さんが事故にあい救急車に運ばれ、今は、入院をしていると言われました。そして、怪我は一步遅かったら将来障害が残っていたかもしれないと聞かされました。

その時、ある中国で起きた事件を思い出しました。救急車の利用が有料である中国で、ある少女が車にひかれて道に倒れていました。しかし、救急車を呼んだ人が利用費を払わなくてはならない中国では、だれも救急車を呼んでくれた人はいませんでした。そして、その少女は、助かりませんでした。

事故にあった時、お父さんの周りには家族がいなく、家族ではない人が救急車を呼んでくれました。もし、中国のように日本の救急車が有料であったならば、今どうなっていたかわかりません。

それから、だんだん調べていくにつれ、日本の救急車やドクターヘリの費用は、私たちの払っている税金であることがわかっていきました。お父さんとお母さんが頑張って働いて払っている税金が、人の命を救うためのお金として役に立っているのだと初めて知りました。そして、その人の命を救うためのお金ではたらく救急車を軽く受けとめる人がいる現状があることも知りました。

私はまだ自分で働くことができません。そんな私に、いつもお父さんとお母さんはこう言います。「ちゃんと勉強して、社会の役に立つ人間になりなさい。」と。私はまだまだ未熟です。ですが、大人になってお父さんやお母さんみたいに頑張って働いてお父さんを助けてくれた税金を自分で払って、社会に、そして誰かのために役に立ちたいです。

初めてのクーラーの中で

小林市立細野中学校 3 年 平川 凜

「暑い。」

今年はどれだけこの言葉を遣っただろう。友だちと顔を合わせるたびに、教室に入るたびに、口からついて出てしまった言葉だ。

そんな私たちの状況を見てか、あまりにも暑い日には、先生方が教室のクーラーのスイッチを入れてくださった。おかげで、その時間だけは、快適だった。

クーラーをつけてもらえたのは、たいてい熱気がこもる午後の授業中だった。朝から三十度を超す教室にいる私としては、もっと早くにクーラーをつけてほしかったけれど、そうもいかない理由は何となく予測できた。

このクーラーは、新燃岳噴火の影響で、窓を開放できない場合に備えて、今年、小林市内全ての小中学校に設置してもらったものだし、電気代がかかり過ぎてはいけなから無理だろうなと、思ったからだ。

そんなある日、用があつて職員室に入っていくと、見慣れない機械が壁についていた。そこには、電光掲示板のような赤い数字がいくつか並んでいた。気になって、その数字の意味を尋ねてみると、学校の使用予定電力量に対して、実際の使用量がどうなっているのかを確認するためのものだったということだった。

（節電のためかな。）と思いつつも、よく考えれば、この電気代も国民の税金でまかなわれていることを思い出し、（節電は当たり前のことだ。）とも感じた。

私が聞いたところによると、公立の小中学校で使われている教育に関する税金は、年間一人当たり、約百万円弱。九年間で計算すると八百万円にもなるそう。何をそんなに使っているのか気になって調べてみると、教科書を始め、パソコンに電子黒板、理科の実験器具、それから体育用具の購入費など、学校で使用するあらゆるものが税金で購入されていることが分かった。

そういえば、昨年末、私たちの学校にも生徒用パソコンと大型モニタ、実物投影機などが整備され、ICTを使った授業が多く取り入れられるようになった。これも、もちろん税金で支払われたものだ。

こうして、身の回りを見回すと、一年間に百万円弱の教育費は、あり得ることなのだと納得してしまった。

ただ、このびっくりするような金額を払わなくていいのは、国や地方公共団体がそのお金を分担してくれているためだ。元を辿っていくと、私たちの親や周りの大人が、「私たちが安全に、健康で豊かな生活を送るため」に、出し合った税金なのだ。クーラーの設置代も、電気代も、全ては危険から私たちを守るための思いによってつけられたものだ。

日々感謝することを忘れがちだったが、この夏の暑さが、そのことを思い出させてくれた。

税を納めるということ

学校法人尚学学園沖縄尚学高等学校附属中学校 3年 仲尾 藍

“租税として納める金銭”。それは、「税金」である。

私たちの身の周りに多く存在する税金。日本には約九十という、とても多くの税金が存在している。また、その税金は、大きく国税・地方税（都道府県税・市町村税）・法定外税の四つに分けることができる。そしてまたそれを九つに分けることができる。このように多くあり、多くに分けられる税金。例えば所得税や、消費税。たばこ税や酒税、ゴルフ場利用税というもののや、歴史と文化の環境税というもののまでである。

では、これらの多くの税金がなかったらどうなってしまうのだろうか。一日を例に考えてみる。

朝起き、いつも通りに学校に行く。しかし歩く道はなに一つ整備はされておらず、草もたくさん生え、ゴミが山のように積まれている。整備された道は有料で、バスや電車は運営会社に補助金がいっていないため、料金が異常なぐらい高くなっている。学校に義務教育がないため、本来なら七歳で一年生のはずの子が、学校に行けず、アルバイトをしているかもしれない。学校では、教科書や授業に大きなお金がかかり、図書館の本も有料で貸し出しがされている。雨が降ってきましたが、川は整備されていないため、水があふれていろんな所で冠水している。気分が悪くなり、救急車を呼べば多額の料金が発生。どろぼうが入ろうが火事になろうがパトカーも消防車も有料で助けに来ることになる。そして裁判ができないため、町中には悪人が歩き回っている。

税金がなければこのようなことになってしまう。しかし、これはまだごく一部だけであるため、本当に税金がなくなればもっと大変なことになってしまう。自分の身は自分で守らなければならない。もし、沖縄のように、オスプレイが墜落してしまっても、警察はお金を払ってもらえるまでは来なくて、けが人がでてもそれと同じ対応になる。

つまり、税金とは生きるうえでとても大切なものであり、“納税の義務”は本当に義務であるべきなのである。私は最初、税に全く興味がなかったし、税金に対して反抗があったけど、学んでみて、本当にとっても重要なものということが分かった。今、私が学んだものを税というものが分からない人に伝えて、一人でも多くの人に興味を持ってもらいたい。そして、税金を納めることの大切さを知ってもらいたい。

「ビートルズと税」

札幌市立屯田北中学校 3年 中田 陽稀

唐突ではあるのだが、あなたはビートルズを知っているだろうか。最悪名前ぐらいは知っているだろう。では彼らの「Taxman」という曲はどうだろう。この曲を知っていてかつ「大好きだ」と言うのであれば、あなたはそれなりのビートルズファンであることだろう。が、この文章の本筋とは関係ないので放っておこう。

この曲を作ったのはメンバーの一人であるジョージハリスン。彼がこの曲を書く以前は彼に代表曲などなく、他のメンバーから曲を褒められることもなかった。が、一九六六年に録音されたこの曲は、メンバーであるジョンレノンやポールマッカートニーが手放しで絶賛した。理由はひとつ、彼らの不満を皮肉たっぷりに音楽という形でぶちまけたからだ。

傍からボーっと聴いているとタダのカッコいい曲だが、歌詞はこんなにブラックである。

「金の取り分を教えましょう。あなたは一、私は一九。何故なら私は税金取りだから。万が一、五パーセントでは少ないと思っても、全てかっさらわないだけ感謝しなさい。何故なら私は税金取りだから。運転するなら交通税、寒いのなら暖房税、歩くならば歩行税を。その金で何をするかは聞いてはなりません。

(ハッハ、ウィルソンさん) それ以上払いたくないなら。(ハッハ、ヒースさん) 要するにあなた方は私のために働いているのです。」

ざっとこんな感じだ。ウィルソンとヒースとは、当時のイギリスの首相と野党党首のこと。

ビートルズが世界的に有名になってきていた一九六五年。ビートルズの稼ぎはそれはそれは大層なものだったろうと予想はつく。しかし、このころのイギリス富裕層の所得税は最後税率九五パーセントだった。ウィルソン首相が社会保障制度を安定させるために決定したのだ。

稼いでも稼いでも税を取られる…。そんなことに初めて気付いて完成した曲、とジョージ本人は語っている。

この一連のエピソードを知ったときに、私はこう思った。そうか、どこか自分の国（自らの所有物、という意味で）ではないところで暮らして生活する以上はその国に税を納めなくてはならないし、どれだけのお金を稼いだり手に入れたりしても、やはり生活しているその国に税を納めなくてはならないのか、と。私はこの話を聞く二、三年前まで、プロ野球選手の年俸や、サラリーマンなどの給与は、提示された額そのままを受け取れるもの、と勝手に一人思い込んでいた。実は税が引かれている、と気付いていなかったのだ。ビートルズは私にロックだけではなく、社会のしくみ…。取り分けお金のことについても学ばせてもらった。

社会のための税金、増税。それを考えるとむやみに、「増税反対」と叫ぶ事もできないな、と「Taxman」を聴くたび思うのであった。

「税」私がこの言葉を聞いて真っ先に思いうかぶのは、「消費税」だ。「消費税引き上げ」「消費税〇パーセント」など選挙期間は立候補者の政権公約やら、政党の方針やらで連日のようにテレビや新聞で見聞きする。

デンマークでは消費税が二十五パーセントだと言う。私がこの事を知ったのは小学六年の冬だ。テレビで放送されているのを見て、頭をフライパンでたたかれたような、ものすごい衝撃をうけた。五パーセントでも普段、文具を買う時など「高いなあ」と思うのだが、「二十五パーセント!?!」私の心の中には、「何に使っているのだろうか。」「国民の批判はないのだろうか。」など疑問が次々とうかび上がった。

しかし番組を見ていると、国民の表情は明るく、自国をほこりに思っているということが伝わって来た。そして、デンマークは世界一の福祉国家だと知った。

「もっと詳しく知りたい。」と感じたので少しネットで調べてみると、デンマークでは社会格差があまり大きくないということが見えてきた。社会格差を示す係数「ジニ係数」が世界で最も低く、よって二十五パーセントの消費税もみんなが同じように負担しているという感覚を持つ事ができているらしい。

小学六年の私は、番組を見ながら、日本は福祉大国のデンマークをお手本にするべきではないか?と考えた。そしてデンマークのすばらしさに感激し、デンマークに住みたいとまで思った。

今、私は中学一年になった。改めて、日本とデンマークの消費税について考えてみた時以前とは真逆の考えになっている自分に気が付いた。なぜなら、日本とデンマークではジニ係数が大幅に違うからだ。

世界のジニ係数を調べてみると私が生まれた平成十二年の時点で日本は、アメリカ、イギリスに続いて世界第三位だった。これは予想していたが、とても残念な気持ちになった。ジニ係数が高いということは格差社会を意味するからだ。これでは、おそらくデンマークのように国民の誰もが同じように税を負担しているという感覚を持つ事は難しいだろう。今の日本で、消費税を引き上げるとしたら、お酒などの嗜好品に対しては少し引き上げ、食料品や生活必需品は五パーセントのまま、などの対策が必要だと思う。

学校の体育祭で「大縄とび」というクラス全員参加の種目がある。この種目は「調和」が大事だ。とべなかった人を責めたりしているうちは絶対にうまくいかない。税についても「調和」が大切になってくるのではないかと私は思う。どこかの国をただ真似るのではなく、高齢化社会の日本にあった方法で、格差を感じないようなやり方で、今よりさらに安心して暮らせるようになるのであれば、税金は将来への保証として「高いな」と感じなくなるのではないかと思う。

税金に感謝して…

日高市立高麗川中学校 3 年 瀧本 朋佳

私は今年の夏、入院して心臓のカテーテル手術を受けた。中学一年生の心電図検査で、WPW症候群という先天性の心臓病だと診断された。心房に指令を出す神経が正常な人は一本なのに、私の心臓には二本あったらしい。激しい運動をしても、心臓が変だと感じたことは一度もなかったから、とても驚いた。

それから一年以上変わらぬ生活を送っていたのに、二年生の冬のある朝、突然、発作が起きた。心臓がものすごい速さで鼓動して、胸が苦しくなり、目がくらんで立っていられなくなった。そのあとには、何度も同じような発作が起きた。だから、手術を決心した。

手術後は経過が良かったので、入院は五日間だけだった。でも、退院の時に請求書の金額を見て驚いた。「私の手術と入院の費用は高いなあ」と言うと「このお金は自己負担しなくていいんだよ。日高市役所に申請すると返却されるんだよ。」と母に言われた。「日高市が負担？」私にはよく理解できなかった。今年三月に通院していた時はお金が返ってくるなんて話はしていなかったの、不思議に思って聞いてみると、四月から実施になったとのことだった。知らなかったけれど、今までも小学生まで医療費自己負担がなかったらしい。それに、祖母が数年前に入院したときは、七〇歳以上の高齢者は医療費一割負担という制度のおかげで負担が軽かったとか。他の年代の人、少し負担は大きくなるけれど、平等に医療を受けることが保障されている日本の保険制度は世界の中でも進んでいる。

私の家にも九七歳の曾祖母と七八歳の祖母が同居している。曾祖母は少し認知症気味で、毎日、家で面倒を診るのは家族の負担になってきたから、週に何日か介護施設に通っている。祖母は昨年、食道癌になって入院して手術した。今も通院中だ。「毎月もらえる年金から、介護保険と後期高齢者保険を差し引かれると、ほんの少しだけ残らないのよ」と祖母が話していた。だから、私の両親が色々と負担することになる。お年寄りや子供の医療費負担が少ないことは、私の家のような大家族にはとても有難いことだ。

「でも、その負担は何处で賄うんだろう？」

そう思って調べてみると、国家予算から割り当てられていることがわかった。そして、衝撃的なことがインターネットに書いてあった。「日本の医療費は現在約四十兆円、これは国家予算の半分以上を占める。更に一〇年先は六〇兆円になる」と。高齢者が増えて老人医療費が増える、税金負担はどんどん増大していくのに、その税金を負担していかななくてはならない世代が、経済不況で失業者が増えていたり、保険料滞納者が激増していたりする。私は「私が大人になったら、頑張って働いて、たくさん税金を払える人になろう」また、「税金や保険料の滞納者がいなくなるように、何かができるといいのになあ」と考えるようになった。もっと、税金の勉強をしてみようと思う。

日本での税金の使い道で、「文教及び科学振興費」というものがある。これは、税金の中でも、学校教育を受けている私にとって深く関係のあるものだった。調べてみると、五兆以上ある費用のうち、実際に学校教育のために使われているのはその七割ぐらいで、残りの三割は科学技術の振興のために使われていることが分かった。私は、科学者が好きで研究しているものが科学技術なのであるし、その研究がすぐに社会で役立つわけではないのだから、自費で負担したほうがいいのではないか、と思っていた。けれども、母と話していて、そうではないことが分かった。

私の母は祖母から遺伝した病気を患っている。以前はその病気の進行を抑える方法がなかったので、検査をするために病院に通うしかなかった。二日に一回ぐらい点滴をしたりしなければならなかった時期もあった。祖母はその病気が悪化してしまい、入院もしたが、あまり長生きできなかった。母は、点滴を頻繁にしたが、点滴は栄養であるだけなので、よく調子が悪くなり、すごく大変だったという。しかし、数年前、その病気の進行を抑える薬が開発された。それ以降、母は、検査をしても点滴をしなくて済むようになったし、調子もあまり悪くならなくなった。薬があることだけで、すごく楽になった、と母は教えてくれた。

したがって、科学技術が発展するだけで、長生きできる人が増えたり、辛い思いをする人が減ったりすると考えられる。また、多くの人の命が救える。薬が開発されたからこそ母は救われたので、科学技術を振興させるために税金が使われていて、本当に恵まれていたのだと感じた。これからもっと科学技術が発展して、祖母や母のような境遇になる人が少なくなっていきたい。

現代では、税金の無駄遣いや、脱税が深刻な問題となっている。そんな今、私ができることは、教育をきちんと受けることだと思う。私たちは、国の税金を使って教科書を無償で配布してもらうなどの援助を受けている。それには、たくさんのお金がかかる。つまり、多くの大人たちが、一生懸命に働いて稼いだお金をたくさん納税することにつながるので、社会全体に大きな負担がかかる。それでも、税金を教育に充てているということは、子供たちに教育を受けさせ、教養がある大人を増やし、日本を明るい未来に変えたいと思っている人が多いからなのではないか。だからというわけではないが、私たちは熱心に勉強して、知識を身に付けなければならない。また、私は脱税など、国民の義務を免れることは、絶対にしない。そして、多くの国民に納税をすることで、私たちの暮らしがどれだけ良くなっているかということを伝えられる人になりたい。みんなが納税したお金で、一人でも多くの人の生活を守ったり、命を守ったりできたらよいと考える。

税金がない世界

射水市立大門中学校 3 年 橋爪 志緒里

救急車や交番が有料になった世の中を、考えたことはありますか。例えば、急に家族が倒れて救急車を呼んだとします。一刻も早く病院に向かわなければいけない状況なのに、救急隊員からはこんなふうに言われるかもしれません。

「一回のご利用につき二〇〇〇円かかります。先にお支払いをお願いします。」こんなことでは困ります。しかし、このような世の中こそが、みんなが知っている「税金」がない世界なのです。

人はみんな税を納めているはずです。私の母も、住民税、所得税、固定資産税、自動車税など、いろいろな税を納めています。もちろん私も商品を買う時に、消費税を払っています。しかし、なぜこんなに多くの税金を納めなければいけないのかと、疑問に思いました。

前に、税金は国の借金を返すためや、お年寄りの生活を支えるためにあるという話を聞きました。それを聞いた私は、「それでは、私には何も返ってこないではないか」と少し不満に思いました。そんな私の様子を見た母は、こう言いました。

「その話だけ聞いていたら、確かにあんたの言う通りかもしれんね。だけど、税金がなかったら、大変なことになるやろうね。」

その母の一言をきっかけに、私は税金について調べ始めました。調べていてまず分かったことは、私たちの身の周りは税金が使われている物であふれているということです。小さいころよく遊んだ公園、勉強机の棚に並ぶ教科書たち、毎日通う学校……。遠い存在だと思っていた「税金」がこんな身近にあって、産まれた時からずっと私を支えてくれていたことに驚きました。そして、私が一番税金の大切さを感じられたのは母が言った「税金のない世の中」を知った時です。税金がないと、公共サービスがなくなってしまうのです。つまり、当たり前のこと、当たり前の物が、当たり前ではなくなってしまうということです。最初は、本当にそんなことがあるのだろうか、と半信半疑でしたが、私の身の周りは税金が使われている物だらけ、というのを思い出し「税金」の偉大なるパワーを感じました。

「税金とは。」私の中でずっと問い続けてきた疑問。誰のために存在し、何のためにあるのか。答えは簡単です。私たちのために存在し、私たちの安全・安心な生活を支えてくれるために存在するのです。

税金を納めるのは国民の義務で、納めなければいけないから納める。それでは、本当の意味での税金を納めるということにはならないと思います。税金を納めるのは自分自身です。「税金」の意義と役割を理解することから、今後の有意義な人生は始まるのではないのでしょうか。

税金を考えてみて

関市立旭ヶ丘中学校 3 年 池戸 七美

私は小さいころから本が好きで、たくさんの本を読んできました。そのたくさん本を読める場所というのが図書館、身近にあるわかき・プラザです。小学生のころは、ここに週に一回は通っていました。自分が好きなシリーズで新しいものが出たら、すぐに借りに行ったり、予約をします。こんなに身近にあって便利な場所はないと思います。

そして、もう一つ私が便利だと思う理由があります。それは、カード一枚でお金を払わずに本が借りられるということです。私は小さいころから不思議でした。なんでこんなに本があるのに、私達はお金を払わずに本が借りられるの？図書館で働いている人はみんなボランティアなのかな？といった感じです。そんな素朴な疑問がお母さんに教えてもらってやっと解けました。税金で図書館が造られているということです。税金が使われているということは、本を借りるときはお金を払わなくていいけれど、実は私も税金としてお金を払っているんだということが分かりました。でも、税金は私だけじゃなくて関市民全員が払っています。だから、図書館はみんなのものでもあると思いました。

しかし、私はよく図書の期限を守らずに、返し忘れることがあります。それで、よく家に図書館から電話がかかってきました。なかには、次に予約している人がいます、と連絡を受けたこともありました。私は、本を期限までに返さないことが普通になっていたし、期限を過ぎていたら、しょうがないかと流してしまう部分もありました。でも、期限までに返さなかったことによって、図書館で働いている人にも、次に借りるのを待っている人にも迷惑をかけてしまいます。決して自分だけのものではない、みんなが払っている税金から作られているのにとすると、今では期限を過ぎて返していたことを申し訳なく思います。みんなが税金を払っているからこそ、私は本が借りられるのだと思いました。

図書館は税金が使われていることを知って、図書館はみんなのおかげでできているんだなということを感じました。そして、税金は公共の場やみんなが使うものに使われています。私は税金に支えられていることが当たり前になりすぎていて、深く考えたことはありませんでした。でも、よく考えたら学校も図書館も病院も税金が使われているんだなと思いました。税金は知らぬまに払っていて、知らぬまに使っている、身近なものだけど、だからこそ税金があることにありがたみを感じる大切だと思いました。これからは私も社会人になって、もっと税金を払う機会が増えるだろうけれど、払うのがいやだなと思わずに、みんなのため、この国の人のために払っていきたいと思います。

「正しく納める、正しく使う」

寝屋川市立第八中学校 3 年 川村 奈央

家族で夕食を取っていたある日のことです。テレビで政治に関する番組を見ていたら、父が「また消費税が上がるなあ。日本は一〇〇〇兆円もの借金大国だから、一〇パーセントでも足りないぞ」と話していました。

私は税金に関してあまり知識はありませんが、税金が公共事業や医療、介護福祉などに使われていることぐらいは知っていました。でもなぜ、消費税率を上げなければならないのか、また、どうして一〇〇〇兆円もの借金を抱えてしまったのか。と疑問に感じました。

日本の消費税率は二〇一五年に一〇パーセントになるそうです。そこで世界各国の消費税率について調べたところ、主要先進国のイギリス、イタリア、オーストラリア、ドイツ、フランスでは、すでに一九パーセントを超えており、主要先進国の中で日本は最下位でした。また、今年の歳入予算九三兆円に占める税収は約四四兆円、ほぼ同額の約四三兆円が借金（公債金）で財政運営されています。これが、借金千兆円を作りだした正体だと知りました。

日本国憲法第三〇条で「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負う」と納税は国民の義務であることを規定しています。

確かに消費税率が上がれば、生活に影響が出るかもしれないし、「消費税率を上げて欲しくない」「消費税を廃止して欲しい」と思う人は多いと思います。しかし、納められた税金の大半は、社会保障、公共事業、文教・科学振興などに使われており、これらによって私達はすこやかに生活できていることを忘れてはいけません。

国税庁の発表では昨年、脱税総額は二〇五億円にも上ったそうです。また、テレビや新聞では、生活保護費や介護報酬費などの不正受給に関するニュースが今も無くなりません。このように義務を果たさない人が多く存在することが、増税や借金（公債発行）増大の一因になっていると思います。

一方、税金を管理・使用する行政側においても、震災復興費を震災復興とはかけ離れた用途で復興費を流用していたことが報道されています。「税金が正しく使われない」こうした不正流用のニュースが続くことも、納税者の義務意識を低下させてしまう原因になると強く感じました。

納税者側も行政側も「借金大国日本」の現状を十分理解して、税金を「正しく納める」「正しく使う」という義務の歯車をバランス良く廻すことが、今の日本には重要だと思います。

今、私達学生は、父をはじめとする納税者の人々によって、なに不自由なく生活することができています。今のこの環境に感謝するとともに、近い将来、納税者の一人となる人間として、「正しく納める」という義務をしっかりと果たすことを決意しました。

支え合う税

岡山大学教育学部附属中学校 1 年 佐々木 晟

ぼくの祖父は昨年からガンで闘病生活をしている。大阪や倉敷で手術を受け、入院生活も長くなった。付き添いをしている祖母に

「いつも大変だけど、大丈夫？」

と、声をかけると、

「おじいちゃんががんばれるのは、みんなのおかげ。それとありがたい助けもあるんだよ。」

と医療費の補助のしくみを教えてくれた。高額な医療費の窓口負担を一定の自己負担限度額に軽減できるしくみだ。

ぼくにとって税金のイメージは消費税しかなく、なんだか損しちゃったよなあと思っていた。将来払うことばかりに気をとられて、どう使われているか考えることは少なかった。

税金は、ぼくの行く病院で支払われる医療費、ゴミ収集や救急車といった、人の命や安全を守るために使われている。もちろん僕の学ぶ学校や教科書など、教育を支えてもいる。大好きな図書館や、スポーツ施設など、数え上げたらきりが無い。ぼくの生活のひとつひとつに税金は深く関わっているのだ。

みんなも自分も、快適に暮らすための会費のようなもの、そう思えば支払うことが損だなんて思えなくなる。自分が社会のために税金を支払い、その税金が社会をよくするために使われ、自分に戻ってくる。そんなイメージができれば、税金はもっといいやつになるし、ぼくたちも社会に役立っている実感が得られるはずだ。

先日、テレビで財政破綻したデトロイト市の映像を見た。住民は治安が悪いため外出もせず、救急車も来ない。町なみは荒れ果て、人々は疲れ切っていた。税金はただお金というだけではない、人の心につながっているんだと痛感した。思いやりや助け合い、そんな言葉に似ているような気がした。

「ガンになったのはショックだったけど、医療費の補助のおかげでいろんな治療が受けられるのよ。」

祖母はほっとした顔で言った。自分がつらい立場にたった時、まわりに支えられていればどんなに安心だろう。家族や友人がいなくても、見知らぬ誰かが助けになってくれる、それが税金の力だと思う。税金の恩恵を受けること、それをただで得をしているように言う人もいるがそれは違う。自分の力だけではどうにもできない時は誰にもあるはずだ。自分の能力をフルに使って税金を払い、社会に役立つことも幸せだし、どうしようもなく困った時に社会に助けてもらえるのも幸福だ。一生の間には、どちらの立場にも立つことがあるんだろうが、そんな社会を作り出す一助にぼくもなりたいと思う。

「税金ってどんなものがあつたっけ？」

母にきいてみると、

「所得税でしょ、車も家も全部税金！」

今は消費税しか払っていないぼくだが、一生税とはつきあっていこうと心に決めた。

税金と日本国民に感謝

四国中央市立川之江北中学校 3 年 石原 聖

『この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待を込め、国民の税金によって無償で支給されています。』

教科書の片隅に小さな文字が並ぶ。これを見つけたのは小学生のころだった。低学年のころは、何回も配られる教科書にいつも書いてあり、不思議に思っていた。成長するにつれて言葉の意味を理解するようになって、あまり気にすることはなかった。しかし、義務教育最後の年、自分が思うのは『当たり前ということの尊さ』だ。

学校へ行ける、勉強ができる、必要な物、環境が整っている。僕も含めてこれらのことが『当たり前』と思っている児童、生徒は多いのではないだろうか。しかし、僕も中学三年生となり、以前より視野が広がり、世界には義務教育さえきちんと受けることのできない子どもたちがたくさんいることを知った。

僕が日々学べるのは、国民の支えがあってこそだ。大人の方々が税金を納めてくださるおかげで、学校が運営され、教科書が配付される。税制が無かったら、平等な教育を受けるところか、日々の生活でさえ厳しい状態の人でも大勢出てくると思う。そう思うと、改めて税の支えの大きさを感じる。

日本は、先進国のなかでも巨額な税金を教育分野に投じているそう。その事を知り、教科書に込められた大きな期待や、人に支えられて生きていることを実感した。僕を支えてくれているのは、親や身近にいる人だけじゃない。見えない所で、顔も知らない大人の方々が毎日汗を流して働き、それを税金として納めて下さる方々の支えもあるんだと気付いた。

国の税で育てられる僕。税は、僕にいくつもの未来の扉を開いてくれる。そのおかげで、机に向かって勉強もできる。これらは全て当たり前ではなく、必然が重なった恩恵だと気付いた。この環境に感謝し、自分を成長させていかなければならないと思う。

これからは、教科書の小さな文字に込められた思いを大切に、恵まれた環境の中で様々な事を学び、将来の日本を担うことのできるしっかりとした大人を目指し、自分の足で一歩一歩前へ歩みを進めていきたいと思う。

教科書を無償で支給してくれるのは

南島原市立口之津中学校 3 年 井上 翔斐

「外国に住んでいる国民にも無償で教科書を支給しているのは、日本ぐらいやろうな。」

と、父が言った。いったい何のことかわからなかった。教科書をただでもらえるのは、当たり前。そう思っていたが、

「教科書を作っている会社だって、ボランティアじゃないんだから、だれかがお金を支払っているはずやろ。」

「それは、国でしょ。」

「そう、つまり国民の税金やろ。」

という、会話を父としたことがある。

日本語補習校という、海外に住んでいる日本人の子どもが、日本の学校と同じような教育を受ける学校に通っていた私が、税金のことを意識したのは、その時が初めてだったと思う。

私のように日本で生まれて、数年間外国にいて、日本に帰る人ばかりが補習校に通って来ていたわけではない。私の通っていたサンフランシスコ補習校には、両親が長年外国に住んでいて、生まれも育ちもアメリカという友達がたくさんいた。両親のどちらかが日本人という家庭がほとんどだったので、髪の色も目の色も肌の色も様々だった。

中には、両親とも日本国籍ではないけれど、日本に長年住んでいた事があり、子供が日本の教育をずっと受けて育ったので、アメリカでも日本の教育を受けさせたいということで補習校に来ていた友達もいた。

そんな子供達にまで、教科書をただで与えるのは、なぜだろう。

答えは、教科書の裏にあった。

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待を込め、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

と、中三の私の教科書にも、小五の弟の教科書にも印刷されている。これは、国語も数学も理科にも社会にも、すべての教科書に書かれていた言葉だ。

「これからの日本を担う」のは、日本に住んでいる日本人だけじゃない。そんなことを私たちに伝えようとしているのではないか、と思う。だから、補習校の子供達にも無償で支給されていたのだ。

サンフランシスコ補習校の校歌は、こんな歌詞である。

「朝日かがやく 学舎に カリフォルニアの空高く 明るい笑顔 はずむ声
共に学んだ思い出を いつか世界の かけ橋に」

この歌を、私は卒業式の日心を入れて歌った。日本と世界の架け橋になれるような人になりたいと願いながら。

税金は、こんなところにもしっかりと使われているのだということを、みんなに知ってほしい。そして、これからも世界中の日本の教育を受けようとしている人に、支給し続けてほしいと思う。

「税金を大切にするために」

八代市立千丁中学校 3 年 山口 夏生

私達にとって、とても身近な税。「税は国民生活を送っていくにあたっての土台である」と言っても過言ではないくらい、私達の暮らしは税と深い関わりを持っていると思います。

しかし、「とても身近」と言うわりには、税についての知識がまだ十分でないという人も、少なくないのではないのでしょうか？

私は、中学校に入学してから、年に一度は税について考える時間を学校で設けてもらえていたので、例えば、税は、直接税・間接税や、国税・地方税といったような種類に分けられることや、税の使い道、税の納め方など、この二年間で、税に、ほとんど興味・関心を持てていなかった小学生時に比べたら、たくさん知識を得ることができました。そのおかげで、税の重要性を知れたと共に、身の回りの多くの公共施設や学習用具等、私を成長させてくれる様々なものが税で賄われていると知り、税があること、そして、納税者の方々に対しても感謝の気持ちを持つようになりました。また、感謝の気持ちを持つようになったことで、これまでより一層、教科書などの物を大切にする意識が高まり、公共の場でも「水が無駄使いしない」などといった心がけをするようになりました。

このように、ある程度の税の知識を身に付けることができれば、多くの人が、公共の場でも「物を大切にしよう」「無駄使いしないようにしよう」という考えを持てるようになると思います。もしかしたら、私達、中学生くらいの年頃だと、そういった考えを持てない人もいるかもしれません。でも、私達の義務教育期間、九年間で八百万円以上の税金が一人のために使われていると知ったらどうでしょう。少しも感謝の心や、物を大切にする心を持てない人はいないはずです。

今、世の中では、「増税」が話題になっています。私には、税についての専門的な知識までもがしっかりと身に付いているわけではないので「増税反対」・「増税賛成」とはっきり述べることはできません。しかし、国の財政が厳しくなっているのは事実です。この事実を解消するために、税の無駄を減らしていくことは、とても重要なのではないのでしょうか。そして、税の無駄を減らすためには、国民一人一人の「税の無駄をなくそう」という意識を高めることにも鍵があり、意識を高めるためには、やはり、税に関する知識が不可欠だと思います。だからまずは、多くの人が気軽に税についての知識を得やすい環境を整えることが大事なのではないのでしょうか。

私は最初、税への関心は少しだったのですが、今では「全国の政治家の方の給料を一元ずつ減らしたら、それが合わさると、結構な予算になるのではないか」などといった、自分の意見を持つくらい興味深くなりました。

それでも、知っておくべき税についての知識はまだまだあると思うので、これから学び続け、正しい納税者になろうと思います。

「義務」と「権利」

札幌市立稲穂中学校 3 年 太田 美幸

『税金——国や県、市町村が、その経費にあてるため、住民から強制的に徴収するお金のこと。』……これは、私の辞書に書かれていた一文です。

税金を払うという行為は、国のきまりであり、私達国民に課せられる、「義務」でもあります。強制的なきまりに縛られながら、お金を払うことは、誰にとっても、決して気持ちの良いものではありません。それは私も同じです。ですが私は、ある出来事をきっかけに、税金を払うことは、私達国民が持っている、「権利」でもあるのではないかと考えるようになりました。

私が中学一年生になって間もない頃、病気で父が入院し、その年の冬に、父は他界しました。父は私達家族に、優しさや、勇気の心という、心の財産を、沢山残してくれましたが、形となるお金は、自分達自身で、なんとかして行かなければなりません。ですが、母は共働きで働いてきた分けでもなく、簡単には仕事に就けません。また中学生の私や、小学生の弟が働ける分けもなく、私は不安でたまりませんでした。

そのような状況の中で、今、私達家族を支えてくれているのは、国からの、様々な形の“支援”です。「就学援助制度」「子ども医療費助成」——このような支援があったからこそ、私や弟は、元気に学校へ通い、学ぶ事ができています。

この話しを、母から聞いていた時、母は私と弟に、こう言いました。

「税金は、私達のような人の為にも使われている。国を守る為に使われている制度に、当然だなんて思わないで、感謝の気持ちを持つんだよ。」

“沢山の人が国へ納めているお金は、私達のような人にも、使ってくれているんだ！”私は、母の話しを聞いて、少し驚きました。それと同時に、“自分が税金を払う事で、確かに、どこかで誰かを救うことができるんだ、未来をつくれるんだ”そう思いました。

私達国民が、税金を払うという行為は、辞書に書いてある通り、強制的なきまりであり、私達の「義務」です。このきまりを変えることは出来ません。ですが、どんなきまりの中であろうと、「義務」であろうと、誰も、私達の“心”までは、縛ることは、きめることは、絶対に出来ません。

税金を払うということを、きまりに縛られ仕方なく行う「義務」と考えるか、誰かを守り、未来をつくって行ける、人間にしか無い「権利」と考えるか。それは人それぞれですが、私は、それは立派な「権利」だと信じて、未来へ向かって、成長して行きます。

生活を支えている税金

天童市立第四中学校 3年 清水 麻衣

夏休み、天童市はめったにない断水が続きました。観測史上初のひどいゲリラ豪雨で浄化が間に合わないことが原因でしたが、私は改めて、水道のありがたみを感じました。蛇口をひねれば衛生的な水が出てくる、あたりまえと深く考えずにいましたが、私たちの命や健康に直接関係する最も重要なことだと実感したのです。

昔は自衛隊で働いていた祖父が、
「麻衣、水道の公共施設も、おじいちゃんたちみたいな自衛隊や警察、消防の人たちの給料も、全部税金が使われているんだぞ。」
と教えてくれました。

小学校の時に、百円ショップなのになぜレジでは百五円支払うんだろうと不思議に思っていたことや、それは消費税が上乘せされるからという知識をもったくらいで、税金について私はこれまでしっかりと考えたことはありませんでした。

しかし、今回断水をきっかけに、少し調べてみると、税金が私たちの生活や命や健康というものをしっかりと支えているということがわかりました。自分の普段の一日の生活も、税金が使われなければなりたたないほどです。朝家族から出されたゴミの収集、学校までの道路の建設、整備、世の中の治安を守ってくれる警察、消防、給食費の一部援助、快適に学ぶための校舎、私の部活動の中心だったプールの建設、すべてが税金でまかなわれていると知って少し驚きました。資料によれば、小・中学校の義務教育九年間でかかる費用は約八百万円だそうです。その金額を親が負担しなければならないとすれば、親がリストラされたり、シングルマザーで収入の少ない家庭の子は教育を受けられないことになってしまいます。税金のおかげで、教育の機会が平等に与えられているのです。

そこでひとつ疑問がわきました。子供のいる家族は自分たちの払った税金がまわりまわって、子供たちのために使われています。が、子供のいない人は、損しないんだろうかと不思議になったのです。そこで母にきいてみると、

「確かに今は夫婦だけやひとり暮らしの家庭も多いけれど、日本の子供たちがしっかり学習して、自分の頭で考えられる健康な大人に成長すれば、世の中全体が安定して、自分たちの暮らしもよくなるから結局はみんなが幸せになれるんだよ。税金は助け合いの精神も入っていると思うな。」

災害、福祉、介護、生活保護、全員がお世話になるわけではありませんが、自分は絶対大丈夫とは誰も言えません。世の中全体を良くし、国民一人ひとりが安心して暮らせるための費用、それが税金なんだなと強く思いました。

中学生の私は、現在は税金のお世話になるばかりです。しかし社会人になって働き始めたらきちんと税金を納めるよう決心しました。

「子どもにツケをまわさない」

以前、車で隣町を走っている時、あちらこちらに立っている、そんな、のぼり旗が目についた。母に尋ねると、選挙活動の政策メッセージだという。軽い気持ちでながめていたが、後に具体的な現実を知り、愕然とした。

八月に財務省は、国債や借入金などをあわせた国の借金の残高が二〇一三年六月末の時点で千八兆六千二百八十一億円になったと発表。千兆円を突破したのは初めてだという。七月一日時点の総務省の人口推計をもとに単純計算すると、国民一人当たり約七百九十二万円の借金をかかえていることになるのだそうだ。

わたしたちは、納めた税金以上の生活をしてきてしまっているのか。

東日本大震災をはじめ不測の事態への対応といった突然かつ不可避なこともあるとはいえ、毎年、毎年増加の一方をたどる数字に漠然とした不安を感じずにはいられない。

日常生活を、あらためて見渡すと、本当に多くの税の恩恵を受けている。それは、道路などの交通網、学校、救急車といった目に見えるものから、保健医療制度や福祉施設といった目に見えないものまで、実に数えきれないほどだ。安心、安全、便利な、当たり前の日々は、計画的に、税金によって形作られたといえるだろう。この与えられた、いや、先人に与えてもらった文化を守り、次世代へつないでいくために何をするべきか。

人間が、これほどまでに繁栄できたのは、野生における自然の摂理、いわゆる弱肉強食という生物本来の宿命から脱し、社会を作って、お互いが助け合ってよりよく長く生きていこうとする意識と行動があったからに他ならないと思う。そして、それを実現させる手段が税であったのだ。しかし、いつしか、税が生活を苦しめる悪者のような表現が横行するようになり、特別、困窮しているわけでもないのに、どうしたら、税金を納めなくてすむか、どのようにしたら、税金が安くなるかといった、できるだけ払わなくていいように生活スタイルや働き方を考えるというスタンスを広く目にする。新聞や雑誌の特集記事はもちろん、ニュースのインタビューでさえも。老若男女を問わず堂々と。相応の見返りを求めたり、個人の損得勘定でとらえることにはこの先、とんでもない結末がまちうけているような気がして無性に悲しい気持ちになる。

このままで世論を変えるのは難しい。おそらく、今、税制度は、将来に向けて、希望をつなぐために歴史的なイノベーションを図るときにさしかかっているのだ。変化を恐れず、わたしにできることがあれば惜しみなく手を携え、そして、いずれは、社会を背負う生産年齢人口の一人として、意気揚々と誇りを持って税を納められるような自分でありたい。

「税の優しさ」

新宿区立落合第二中学校 3 年 重松 雅明

僕が税というものをはじめて意識したのは、小学校五年生の頃、父を亡くした時でした。名義の変更のため、次から次へと送られてくる書類を母は必死になって読み返し、書き込んで送り返していました。僕にはまだ何もわからなかったのも、母は中学二年生の姉に相談しながら書いていました。ただ、「都民税、区民税、固定資産税、どうしてこんなに払わなければならないの。」と言って疲れきった顔をしている母を見て、僕は「税金は悪いやつだ」と思っていました。

名義の変更もようやく一段落した頃、僕は母と一緒に新宿区役所に行きました。母はひとりで行くからいいと言っていました。またそこで税金を払うように言われた時、きつとがっかりするであろう母を励ましてあげたいと思い、ついて行きました。僕たちは「子ども家庭部、子ども家庭課育成支援係」に行き、そこで担当の方から説明をして頂きました。母の横で不安そうな顔をしていた僕にもわかるように、その方は丁寧に説明してくれました。就学援助のこと、ひとり親保健のこと、児童扶養手当のことなど。説明が終わり、最後にその方は、僕に向かって「これからはお父さんにかわってあなたが、お母さんを支えてあげるんだよ。頑張ってね。」と言ってくれました。最初、ここに来た時は本当に暗い気持ちだった僕は母は、その方のおかげで帰る時には全く違った明るい気持ちになって区役所を出ることができました。そして僕たちのような母子家庭を支えてくれているこのような制度はすべて税金のおかげであることをあとから母に教えてもらいました。

税金とは決して僕たちを苦しめるもの、冷たいものではなく、むしろ心のあたたかみを持った優しいものであることに母子家庭になってはじめて僕は気付かされました。

今、僕は中学三年生です。高校受験を控えています。もし両親がいて、お金のことなど全く心配することのない家庭環境だったら、「高校授業料無償化」といっても僕は何とも思わなかったかもしれません。それどころか、受験勉強に対するストレスを母親にぶつけていたかもしれません。でも、今の僕は違います。高校授業料無償化が税金によって賄われているということに感謝しつつ、必ずこの受験勉強を乗り切ってみせたいと思います。そして僕たちが将来、大人になって払う税金は、必ず自分たちや、僕のように親を亡くして苦しんでいる人たちを支えてくれます。そのことを理解し、国民の義務である「納税の義務」をしっかりと果たせる大人になってみせます。

形を変えて

甲府市立笛南中学校 3 年 柿嶋 陽太

広島に平和の鐘が響きわたる。原爆投下から六十八年目を迎えた、八月六日。私は、市の派遣団のひとりとして、甲府市民を代表し、平和記念式典へと参加した。実は、この派遣団の旅費はすべて、市民の皆さんが納めている税金でまかなわれている。中学生に戦争や核兵器の恐しさ、平和へのあり方について考えてほしいという、市の思いからだ。

私は唯一の被爆国の国民という自覚が薄かった。また、小さい頃から、「戦争はいけないことだよ。」と、何度も教えられてきたけれど、実際に戦争を体験せず育った私は、戦争に対して関心さえ示していなかった気がする。

ただ、今は違う。広島で戦争にふれ、平和にふれたことで、六十八年前のありのままの広島を知った。国内外の平和への思いを知った。私のあたりまえの日常が、あたりまえではないことを知った。戦争や核兵器のないことがかならずしも「平和」とは限らない。でも、少なくとも戦争や核兵器のある状態が「平和」とは言えないと、心から感じることができたのだ。

このような、大切なことに気づくことができたのも、市民の皆さんが、「税」という形で私たち中学生に投資してくれたからである。

しかし、「税」に対してニュースで取り上げられるのは無駄遣いのことばかり。だから、私もなんとなく「税」に対して不信感を抱くことも多かった。

しかし、ある日の授業中、先生は言っていた。「権利は義務を守るから生まれるのだ。」と。私たちが義務として納めている税金が未来の社会へ「投資」され、一人ひとり平等な権利として生まれ変わってくる。税金が形を変えて、水道や道路、公園や病院、学校など数え切れない場所を豊かにし、ありふれた日常のどこかで、誰かが納めた税金が誰かを豊かにしている。

そんな、自分たちの明日を築く、社会のシステムに気がつく、町の、国の、私を支えてくれるたくさんの人たちに、そして、形を変えてこの国の、私たちの未来を創りだす、「税金」に感謝の気持ちでいっぱいになる。そして、日々その感謝の気持ちを忘れないでおこうと思う。それが、普段お世話になっているたくさんの人たちや税金への、一番の恩返しになると思うから。

だからこそ、もっと多くの人たちに税が果す役割に興味、関心を持ってもらわなければいけないと思う。私たち一人ひとりが税を納めること。それが、私たち自身の生活を潤し、豊かな社会を築くために必要不可欠なことであり、少しずつ感じてもらいたい。

私は、「法律で定められているから。」などではなく、自分から進んで「納めよう。」という意識を持ちたいと思う。自分の納めた税金が、形を変えて誰かを豊かにできると思うから。

介護と税について

津幡町立津幡南中学校 1 年 鈴木 浩太郎

夕方 6 時半から 7 時の間、母が夕ごはんの準備で忙しい時、家にはよく電話がかかってくる。家の近くのグループホームに居る祖父からだ。「じいちゃん、今から帰るから、迎えに来て。」「じいちゃんは、今日はそこでお泊りだよ。」「なんで？」

祖父は 84 歳。認知症だ。今年に入ってから身体の具合が悪くなり 2 ヶ月ほど入院していた。その間に認知症も進み、身の回りのことができなくなった。それで退院後は、家に変えることなく、グループホームに入所した。

祖父の電話はすぐ納得してくれて、プツンと切れてしまうこともあるが、「じゃあ、じいちゃんは、もう家に帰られんのか。」と怒り出すこともある。どちらにしても、電話が終わった後は、すごく悪いことをしているような、暗い気持ちになる。

祖母も 82 歳と高齢で、自分の事で精一杯な状態である。とても祖父の世話までは、できない。母も仕事をしているので、祖父を家に連れてきたら、仕事を辞めなければならなくなる。それでは経済的にやっていけない。本当は祖父の願いどおりに、家に連れてきたいが、無理なのが現実だ。だから、せめて祖父の淋しい思いが、少しでも少なくなるように、できるだけ会いに行っている。

介護サービスを利用する際には、2000 年に導入された介護保険が適応される。その財源は、40 歳以上の人納める保険料が 50% で、残りの 50% は、国や県や市町の負担でまかなわれている。言い換えると、介護保険の費用の半分は、税金が使われているということである。

国の歳出、つまり税金の使い道の中で、社会保障関係費というのがある。予算の中で 29.2% を占める。社会保障とは、僕たちが安心していくために必要な「医療」「年金」「福祉」「介護」「生活保護」などの公的サービスを指す。

1960 年代は、失業対策や生活保護などが中心だったが、次第に医療保険や年金制度などの社会保険や、老人福祉を中心とする社会福祉、介護などに重点が移ってきている。

ぼくは、これまで税金の使い道と言えば、教育や医療、道路等の公共設備に当てられているとしか理解していなかった。

しかし、税金が介護保険にも使われていると知り、僕の祖父のこともあって、身近に感じられるようになった。また、税金を納めることの重要性を理解した。

将来、祖父のような人が、安心して自宅で生活することができる介護サービス、母が安心して仕事に出ることができる介護サービスが、僕の納める税金で、できるようになってほしいと思う。税金を上手に使って、介護が必要になった高齢者が、家族と一緒に、安心して住み慣れた自宅で暮らせるような世の中にしたい。そのためには、しっかり働いて、しっかり納税できる人間になりたい。

ありがとう

江南市立古知野中学校 3 年 田中 優衣

今、私は税金に感謝して生きている。

私は、毎日、当たり前のように中学校に通っている。新しい学年になれば新しい教科書がもらえ、暑くなれば扇風機を使い、寒くなればストーブを使う。授業中は、いすに座り、机の上で字を書き、勉強する。清掃活動中は、ほうきやりとりを使って掃除をする。私たちが安全に過ごせるように、耐震工事をすることもある。これらを実現させているのは税金だ。学校ではほとんどに税金を使っている。

学校以外でも、身近なところで税金が使われている。普段、普通に歩いている、整備された道路。暗くなると、私たちの安全のために明るくしてくれる、街灯。二十四時間、安全を守ってくれている、信号機。その他にもゴミの処理、警察、消防、救急車など、いろんなところで税金が使われている。

では、その税金は、どこからきているのだろうか。

その答えはとても身近なところにあった。私たちが買い物をしたときに払う消費税だ。中学生では消費税くらいしか納めることができないが、働き始めると住民税や所得税、家や土地にかかる固定資産税など、消費税以外にもたくさんの税制度がある。つまり、今過ごせている環境のほとんどは、親やそのまた親が納めてくれた税金のおかげなのだ。いつか、私も消費税以外の税金を納めるようになったとき、次の世代へつなぐ責任がある。

こうやって、ひとりひとりが国民の義務として納めた税金は、やがて、いろんな形で私たちの支えとなり、私たちのもとへ返ってくる。税を納めることがたくさんの人の支えや手助けとなり、自分も気付かないうちに手助けを受け、支えられる。

私は心から税金に感謝したい。当たり前の日々は税金によって支えられていること知った。私たち国民が税金を納めるからこそ、人は支えられて生きていくことができるとわかった。今まで私は、税金は「とられている」ものだと思っていた。百円のお菓子を買う時についてくる、いらない、おまけの「あの五円」を払うたびに、損をした気分になっていた。しかし、今は、税金はお互いを「支え合う」ものだと思っている。

これから社会を担っていく私たちは、税金がどう使われているか、どう使われるべきであるかをしっかりと考えるべきだと思う。そうすれば、税を納めることに不満やためらいがなくなり、いつか「支え合う」ものだと気付くだろう。私は大人になったとき、働いて稼いだお金が世の中の人のために使われることを喜べるようになりたい。

百円のお菓子を買う時についてくる、必要な「あの五円」は、未来の私たちの当たり前の日々の一部になります。税金さん、当たり前の日々を、ありがとう。

「私達の暮らしを支える税」

笹岡市立笹岡東中学校 1 年 伊木 美岬

税金とは、辞書で調べると「公共サービスや公共施設の費用をみんなで出し合って負担しているお金」と書かれています。具体的には、所得税や住民税、固定資産税、国民健康保険税、その他にも自動車税、消費税、酒税等、様々な税金があり、納税は国民の義務となっていました。

そして、その税金によって学校や図書館、公園といった公共施設の建設、整備、環境が充実し、警察や消防があることによって、安心・安全な町づくりが行われています。また、高齢化社会である現代、医療や年金、福祉といった社会保障にも多くの税金が使われていることを知りました。

しかし、こうした税金をきちんと納めている人がいる一方で、税金を納めていない人がいるということも聞こえてきます。そこで、私なりに考えてみました。例えば、児童手当について、子供がいない人にとって児童手当なんて私には関係ないと思っていないでしょうか？医療に関して。私は病院には行かない。病気にならないから納める必要がないと理不尽なことを言っていないでしょうか？また、年金についても、いくら納めても自分達が高齢になった時、本当に年金がもらえるかわからない。だから、払う気持ちになれない。そんなふうを考えたり、思う人がいるんじゃないかと思います。

しかし、こうした考えは税金を納めなくてもいいという理由にはならないと思うのです。確かに、直接自分に関わらないものもあるかもしれませんが。だからといって、自分の払った税金だけで生活できるわけでもありません。自分にとって必要なものには払うけど、自分にとって関係ないと思っているものには払わない。これでは、自分勝手ではないでしょうか？実は、こうした人も多くの人が払っている税金に助けられていることに気づいていないだけなのだと思います。

税金が様々なことに使われるのは、それを必要とする人をみんなで助け合い、負担することですべての人が、健康で豊かな生活を送ることができるようになるためです。

税金は私たちの生活を支えています。その支えがなくなれば、その上にある私達の生活は支えを失い、崩壊してしまいます。だから、みんなで考えていかなければならないと思います。

「ONE FOR ALL ALL FOR ONE」という言葉があります。みんなが意識していくことで、税も未来もきっと変わると思います。

助け合い、支え合いの税

東みよし町立三好中学校 1 年 村上 和美

今年の四月はとても忙しかった。私は中学校に入学。三才上の姉は高校に入学。その上、両親ともに勤務先が変わり、一家全員が新生活のスタートを切ることとなった。

家族全員が、新しい環境に早く慣れようと必死に頑張っていた頃、祖父が急に入院することになった。両親の帰りが遅いので、祖父がいつも私たち子どもの面倒を見てくれていただけに、祖父の入院はわが家の大ピンチとなった。私も学校のことだけではなく、できる範囲で家の手伝いもした。祖父は、二週間ほど入院して無事に退院できるようになった。そのとき、祖父が教えてくれたのだ。「入院したら、ようけお金がかかると思ってたけど、税金のおかげで少しですんでよかったわ。和美も病院に行っても少ししかお金がいらんのだよ。」と。

私はこの時初めて、税金のありがたさが分かった。祖父の言う通り、私が病院にかかっても一ヶ月・一医療機関あたり六百円までの自己負担ですむそうだ。祖父の入院や治療費を助け、支えてくれた税金に改めて感謝するとともに、税についてもっと深く考えてみようと思い始めた。

小学六年生の時の租税教室で、税金がある世界と税金がない世界のDVDを見たことを思い出した。税金がない世界では、救急車を呼ぶのにも、ゴミ収集車が来るのにも、お金が必要だった。泥棒がいても、つかまえる警察官がいないので、町の治安が悪くなる。火事が起こっても、消してくれる消防車も消防士もいない。税がないと安全で快適な生活ができなくなると改めて思った。

私は、祖父の退院後、税についてインターネットや本で調べるようになった。私たち子どもも納めている「消費税」が一番身近に感じられる税である。その消費税が、二〇一四年に八%、二〇一五年には一〇%に引き上げられるようだ。うわあ、高いなあと思っていたけど、デンマークのように消費税二五%という国もあり、びっくりした。税の負担は大きいのに、世界一幸福な国ランキングの一位だと知り、さらに驚いた。医療、教育、介護などにかかる費用は無料で、国民は自分の払った税金の使い道が目に見えてわかるので、高い税金でも受け入れているということであった。日本には日本の事情があるので、デンマークのまねを全部できるわけではない。しかし、自分たちの納めた税金がどのように使われているのか、むだづかいはないのか、きちんと知って納得する必要があると思う。

私は、税は「助け合い金」「支え合い金」だと思っている。祖父の医療費を助けてくれたように、将来、今度は私がきちんと納税して、助け合い、支え合える社会の一員になりたいと思う。そして、もっと税のことについて学び、税が大切に使われる社会をめざしたいと思う。

人を笑顔にする税金

聖和女子学院中学校 3 年 塚元 志津久

ある日、私は世界の「税」事情を比較するという番組を見た。その中では消費税が高い国をランキングしてあり、デンマーク、スウェーデン、アイスランドなどの北欧の国々が上位を占めていた。それらの国は二十四～二十五・五％程の税を納めなければならず、その代わり福祉制度は充実しているという。それに対して日本は五％で最下位だった。私はこの番組を見て税についてもっと知りたいと思い、税金の収支について調べてみた。

税金の支出を割合別に見ると、第一位は医療、年金、福祉などの「社会保障関係費」で、全体の四分の一以上を占める。第二位はほぼ同じ割合で「国債費」、以下「地方交付税交付金」、「公共事業関係費」の順である。一方収入の割合は、第一位が何と国の借金である「公債費」で約三割だった。第二～三位に「法人税」と「所得税」が続き、第四位である「消費税」は十三％程を占めていた。つまり租税によって得られた収入が高齢者の医療費や老人ホームなどの施設に使われていることが分かった。もちろん、税金をたくさん払っている方が福祉制度が充実しているので、北欧の国々が上位だったことにも納得できた。

私には祖父がいる。祖父は、私が幼い頃脳梗塞を起こし左半身に麻痺が残ってしまった。当初は祖母が面倒を見ていて、私も母に連れられて祖父のリハビリの送迎をしていた。しかし二度目の発作に見舞われた後は、祖母も認知症を発症し、祖父の介護が難しくなってしまった。そして祖父は老人福祉施設への入所を余儀なくされ、祖母もまた定期的に病院に通うようになった。そんな中で祖母は言うのである。

「医療費は一割負担ですむから助かるし、何よりじいちゃんの面倒を見てもらえてありがたい」と。本当にその通りだと思う。祖父母の笑顔は税金によって守られているのだとつくづく感じる。

祖父のいる施設へ行く途中にトンネルがある。数年前にできたそうだが、ずい分便利になったそう。実はこのトンネル工事にも税金が使われている。道路とは、誰もが使う公共のものだ。他にも、文化的な建物の補修や義務教育の教科書も税金でやりくりされていることが分かった。つまり、多くの人々が必要とするものや、未来に残すべき建物や施設の工事は、実は国民の手でなされているということになる。

私は思う。自分自身の未来のために、税金を納めることは欠かせないことなのではないかと。そして税の大切さを国民一人一人が理解し、私の祖母のように「ありがたい」という気持ちを持てば、日本は今よりもっとよくなると思う。将来、私も本格的に税金を納めなくてはならなくなる。そのときが来たら、私も胸を張って社会に大きく貢献できるようになりたい。

父の命を繋ぐもの

大分市立城東中学校 3 年 新名 ひとみ

「税金って何に使われているの？」

ニュースを見ていて気になった私は、母に聞いてみました。すると母は、一枚の紙を私に見せてくれました。それは「健康保険限度額適用認定証。」というものでした。

私の父は今「多発性骨髄腫」という血液のガンになり、約 1 年前から闘病生活が続いています。病気が診断されたとき、これからの病気の治療費や父が働けなくなったことで、母は父の体のこととこれからの生活についてとても悩んだそうです。そして母は何か社会保障を受けられないかと思い、病院のソーシャルワーカーに相談したところ、窓口での支払いを軽減できる制度があると聞きました。それは「高額療養費制度。」というものです。

高額療養費制度とは、医療費の家計負担が大きくなならないよう、医療に関する自己負担額が、1 か月単位で一定の額を超えた場合にその超えた分の金額を国が保障してくれる制度です。

そして、父に交付された「健康保険限度額適用認定証。」は、長期にわたり高額な治療を要する人が事前に病院へ提示することで、一ヶ月単位で一定額に達した場合、一定額以上の支払いをせずに済むという証明書です。

この「健康保険限度額適用認定証。」がなかった頃は、一度病院に 3 割負担分の医療費を支払い、後に高額療者として申請を出して、定額を超えた分の金額が支給されていたそうです。そうすると、一度は治療費や入院費をたくさん用意しなければなりません。私の父が約半年でかかった医療費は「高額療養費制度」を使い、約百六十八万円かかる医療費が支払ったのは約四十万円でした。ということは、約百二十八万円を支払わなくてすむようになったということです。

このお金も社会保障関係費。つまり「税金」です。

私は母の話聞いた後、色々な考えが頭に浮かびました。私は税とは私達が払い使っているものだけれど、何に使われているかは分からず、ありがたみを感じたことはほとんどありませんでした。しかし、この保険制度があるおかげで、私達家族もお落着いた生活ができ、父も気をおわずしっかりと治療を受けることができます。

私達が普段過ごしている生活の中にも、税金で作られたりしているものはたくさんあります。国によっては税金がなかったりという国がありますが、私はこの国に生まれてくることができるととても嬉しいです。今の日本でも、税のおかげで救われた命。税のおかげで暮らせる人達も多くいます。

お年寄りや若い人、年齢を構わずもっと多くの人に興味、関心をもち、知ってほしいです。

健康を支える助け合い

うるま市立具志川東中学校 2 年 大城 光輝

ぼくは、昨年十二月五日に家族である妹を病気で亡くしました。まだ、生後十一ヶ月の小さな命でした。妹は、産まれる前からとても重い病気にかかっていることが分かっていて、心臓や肺さらに脳に大きな穴が空いていました。初めのうちは「死んだまま産れてくるかもしれない。」と医者に言われていましたが、元気に生まれて来てくれました。ぼくはうれしくてずっと泣いていました。しかし、医者「いつ死んでもおかしくない。」と言われ、妹は I C U という特別な部屋に入りました。もちろん母は、ずっと付きっきりで、父は仕事が終われば、すぐ病院という形だったので、ぼくと弟は、祖母の家でしばらくの間生活していました。部活動の野球を休んで弟のめんどうを見る日も何日かありました。父の働いたお金は、八割妹の医療費や手術費などに使われました。もちろんそれだけで、お金が足りるはずがありません。そこで、父に、「残りのお金はどうしているの？」と聞きました。すると父は、「医療費の九割以上は国の税金で賄われているから、足りないお金は国の人々に助けてもらっているんだよ。」と言いました。その時ぼくは始めて税金に感謝しました。その日からぼくは、「妹みたいな子はまだいっぱいいるんだ。」と思いコンビニの募金箱に積極的にお金を入れるようにしました。

妹は、三度にもおよぶ大手術をのりこえ、生後九ヶ月の時に退院し、お家でのかいごとなりました。妹は、とても表情が豊かで、よく笑いました。それから二ヶ月がたったある日、妹の心臓が止まってしまい、緊急入院しました。ぼくは、学校をぬけ出し急いで病院へかけつけました。妹は心臓マッサージでどうにか一命をとりとめました。ぼくが一度家に帰り昼食を食べて、弟のめんどうを見ていると、「また妹の心臓が止まった。」と電話があり、急いで病院へかけつけましたが、ぼくが病院についたときにはもう妹は亡なっていました。ぼくは、泣きました。その日も、翌日も、その翌日も、妹のことを思い出すたびにぼくは泣きました。妹は、一日一日を一生懸命に生きました。そしてその一日一日は、国の人々の税金によって支えられました。ぼくは、いつか大人になったら、妹のように世界の恵まれない子ども達のために全力をつくしたいと思っています。ぼくは絶対に忘れません。妹の一日一日を国の人々の税金によって支えられていた事と決して人生の一日一日を生きられることが当たり前ではないことを。